デジタル一眼レフカメラ

D80

使用説明書

この使用説明書について

この使用説明書では、以下のような方法で、知りたいことを簡単に探し出すことができます。

目次 から

撮影、再生、メニューなど、項目別に探すことができます。

目的別かんたん検索 から

使いたい機能や知りたい機能を、かんたんに探すことができます。
機能名がわからなくても大丈夫です。

索引 から

さまざまな項目が五十音順に一覧にまとめられているので、
機能名や用語がわかっているときに便利です。

警告メッセージ から

表示パネルやファインダー、液晶モニターに表示されている警告メッセージから、
今のカメラの状態を知ることができます。

故障かな？と思ったら から

カメラの動作がおかしいときに、原因を調べるのに役立ちます。

ヒント ヘルプ機能について

このカメラにはヘルプ機能が付いています。メニュー操作時などに、液晶モニターでその項目の意味などを調べることができます。詳しくはP.4をご覧ください。

ヒント 「見て聞くマニュアル」デジチューター

デジチューターでは、インターネット上でD80の基本的な操作方法を、動画や作例写真を交えながら説明しています。詳しくはhttp://www.nikondigitutor.com/をご覧ください。

目次

付録 159

目的別かんたん検索

使いたい機能や知りたい機能から、説明が記載されているページをかんたんに調べることができます。

カメラの○○について知りたい

使いたい機能・知りたい機能	キーワード	ページ
メニューの操作方法がわからない	メニューの操作方法	10
メニューの意味を知りたい	ヘルプ機能	4
表示パネルやファインダーの表示の意味を知りたい	表示パネル、ファインダー	6、7
表示パネルや液晶モニターの警告表示の意味を知りたい	警告メッセージ	180
使用中のSDカードであと何コマ撮影できるのか知りたい	SDカードの残量を確認する	23
バッテリーの残量を確認したい	バッテリー残量の表示	22–23
露出について知りたい	露出とは	55
付属品のアイピースキャップの用途を知りたい	セルフタイマー、リモコン	44、46
どんなスピードライト（フラッシュ）が使えるの？	装着できるスピードライト	163
どんなレンズが使えるの？	装着できるレンズ	160
D80で使えるアクセサリー（リモコン、ACアダプターなど）を買いたい	D80用別売アクセサリー	170
SDカードを買いたい	推奨SDカード	169
どんなパソコン用ソフトウェアがあるの？	D80用別売アクセサリー	170
カメラを点検や修理に出したい	アフターサービスのご案内	201
カメラを掃除したい	カメラとレンズのお手入れ	171

カメラの設定を○○したい

使いたい機能・知りたい機能	キーワード	ページ
再生時に画像の一部がチカチカと点滅するのを直したい	ハイライト表示	75、76
ファインダーをはっきりと見えるようにしたい	視度調節	21
液晶モニターがすぐに消えないようにしたい	液晶モニターのパワーオフ	132
内蔵時計の時刻を合わせ直したい	ワールドタイム	17、138
海外に行くので、内蔵時計を現地時刻に合わせたい	ワールドタイム	17、138
液晶モニターの明るさを調整したい	液晶モニターの明るさ	139
最初の設定に戻したい	ツーボタンリセット	52
ピント合わせ時に発光する光（AF 補助光）を出さないようにしたい	内蔵 AF 補助光の照射	115
構図を決めやすいようにファインダーに格子線を出したい	格子線表示	117
暗いところで表示パネルを見たい	イルミネーター	4、125
表示パネルやファインダー内のシャッタースピードと絞り値がすぐに消えないようにしたい	半押しタイマー	23、132
セルフタイマーの時間を変更したい	セルフタイマー	44、132
リモコン撮影の受信待機時間を変更したい	リモコン待機時間	46、132
撮影時にピピッという電子音が鳴らないようにしたい	電子音設定	113
メニューを全部表示させたい	メニュー表示切り換え	136
メニューに表示される言語を変えたい	言語	139
画像に付けられる番号（ファイル番号）が、SD カードを換えても続き番号になるようにしたい。ファイル番号をリセットして 1 から始めたい	連番モード	143

撮影するときに○○したい

使いたい機能・知りたい機能	キーワード	ページ
とにかく簡単に撮影したい	オート撮影モード	22
撮影シーンに合わせて簡単に撮影したい	デジタルイメージプログラム	28
背景をぼかして、人物をきれいに撮りたい	ポートレートモード	28
風景や街並みを色鮮やかに撮りたい	風景モード	28
花や虫に近づいて大きく写したい	クローズアップモード	29
動いているものにうまくピントを合わせて撮りたい	スポーツモード	29
きれいな夜景を撮りたい	夜景モード	29
夜景や夕焼けを背景に記念写真を撮りたい	夜景ポートレートモード	29
1コマ撮影と連続撮影（連写）を切り換えたい	撮影動作モード	43
セルフタイマーを使って撮影したい	セルフタイマー	44
別売のリモコンを使って撮影したい	リモコン	46
露出を自分で決めたい	**P**、**S**、**A**、**M**モード	54
動きの速い被写体を写し止めたり、川の流れなどの流動感を出したい	撮影モード**S**（シャッター優先オート）	57
背景をぼかして被写体を浮かび上がらせたい	撮影モード**A**（絞り優先オート）	58
画像を明るく、または暗くしたい	露出補正	64
花火や天体写真、自動車のライトの流れを撮影したい	長時間露光	60
フラッシュの設定を変更したい	フラッシュモード	48
暗い場所でフラッシュが自動的に光るようにしたい	自動発光	49
フラッシュが勝手に光らないようにしたい	発光禁止	49
瞳が赤くならないようにしたい	赤目軽減発光	49
フラッシュを使わずに暗い場所で撮影したい	ISO感度	51
オートフォーカスの設定を変更したい	オートフォーカスで撮影する	32
動いている被写体にピントを合わせたい	AFモード	34
ピントを合わせる位置を自分で選びたい	フォーカスエリア	35
ピントを合わせてから構図を決めたい	フォーカスロック	36
大きくプリントするための画像を撮影したい	画像サイズ、画質モード	39～41
撮影できるコマ数を増やしたい	画像サイズ、画質モード	39、187
電子メールで送る画像を撮りたい	画像サイズ、画質モード	39、187

撮影した画像で○○したい

使いたい機能・知りたい機能	キーワード	ページ
撮影した画像をカメラで見たい	画像をカメラで再生する	74
撮影した画像の情報を詳しく知りたい	画像情報の表示	75
いらない画像を 1 コマずつ消したい	画像を削除する	30、80、96
いらない画像をまとめて消したい	削除	96
画像を拡大して、ピントの具合を確認したい	拡大表示	78
大切な画像なので、誤って削除しないようにしたい	プロテクト	79
画像をスライドショーにしてカメラで見たい	スライドショー	97
画像をテレビで見たい	画像をテレビで見る	81
テレビで音楽付きのスライドショーを見たい	Pictmotion	97
パソコンに画像を転送したい	画像をパソコンに転送する	82
画像を印刷したい	画像をプリンターで印刷する	85
カメラとプリンターを直接接続して印刷したい	ダイレクトプリント	86
日付を入れて印刷したい	日付プリント	88、93
プリントサービス店にプリントを依頼したい	プリント指定	93
暗くなってしまった部分を明るく修正したい	D-ライティング	150
フラッシュで瞳が赤くなってしまった画像を修正したい	赤目補正	151
画像から必要な部分だけを切り出したい	トリミング	152
撮影した画像をモノクロやセピア色にしたい	モノトーン	153
撮影した画像の色を変えたい	フィルター効果	154
撮影した画像のサイズを小さくしたい	スモールピクチャー	155
2コマの画像を 1 コマに合成したい	画像合成	157

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は、次のようになっています。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告（カメラとレンズについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

バッテリーを取る

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかにバッテリーを取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。

バッテリーを抜いて、ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

使用禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと

事故の原因となります。

発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと

視力障害の原因となります。

特に乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。

保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告

ストラップが首に巻き付かないようにすること

特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息の原因となります。

使用禁止

AC アダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

警告

指定のバッテリーまたは専用 AC アダプターを使用すること

指定以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠ 注意
（カメラとレンズについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になります。

保管注意

製品は幼児の手の届かないところに置くこと

ケガの原因になることがあります。

保管注意

使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。

移動注意

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。

使用注意

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従うこと

本機器が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与えるおそれがあります。病院で使う際も、病院の指示に従ってください。

禁止

プラグを抜く

長期間使用しないときは電源（バッテリーやACアダプター）を外すこと

バッテリーの液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。

発光禁止

内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと

やけどや発火の原因となることがあります。

禁止

本機器やACアダプターは布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと

内部の部品に悪影響を与え、火災の原因となることがあります。

禁止

同梱のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと

機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼす場合があります。

⚠ 危険
（専用リチウムイオン充電池について）

禁止

バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

バッテリーをショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

専用の充電器を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと

ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。

持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。

使用禁止

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e は、D80 に対応しています。EN-EL3e に対応していない機器には使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

危険

バッテリーからもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告
（専用リチウムイオン充電池について）

保管注意

バッテリーは幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめること

液もれ、発熱の原因となります。

警告

バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービスセンターやリサイクル協力店へご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

⚠ 警告
（専用リチウムイオン充電池について）

警告

バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因になります。

⚠ 注意
（専用リチウムイオン充電池について）

バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。

⚠ 警告
（クイックチャージャーについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

バッテリーを取る

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

警告

電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること

そのまま使用すると火災の原因になります。

使用禁止

雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

禁止

電源コードを傷つけたり加工したりしないこと

また、重いものを載せたり、加熱したり、引っ張ったり、無理に曲げたりしないこと

電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。

感電注意

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと

感電の原因となります。

⚠ 注意
（クイックチャージャーについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

放置注意

製品は幼児の手の届かないところに置くこと

ケガの原因になることがあります。

お使いになる前に

ニコンデジタル一眼レフカメラD80をお買い上げくださいまして、まことにありがとうございます。

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、D80での撮影を楽しむためにお役立てください。

カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

表記について

- SDメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。

商標説明

- Microsoft® および Windows® は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh®、Mac OS、QuickTime は米国およびその他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。
- Adobe、Adobe Acrobat、Adobe Reader は Adobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標または特定地域における同社の登録商標です。
- Pentium は米国インテル社の登録商標です。
- SD ロゴ、SDHC ロゴ、および PictBridge ロゴは商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、バッテリーチャージャー、AC アダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●保証書とカスタマー登録カードについて

この製品には「保証書」と「カスタマー登録カード」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入後 1 年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

- カスタマー登録は下記のホームページからも行えます。

https://reg.nikon-image.com

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様および性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、ニコンサービスセンターで新しい使用説明書をお求めください（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビの近くでお使いになると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書にしたがって正しくお取り扱いください。

●カメラや SD カードを譲渡／廃棄するときのご注意

SD カード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には消去されません。譲渡／廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。SD カード内のデータはお客様の責任において管理してください。

SD カードを譲渡／廃棄する際は、市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってデータを完全に消去するか、初期化後に SD カードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、プリセットホワイトバランスの画像（P.72）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡／廃棄してください。SD カードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

各部の名称

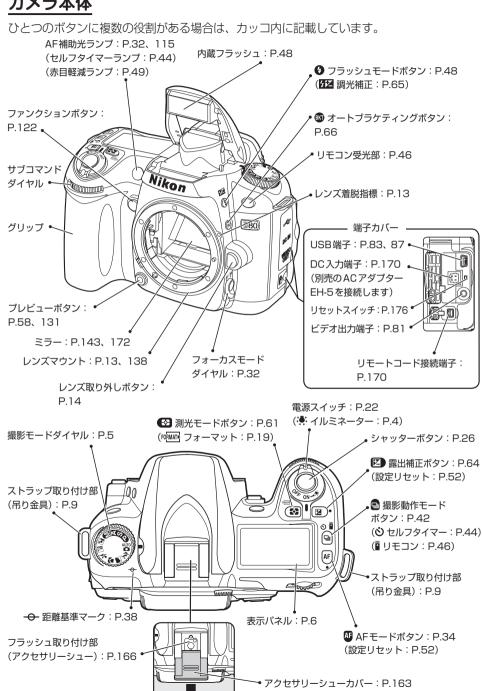
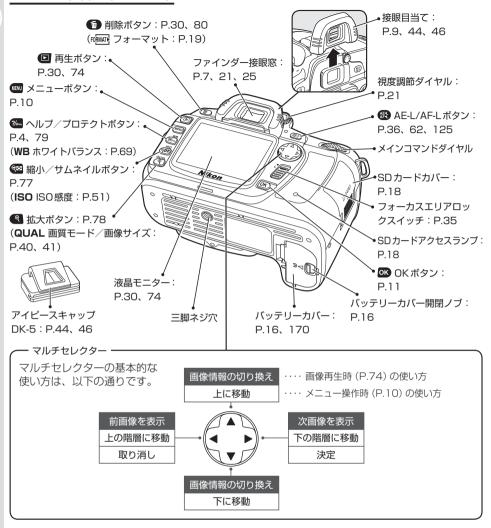
カメラ本体

ひとつのボタンに複数の役割がある場合は、カッコ内に記載しています。

カメラ本体（つづき）

ヒント ヘルプ機能について

液晶モニターの表示中に画面の左下に ? マークが表示されているときや、撮影モード AUTO、、、、、、 で液晶モニターが消灯しているときは、 ボタンを押し続けると、その項目についての説明（ヘルプ）を見ることができます。 ボタンを放すと、元の画面に戻ります。

- ヘルプ画面は2ページにまたがる場合があります。この場合は、 ボタンを押しながらマルチセレクターの▼を押すと、次のページが表示されます。

?仕上がり設定
記録する画像の仕上がりを、撮影シーンや好みに合わせて設定します。

ヒント 表示パネルの照明について

電源スイッチを マークまで回すと、表示パネルが照明されます。電源スイッチを放すと電源スイッチはONの位置まで自動的に戻りますが、イルミネーターは6秒間（初期設定）点灯し続けます。ただし、シャッターをきると消灯します。

撮影モードダイヤル

撮影モードを切り換えるときに使います。撮影モードは全部で11種類あります。

応用撮影向けの撮影モード

シャッタースピードや絞りなどを自分で決めて、より本格的な撮影を楽しむことができます。露出補正や、フラッシュの発光、各種メニューなどさまざまな設定を思い通りにコントロールすることができます。

P：マルチプログラムオート (P.56)

シャッタースピードと絞りの設定をカメラまかせにして、気軽に撮影したいとき。

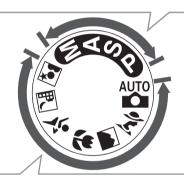
S：シャッター優先オート (P.57)

好みのシャッタースピードを使って、動きのある被写体の一瞬をとらえたり、流動感を表現したいとき。

A：絞り優先オート (P.58)

好みの絞りを使って、背景をぼかしたポートレートや奥行きのある風景を撮影したいとき。

M：マニュアル (P.59)

シャッタースピードと絞りの両方を自分で設定して、個性的な映像表現を行いたいとき。

かんたん撮影向けの撮影モード（デジタルイメージプログラム）

撮影シーンに合わせて撮影モードを選び、シャッターボタンを押すだけの簡単な操作で、撮影を楽しむことができます。

AUTO：オート (P.22)

撮影状況に合わせて、各種設定をカメラが自動的にコントロールするので、カメラまかせで気軽に簡単に撮影することができます。デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方におすすめのモードです。

：ポートレート (P.28)

背景をぼかし、人物を強調させた人物写真を撮影したいとき。

：風景 (P.28)

風景や街並みを撮影したいとき。

：クローズアップ (P.29)

草花や昆虫などを接写したいとき。

：スポーツ (P.29)

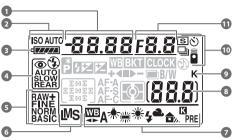
スポーツなど一瞬の動きをとらえた撮影をしたいとき。

：夜景 (P.29)

きれいな夕景や夜景を撮影したいとき。

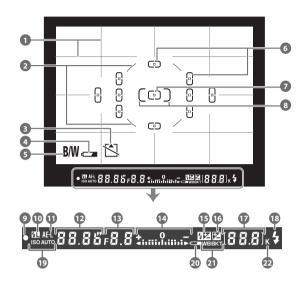
：夜景ポートレート (P.29)

夜景や雰囲気のある夕景をバックに、人物を撮影したいとき。

表示パネル（説明のため、すべての表示を点灯させています）

1. シャッタースピード............. P.56～60
   露出補正値 P.64
   調光補正値 P.65
   ISO感度 P.51
   ホワイトバランス微調整量 P.70
   ホワイトバランス色温度 P.71
   オートブラケティングコマ数 P.66
   WBブラケティングコマ数.......... P.120
2. ISO感度マーク................................ P.51
   ISO AUTOマーク P.117
3. バッテリー残量表示........................ P.23
4. フラッシュモード............................ P.48
5. 画質モード P.40
6. 画像サイズ P.41
7. ホワイトバランスモード P.69
8. 記録可能コマ数................................ P.23
   連続撮影可能コマ数........................ P.43
   PCカメラモード表示 P.82
   ホワイトバランスプリセットデータ
   　取得モード表示............................ P.72
9. 1000コマ以上補助表示.................... P.6
10. 撮影動作モード表示........................ P.42
    セルフタイマーモード表示 P.44
    リモコンモード表示........................ P.46
11. 絞り値 .... P.56～60
    オートブラケティング補正値 P.66
    WBブラケティング補正値.......... P.120
    PC接続中マーク P.83
12. 露出補正マーク................................ P.64
13. 調光補正マーク................................ P.65
14. プログラムシフトマーク P.56
15. フォーカスエリア表示 P.35
    AFエリアモード表示.................. P.114
16. AFモード表示.................................. P.34
17. オートブラケティングバーグラフ ... P.66
    WBブラケティングバーグラフ ... P.120
18. 測光モード P.61
19. 多重露出マーク.............................. P.110
20. 白黒マーク .... P.105、118
21. 電子音マーク.................................. P.113
22. 時刻未設定マーク.......................... P.138
23. オートブラケティングマーク P.66
    WBブラケティングマーク.......... P.120

ヒント　1000コマ以上補助表示

記録可能コマ数が1000コマ以上あるときは「K」マークが点灯します。「K」は1000倍を意味しており、たとえば1260コマ撮影できるときは、右のように表示されます。

ファインダー（説明のため、すべての表示を点灯させています）

- **1** 構図用格子線............................P.117
  （カスタムメニュー８「格子線表示」を「ON」に設定している場合のみ表示されます。
- **2** 中央部重点測光エリアφ 8mm......P.61
- **3** カードなしマーク※...........P.20、118
- **4** バッテリー残量表示※........P.23、118
- **5** 白黒マーク※....................P.105、118
- **6** フォーカスエリア..........................P.35
- **7** 中央フォーカスエリア
  （ノーマルフレーム）....................P.115
- **8** 中央フォーカスエリア
  （ワイドフレーム）........................P.115
- **9** ピント表示 ....P.26、36
- **10** FVロックマーク.......................P.123
- **11** AEロックマーク P.62
- **12** シャッタースピード............P.56～60
- **13** 絞り値 ....P.56～60
- **14** 露出インジケーター........................P.60
  露出補正インジケーター P.64
- **15** 調光補正マーク...............................P.65
- **16** 露出補正マーク...............................P.64
- **17** 記録可能コマ数...............................P.23
  連続撮影可能コマ数........................P.43
  ホワイトバランスプリセットデータ
  　取得モード表示...........................P.72
  露出補正値 P.64
  調光補正値 P.65
  PC接続中マーク P.83
- **18** レディーライト...............................P.27
- **19** ISO AUTOマーク P.116
- **20** バッテリー残量表示........................P.23
- **21** オートブラケティングマーク P.66
  WBブラケティングマーク..........P.120
- **22** 1000コマ以上補助表示...................P.6

※ カスタムメニュー９で非表示にできます（P.118）。

ファインダーについてのご注意

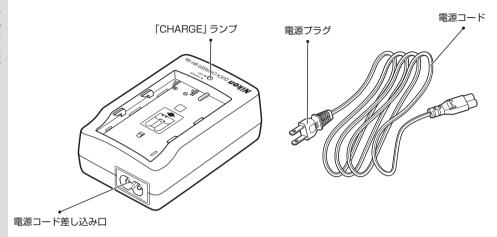
- 液晶の特性上、ファインダー内のフォーカスエリアなどから外側に延びる細い線が見える場合がありますが、故障ではありません。
- バッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなりますが、故障ではありません。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

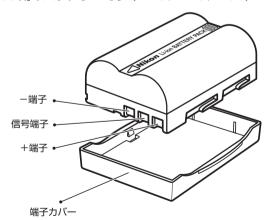
高温・低温下での液晶表示について

- 表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

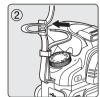
付属品について

クイックチャージャー MH-18a

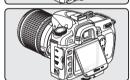
付属のバッテリー EN-EL3e用の充電器です（P.15、195）

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3e

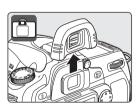
D80用のバッテリーです（P.15、170、195）

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3eには、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。

ストラップ

ストラップの取り付け手順は以下の通りです。

液晶モニターカバー BM-7

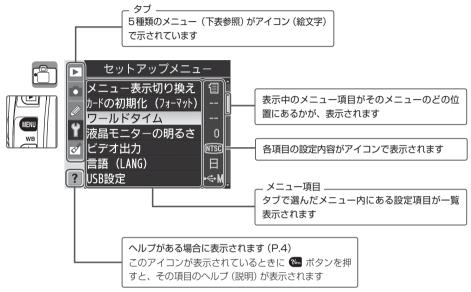
液晶モニターカバーを取り付けるには、液晶モニターの上にある溝にカバーの上部をはめ込み（①）、カバーの透明な部分が液晶モニターと重なるように置き、カチッと音がするまで上から軽く押してください。（②）。

カバーを取り外すときは、カメラをしっかりと支え、右図のようにカバーの下からゆっくりと外してください。

接眼目当て DK-21

セルフタイマー撮影（P.44）やリモコン撮影（P.46）に用いる付属のアイピースキャップDK-5や、各種ファインダー用アクセサリー（P.168）を取り付けるには、接眼目当てを取り外す必要があります。接眼目当てを取り外すには、カメラをしっかりと支え、接眼目当てを上方向に引き抜いてください。

メニューの操作方法

撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニューを使います。

メニューを表示するには

MENU ボタンを押すと、液晶モニターに下のようなメニューが表示されます。

メニューの種類

以下の5種類のメニューがあります。どのメニューが表示されているかは、画面左端のタブで確認できます。

再生メニュー（P.95）	撮影した画像に対する操作や、再生についての設定などを行ないます。
撮影メニュー（P.101）	撮影についての設定を行います。
カスタムメニュー（P.112）	カメラの各種設定を、好みに合わせて変更します。
セットアップメニュー（P.135）	SDカードの初期化や、カメラの基本的な設定などを行ないます。
画像編集メニュー（P.147）	撮影した画像を編集（加工や補正）することができます。

メニュー項目の設定

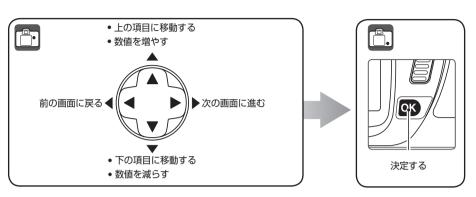
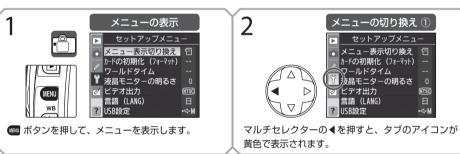
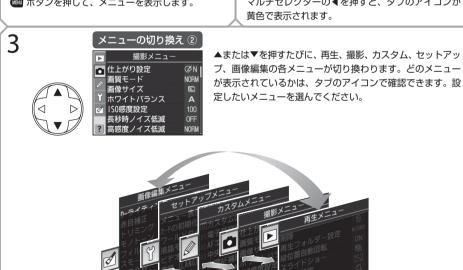
操作に使うボタン

メニューの操作には、マルチセレクターと OK ボタンを使います。

メニュー項目の設定方法

1 MENU ボタンを押して、メニューを表示します。

2 マルチセレクターの◀を押すと、タブのアイコンが黄色で表示されます。

3 ▲または▼を押すたびに、再生、撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューが切り換わります。どのメニューが表示されているかは、タブのアイコンで確認できます。設定したいメニューを選んでください。

4　メニュー項目の選択 ①

▶を押すと、手順3で選んだメニュー内のメニュー項目を選べる状態になります。

5　メニュー項目の選択 ②

▲または▼を押して、設定したいメニュー項目を選びます。

6　メニュー項目の設定 ①

▶を押すと、手順5で選んだメニュー項目が表示されます。

7　メニュー項目の設定 ②

▲または▼を押して、設定する内容を選びます。選択中の内容は黄色のハイライトで、変更前の内容は黄色の枠で表示されます。

8　メニュー項目の設定 ③

OK ボタンを押すと、手順7で設定した内容に切り換わり、手順5の画面に戻ります。

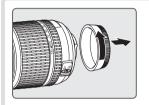
- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示され、選ぶことができません。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し（P.26）してください。液晶モニターが消灯し、撮影できる状態になります。

ヒント　コマンドダイヤルでのメニュー操作

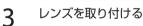
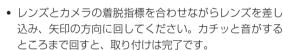
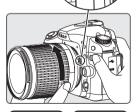
メニュー画面では、マルチセレクターの▲▼の代わりにメインコマンドダイヤルを、◀▶の代わりにサブコマンドダイヤルを使うこともできます。ただし、選んだ内容を決定することはできません。

レンズを取り付ける

カメラ内部にほこりなどが入らないようにご注意ください。

1　カメラの電源が OFF になっていることを確認する

2　レンズの裏ぶたとカメラのボディーキャップを外す

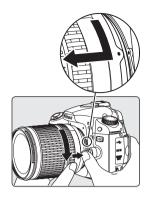
3　レンズを取り付ける

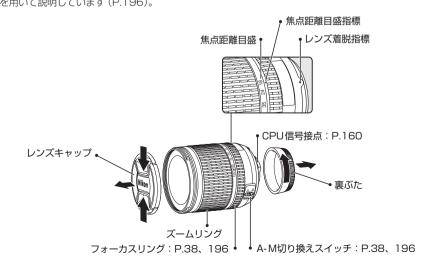
- レンズとカメラの着脱指標を合わせながらレンズを差し込み、矢印の方向に回してください。カチッと音がするところまで回すと、取り付けは完了です。

- A/M切り換えスイッチまたはフォーカスモードスイッチのあるレンズを使用する場合は、**A**（オートフォーカス）または**M/A**（マニュアル優先オートフォーカス）に合わせてください

☑ 絞りリングのあるレンズについてのご注意

絞りリング（P.160）のあるレンズを取り付ける場合は、最小絞り（最大値）にして、ロックしてください。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

レンズを取り外すときは

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し、引き抜いてください。取り外した後は、カメラとレンズにそれぞれのキャップを取り付けてください。

ヒント レンズについて

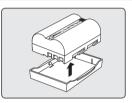
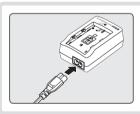
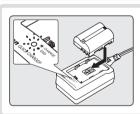
この使用説明書ではレンズについて、AF-S DX ズームニッコールED 18-135mm F3.5-5.6G（IF）を用いて説明しています（P.196）。

バッテリーを充電してカメラに入れる

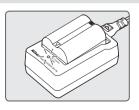
付属のバッテリー EN-EL3eとクイックチャージャー MH-18a（充電器）の組み合わせでお使いください。

- バッテリーは、ご購入直後にはフル充電されていません。ご使用前にクイックチャージャーでフル充電してください。

✔ 付属の電源コードについてのご注意

付属の電源コードは、クイックチャージャー MH-18a以外の機器に接続しないでください。この電源コードは日本国内専用（AC 100 V対応）です。日本国外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについてはニコンサービスセンターにお問い合わせください。また、ニコンオンラインショップ（http://shop.nikon-image.com/）でもお求めいただけます。

1. バッテリーを充電する

1.1 バッテリーの端子カバーを取り外す

1.2 クイックチャージャーと電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む

1.3 バッテリーをクイックチャージャーに取り付ける

- 「CHARGE」ランプが点滅し、充電が始まります。

1.4 「CHARGE」ランプが点滅から点灯に変わったら、バッテリーを取り外す

- 充電が完了しました。バッテリーを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使い切ったバッテリーを充電するには、約2時間15分かかります。

2. バッテリーをカメラに入れる

2.1 電源がOFFになっていることを確認してから、カメラ底面のバッテリーカバーを開ける

2.2 充電したバッテリーを入れ、バッテリーカバーを閉じる

- 左図のように、正しい向きで入れてください。

バッテリーを取り出すときは

バッテリーをカメラから取り出す前に、必ず電源がOFFになっていることを確認してください。

ヒント バッテリー情報について

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3eは、カメラと通信を行い、バッテリーの残量などをカメラに正確に伝えることができます。これによって表示パネルでバッテリー残量を6段階で確認することができる（P.23）ほか、セットアップメニューの「**電池チェック**」（P.145）でより詳しいバッテリー残量や、直前の充電からの合計撮影回数、バッテリーの劣化度を表示することができます。

☑ 使用できないバッテリーについて

D80には、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3およびEN-EL3a（D100 ／ D70シリーズ／ D50用バッテリー）や、CR2ホルダMS-D70は使用できません。

☑ バッテリーとクイックチャージャーの使用上のご注意

- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（P.viii～x）、「カメラと付属品の取り扱い上のご注意」（P.174～175）をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは0～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。充電は室温（5～35℃）で行ってください。バッテリーの性能を充分に発揮するために、約20℃以上で充電することをおすすめします。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの「**電池チェック**」で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、充分に充電したバッテリーでも、充電を行ったときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示をすることがあります。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。
- バッテリーをカメラやクイックチャージャーから取り外しておくときは、ショートを防止するため、付属の端子カバーを取り付けてください。
- クイックチャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

日付と時刻を設定する

カメラの内蔵時計を合わせます。ご購入後、初めて電源をONにしたときは、ステップ4の画面が表示されます（日時設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません）。一度設定した日時を再調整する場合は、ステップ1からお進みください。

1

セットアップメニューの「ワールドタイム」を選ぶ

- 左の画面が表示されます。
- メニューの操作方法については、P.10をご覧ください。

2

「現在地の設定」画面で、現在地が含まれるタイムゾーン（地域）を設定する

- 液晶モニターに表示される世界地図上で、現在地が黄色でハイライトされるようにしてください。
- 世界地図の上に、選択中のタイムゾーンに含まれる主な都市名や、UTC（世界協定時）との時差が表示されます。

3

「夏時間」画面で、夏時間のON/OFFを設定する

- 現在地で夏時間（サマータイム）制が実施されている場合は「ON」に、そうでない場合は「OFF」にしてください。
- 「ON」にすると、「OFF」のときよりも時刻が1時間進みます。

4

「日時の設定」画面で、日付と時刻を合わせる

- 現在地の日時に合わせてください。

5

OK ボタンを押す

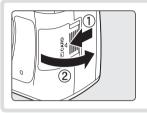
- 日付と時刻の設定が完了します。
- ご購入後初めて電源をONにして日時設定をした場合は、液晶モニターが消灯し、撮影できる状態になります。
- 一度設定した日時を再調整した場合は、左の画面が表示されます。日付の表示順を変更する場合は、日付の表示順を選んで設定してください（P.138）。シャッターボタンを半押し（P.26）すると、液晶モニターが消灯し、撮影できる状態になります。

※ ご購入後、初めて電源をONにしたときの日時設定の手順は、簡単操作ガイドに詳しく記載されています。

SD メモリーカード（別売）をカメラに入れる

このカメラは、撮影した画像をSDメモリーカード（以下SDカード）に記録します。SDカードは付属していないため、別途お買い求めください。

※ 表示パネルとファインダー内表示のイラストは、説明に関係ある部分だけを強調し、直接関係が無い部分は色を薄くしています。実際にはすべて同じ色で表示されます。

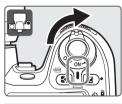
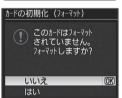
1.SD カードを入れる

1.1 電源が OFF になっていることを確認し、SD カードカバーを開ける

- SDカードを抜き差しするときは、必ず電源をOFFにしてください。

おもて面

1.2 SD カードを入れる

- 左図のように正しい向きで、カチッと音がするまで挿入してください。
- SDカードが正しく挿入されると、SDカードアクセスランプが約１秒間点灯します。

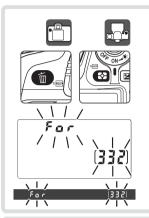
- 挿入後、SDカードカバーを閉めてください。

1.3 電源を ON にする

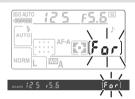
- 液晶モニターが点灯せず、表示パネルに記録可能コマ数が表示された場合は、挿入したSDカードでそのまま撮影できます。
- 液晶モニターに左のような画面が表示された場合は、SDカードを初期化する必要があります。「付録　警告メッセージ」（P.180）をご覧ください。

SDカードについてのご注意

SDカードアクセスランプが点灯している間は、SDカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外したりしないでください。SDカードが破損する恐れがあります。

2.SDカードを初期化（フォーマット）する

D80で初めてお使いになるSDカードは、まずD80で初期化してからお使いください。**SDカードを初期化すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。なお、SDカードをカメラから抜くときは、その前に必ず電源をOFFにしてください。

2.1 電源をONにして、赤色の FORMAT マークが付いた2つのボタン（ボタンと ボタン）を同時に約2秒以上押す

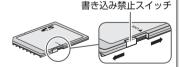
- 表示パネルとファインダー内下部に、左のように点滅表示されます。

2.2 もう一度 FORMAT マークが付いた2つのボタンを押す

- 初期化が始まります。初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやSDカードを取り出したりしないでください。

2.3 初期化が完了する

- 液晶モニターが消灯し、表示パネルに記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）が表示されます。

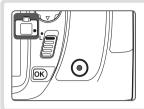
ヒント SDカードの書き込み禁止スイッチ

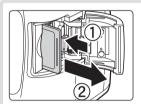
SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「Lock」の位置にすると、データの書き込みや消去が禁止され、カード内の画像を保護できます。撮影時や、画像を削除するときは「Lock」を解除してください。

☑ SDカードがロックされている場合のご注意

SDカードの書き込み禁止スイッチ（上記ヒント参照）がロックされている場合は、液晶モニターなどに警告が表示されます。ロックを解除してからもう一度挿入してください。

☑ パソコンでSDカードを初期化した場合のご注意

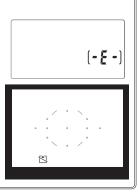
パソコンで初期化したSDカードをそのままD80で使うと、データの記録速度が低下する場合があります。D80で初期化しなおしてからお使いください。

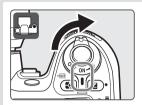
SD カードを取り出すときは

1 SD カードアクセスランプが消灯していることを確認する

2 電源を OFF にしてから、SD カードカバーを開ける

3 カードを取り出す

- SDカードを奥に押し込むと (①)、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください (②)。

ヒント SDカードが入っていないときは

SDカードが入っていないときは、表示パネルとファインダースクリーンに右のように表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、これらの表示は点灯します。

ファインダー内の見え方を調節する

撮影するときは、ファインダーをのぞきながら構図を決めます。あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように調節してください。

1　レンズの前キャップを取り外し、電源を ON にする

2　視度調節ダイヤルで調節する

- ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを左右に回し、フォーカスエリアが最もはっきり見えるように調節してください。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

フォーカスエリア

ヒント 視度調節について

視度調節してもファインダー内がはっきり見えない場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします (P.168)。

【初級編】かんたんな撮影と再生

【初級編】では、カメラまかせで簡単に撮影できる AUTO（オート）撮影モードでの撮影方法を中心に、撮影から再生まで、D80の基本機能を使いこなすために覚えておいていただきたい手順について説明しています。

【初級編】では、カメラを初期設定（ご購入時の設定状態）のままでお使いいただくことを前提に説明しています。【中級編】以降で説明する各種設定を変更した場合、カメラの動作は初級編での説明内容と異なることがあります。カメラを初期設定に戻す方法については、P.52をご覧ください。

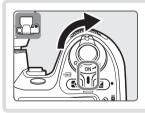
☑ 使用レンズについて

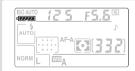
【初級編】で説明する撮影モード（AUTO、、、、、、）で撮影するときは、CPUレンズ（P.160）をお使いください。非CPUレンズ装着時は、シャッターがきれません。

AUTO（オート）で撮影する ― カメラまかせの簡単撮影

撮影モード AUTO（オート）は、シャッターボタンを押すだけの簡単な操作で、さまざまな状況での撮影を楽しむことができます。以下のステップ1～6の手順で撮影してください。

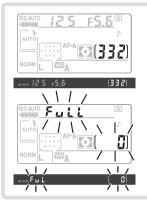
※ 表示パネルとファインダー内表示のイラストは、説明に関係ある部分だけを強調し、直接関係が無い部分は色を薄くしています。実際にはすべて同じ色で表示されます。

ステップ1：電源をONにする

1.1 電源をONにする

- レンズの前キャップを外してください。
- 表示パネルとファインダー内の表示が点灯します。
- 撮影時には、液晶モニターは点灯しません。

1.2 バッテリーの残量を確認する

バッテリー残量の表示

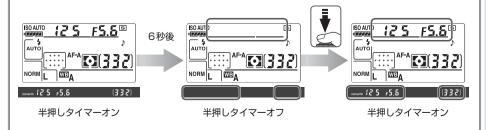
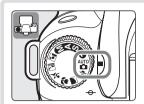
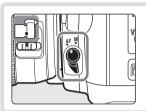
表示パネル	ファインダー	意味
	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
	表示なし	バッテリーが減り始めました。
		バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
（点滅）	（点滅）	撮影できません。バッテリーを交換してください。

ACアダプター EH-5（別売）を接続したときは、バッテリー残量は表示されません。

1.3 SD カードの残量を確認する

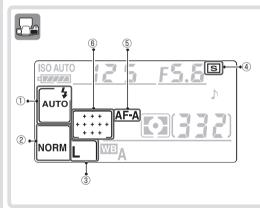
- 表示パネルとファインダー内表示に、記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）が表示されます。
- カードの残量がなくなると、左のように表示されます。不要な画像を削除する（P.30、80）か、別のカードに交換してください。

ヒント 「半押しタイマー」について

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを半押しするとオンになり、何も操作しないで約6秒間（初期設定）経過するとオフになります。半押しタイマーがオフになると、表示パネルのシャッタースピード／絞り値表示とファインダー内表示が消灯します。シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間はカスタムメニュー「**28：半押しタイマー**」（P.132）で変更することができます。

半押しタイマーオン　　半押しタイマーオフ　　半押しタイマーオン

ステップ 2：撮影モードを AUTO（オート）にする

2.1 カメラ上面の撮影モードダイヤルを AUTO（オート）に合わせる

2.2 カメラ前面のフォーカスモードダイヤルを **AF**（オートフォーカス）に合わせる

ステップ 3：カメラの設定状態を確認する

撮影モード AUTO（オート）の初期設定は、以下のようになっています。

① フラッシュモード (P.48)	通常発光オート
② 画質モード (P.40)	NORMAL
③ 画像サイズ (P.41)	L
④ 撮影動作モード (P.42)	1コマ撮影
⑤ AFモード (P.34)	AF-A
⑥ AFエリアモード (P.35)	オートエリアAF

ステップ 4：カメラを構える

撮影時には、液晶モニターは消灯します。液晶モニターを見ながら撮影することはできません。ファインダーをのぞきながら撮影してください。

4.1 カメラをしっかりと構える

ヒント カメラの構え方

- 右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- わきを軽く締めます。
- 片足を少し前に踏み出すと、上半身が安定します。
- 縦長（縦位置）の画像を撮影したいときは、左図のようにカメラを縦にして構えます。

フォーカスエリア

4.2 構図を決める

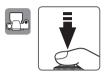
- ファインダーをのぞきながら、構図を決めてください。
- 11カ所あるフォーカスエリアの少なくとも1つに、被写体が重なるようにしてください。

ヒント ズームレンズの使い方

被写体を大きく写したいときはズームリングを望遠側（焦点距離目盛の大きい数値側）に、広い範囲を写したいときはズームリングを広角側（焦点距離目盛の小さい数値側）に回してください。

ステップ 5：ピントを合わせる

5.1 シャッターボタンを半押し（下記ヒント参照）して、ピントをあわせる

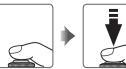
- カメラが自動的に、フォーカスエリアに重なっている被写体からピントを合わせる部分を選びます。
- 暗い場所などでは、AF補助光ランプが光る場合や、内蔵フラッシュが上がる場合があります。

シャッターボタンを半押ししている間、ファインダー内下部と表示パネルに r および続けて撮影できるコマ数（連続撮影可能コマ数）が表示されます。

5.2 ピントが合ったことを確認する

- ピントが合うと、
  - 「ピピッ」という電子音が鳴ります（被写体が動いているときなど、鳴らない場合もあります）
  - ファインダー内下部のピント表示●が点灯します。
  - ファインダー内で、ピントが合ったフォーカスエリアすべてが、約1秒間強調表示されます。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントは固定されます。
- ピント表示●の意味は以下のとおりです。

ピント表示	意味
点灯	被写体にピントが合っています。
点滅	オートフォーカスでピントを合わせることができません。

ヒント シャッターボタンの半押し

シャッターボタンは、2段階に押し込むようになっています。まず、シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「**シャッターボタンを半押しする**」といいます。半押しするとピントが合います。次に、そのまま深く押し込む（これを「**シャッターボタンを全押しする**」といいます）と、シャッターがきれます。

半押しすると、ピントが固定

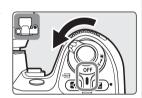
全押しして撮影する

ステップ 6：撮影する

シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む（全押し）

- シャッターがきれ、画像がSDカードに記録されます。
- SDカードアクセスランプが点灯している間は、**SDカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外したりしないでください。**

電源を OFF にするには

電源をOFFにするには、電源スイッチを**OFF**の位置まで回してください。

ヒント 電源OFF時の表示

電源がOFFのときも、バッテリーが入っていれば、表示パネルには記録可能コマ数が表示されます。

ヒント 内蔵フラッシュについて

撮影モード AUTO では、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵フラッシュが上がります。内蔵フラッシュの調光範囲（光が充分に届く距離）はISO感度や絞り値によって変化します（P.191）。調光範囲より近くや遠くにある被写体を撮影する場合は、フラッシュの効果が充分に得られない場合があるのでご注意ください。また、フラッシュ撮影時にはレンズフードを取り外してください。

ファインダー内下部に ϟ が点灯しているときは、シャッターボタンを全押しすると、内蔵フラッシュが発光します。内蔵フラッシュが上がっているのに ϟ が点灯していないときは、フラッシュの充電中のため、撮影できません。ϟ が点灯するまでお待ちください。ただし、内蔵フラッシュが上がっていても、その後被写体が明るくなった場合などはフラッシュが発光しません。この場合は ϟ が点灯しなくても撮影することができます。

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げてください。内蔵フラッシュを使わないときは、フラッシュを収納しておいてください。

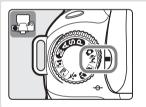
内蔵フラッシュを使わずに撮影する方法については、P.49をご覧ください。

シーンに合わせて撮影する — 簡単操作でより美しく

撮影するシーンが決まっているときは、シーンに合わせて以下の６種類から撮影モードを選ぶだけで、美しく撮影できます。

撮影モードを選ぶ以外は、AUTO と同じ操作で撮影できます。

ダイヤルの位置	撮影モード	こんなときに
	ポートレート	人物を撮影したい
	風景	風景や街並みを撮影したい
	クローズアップ	草花や昆虫などを接写したい
	スポーツ	運動会などのスポーツ写真を撮影したい
	夜景	夕景や夜景を撮影したい
	夜景ポートレート	夕景や夜景をバックに人物を撮影したい

撮影の手順

1 撮影モードダイヤルを回して、撮影モードを設定する

2 シャッターボタンを押して撮影する

各撮影モードの特徴

（ポートレート）モード：人物をもっときれいに

人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌をなめらかで自然な感じに仕上げます。

- 被写体と背景が離れているときや、望遠レンズを使って撮影したときは、背景がぼけて立体感のある画像になります。

（風景）モード：風景をより美しく

自然の風景や街並みを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

- 内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。

🌷（クローズアップ）モード：花や虫を大きく接写

草花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写したいときに使います。

- 手ぶれしやすいので、三脚をお使いになることをおすすめします。

（スポーツ）モード：迫力のスポーツ写真を

運動会などスポーツ写真の撮影に向いています。動きのある被写体の一瞬の動きを鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げます。

- 内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。

（夜景）モード：夜景の雰囲気をそのままに

夜の風景を雰囲気豊かに表現します。

- 手ぶれしやすいので、三脚をお使いになることをおすすめします。
- 内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。

（夜景ポートレート）モード：夜景をバックに記念撮影

夕景や夜景をバックに、人物を撮影したいときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。

- 手ぶれしやすいので、三脚をお使いになることをおすすめします。

ヒント 各撮影モードのピント合わせについて

カメラが被写体にピントを合わせるときの動作（初期設定）は、撮影モードによって以下のように異なります。

- 撮影モード 、、、：カメラが自動的に、フォーカスエリアに重なっている被写体からピントを合わせる部分を選びます。
- 撮影モード ：中央のフォーカスエリアに重なっている被写体にピントが合います。マルチセレクターで他のフォーカスエリアを選ぶこともできます（P.35）。
- 撮影モード ：シャッターボタンを半押ししている間、中央のフォーカスエリアに重なっている被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。中央のフォーカスエリアから被写体が外れてしまった場合でも、他のフォーカスエリアを使ってピントを合わせ続けます。マルチセレクターで他のフォーカスエリアを選ぶこともできます（P.35）。

ヒント 内蔵フラッシュについて

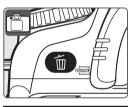
撮影モード 、、 では、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵フラッシュが上がります。内蔵フラッシュを使って撮影する方法は、撮影モード AUTO と同じです。

撮影した画像を確認する

撮影した画像は、カメラ背面の液晶モニターに表示されます。

撮影した画像は、撮影直後に約4秒間、液晶モニターに表示されます。画像が表示されていないときに撮影した画像を確認したい場合は、▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

- カメラ背面にあるマルチセレクターの◀または▶を押す（またはメインコマンドダイヤルを回す）と、ほかの画像を見ることができます。
- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

画像を削除する

液晶モニターに画像が表示されている状態で 🗑 ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。

- もう一度 🗑 ボタンを押すと、表示中の画像が削除されて、再生画面に戻ります。
- 削除するのをやめたいときは、▶ボタンを押してください。

【中級編】撮影機能を使いこなそう

【中級編】では、【初級編】よりも高度な撮影方法について説明します。【中級編】で説明している機能は、基本的にすべての撮影モードで利用することができます。

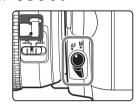
【中級編】でできること

やりたいこと	参照先
オートフォーカス撮影について詳しく知りたい	オートフォーカスで撮影する：P.32
被写体の動きに合わせて、AFモード（ピントの合わせ方）を変更したい	AFモードを選択する：P.34
ピントを合わせるエリアを選びたい	フォーカスエリアを選択する：P.35
ピントを固定（フォーカスロック）したい	フォーカスロック撮影：P.36
ピントを自分で合わせたい	ピントを手動で合わせる（マニュアルフォーカス）：P.38
画像の大きさや画質を変えたい	画質や画像のサイズを変更する：P.39
連続（連写）で撮影したい	連続撮影（連写）する：P.43
セルフタイマーを使って撮影したい	セルフタイマーを使って撮影する：P.44
リモコンでシャッターを操作したい	リモコンを使って撮影する：P.46
フラッシュの設定を変更したい	内蔵フラッシュを活用する：P.48
周囲の明るさに合わせてISO感度を変更したい	ISO感度を設定する：P.51
最初の設定に戻したい	ツーボタンリセット：P.52

オートフォーカスで撮影する

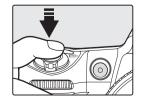
操作方法：フォーカスモードダイヤル

フォーカスモードダイヤルを**AF**に合わせると、オートフォーカスになります。

- オートフォーカスに対応していないレンズをお使いのときや、オートフォーカスでピント合わせができないときは、マニュアルフォーカスで撮影してください（P.38）。
- A/M切り換えスイッチやフォーカスモードスイッチのあるレンズでオートフォーカス撮影を行うときは、**A**（オートフォーカス）または**M/A**（マニュアル優先オートフォーカス）に合わせてください（P.13）。
- オートフォーカス撮影時にピントが合ったときは、電子音が鳴ります。ただし、AFモード（P.34）が**AF-C**のとき、または**AF-A**で被写体が動いているとカメラが判断したときは、電子音が鳴りません。撮影モード でAFモードを**AF-A**にしたときも、電子音は鳴りません。

ヒント **AF補助光について**

被写体が暗い場合などにシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのために、AF補助光が自動的に点灯します。ただし、撮影モードが、、のときや、カスタムメニュー「**4：内蔵AF補助光の照射**」（P.115）が「**照射しない**」になっているときは、点灯しません。

- 使用できるAFレンズの焦点距離は24～200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5～3mです。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

関連ページ　撮影時の電子音を消す　→　1：電子音設定（P.113）

ヒント オートフォーカスの苦手な被写体

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス（P.38）でピントを合わせるか、フォーカスロック（P.36）を利用してください。

被写体の明暗差がはっきりしない場合
（背景と同じ色の服を着ている人物など）

遠くのものと近くのものが混在する場合
（オリの中の動物など）

連続した繰り返しパターンの被写体
（ビルの窓など）

被写体の明暗差が極端に異なる場合
（太陽を背景にした日陰の人物など）

背景に対してメインの被写体が小さい場合
（遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など）

絵柄が細かい場合
（一面の花畑など）

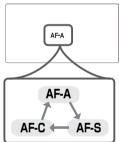
AF モードを選択する

操作方法：AF ボタン

オートフォーカス時のAFモード（ピントの合わせ方）を、以下の３種類から選ぶことができます。

AF-A （初期設定）	下記のAF-SとAF-Cをカメラが自動的に切り換えます。被写体が静止しているときはAF-S、動いているときはAF-Cになります。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。
AF-S	静止している被写体の撮影に適している「シングルAFサーボ」モードです。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはシャッターがきれません。
AF-C	動いている被写体の撮影に適している「コンティニュアスAFサーボ」モードです。シャッターボタンを半押ししている間、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。ピントが合っていない状態でも、シャッターボタンを全押しするとシャッターが切れます。

AF モードの変更方法

AF ボタンを押すたびに、表示パネルのAFモード表示が変化します。設定したいAFモードに合わせてください。

フォーカスエリアを選択する

操作方法：（液晶モニター消灯時に）マルチセレクター

このカメラには、11カ所のフォーカスエリア（自動でピント合わせを行う領域）があります。初期設定では、カメラが自動的に選んだフォーカスエリア、または中央のフォーカスエリアでピント合わせを行いますが、構図を工夫して撮影したいときなどには、特定のフォーカスエリアを選ぶことができます。

フォーカスエリアの選択方法

1 カスタムメニュー「2：AF エリアモード設定」(P.114) を「シングルエリア AF モード」または「ダイナミックエリア AF モード」にする

- 撮影モード AUTO、、、、 の初期設定は「**オートエリア AF モード**」なので、設定の変更が必要です。

2 フォーカスエリアロックスイッチを●マーク側にスライドさせる

- マルチセレクターでフォーカスエリアを選べるようになります。

3 半押しタイマーの作動中（P.23）に、ファインダーでのぞきながらマルチセレクターの▲▼◀▶でフォーカスエリアを選ぶ

- 表示パネルとファインダー内で、フォーカスエリアフレームが移動します。
- 選んだフォーカスエリアに固定したいときは、フォーカスエリアロックスイッチを**L**マーク側にスライドさせてください。

関連ページ	
	フォーカスエリアの選び方を変える → 2：AFエリアモード設定 (P.114)
	中央のフォーカスエリアを広げる → 3：中央フォーカスエリアフレーム (P.115)
	フォーカスエリア選択時の操作方法を変える → 18：AE-L/AF-L ボタンの機能 (P.125) 20：フォーカスエリア循環 (P.126)
	フォーカスエリアの照明方法を変える → 21：フォーカスエリア照明 (P.126)

フォーカスロック撮影

操作方法：AF モードが AF-A または AF-C のとき：AE-L/AF-L ボタン
AF モードが AF-S のとき：シャッターボタン

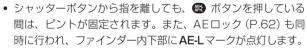
ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスエリアにも入らない場合や、オートフォーカスが苦手な被写体（P.33）を撮影する場合には、以下の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影すると効果的です。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを重ね、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、ファインダー内下部にピント表示●が点灯します。

2 ピントを固定する

● AFモード（P.34）が**AF-A**または**AF-C**のとき
シャッターボタンを半押ししたまま、AE-L/AF-L ボタンを押すと、ピントが固定されます。

- シャッターボタンから指を離しても、AE-L/AF-L ボタンを押している間は、ピントが固定されます。また、AEロック（P.62）も同時に行われ、ファインダー内下部に**AE-L**マークが点灯します。

● AFモード（P.34）が**AF-S**のとき
シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。これを「フォーカスロック」といいます。

- AE-L/AF-L ボタンでフォーカスロックを行うこともできます。

ヒント 連続撮影時のフォーカスロックについて

フォーカスをロックして連続撮影（P.43）したいときは、まずシャッターボタンを半押ししてから AE-L/AF-L ボタンでフォーカスロックを行い、そのまま AE-L/AF-L ボタンを放さずにもう一度シャッターボタンを押して連続撮影してください。

3 フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する

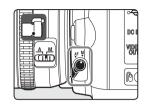
- 被写体との距離は変えないでください。フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。

ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。AE-L/AF-L ボタンでフォーカスロックを行った場合は、AE-L/AF-L ボタンを押したままもう一度シャッターボタンを押し込んでください。

関連ページ AE-L/AF-L を押したときの動作を変更する → 18：AE-L/AF-L ボタンの機能（P.125）

ピントを手動で合わせる（マニュアルフォーカス）

ピントを手動（マニュアル）で合わせたいときや、オートフォーカスではピントが合わないとき、またはマニュアルフォーカスレンズ使用時には、フォーカスモードダイヤルを**M**に合わせると、マニュアルでピント合わせが行えます。

- ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体がはっきり見えるように合わせます。
- A-M切り換え方式のレンズを装着するときは、レンズ側もMにしてください。また、M/A（マニュアル優先オートフォーカス）モード機能付きのレンズを装着するときは、レンズ側はM/AまたはMのどちらでもマニュアルフォーカスができます。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

ヒント **フォーカスエイド**

開放絞り値がf/5.6以上の明るいレンズ（絞りの最も小さい数値がf/5.6以下のレンズ）を使ってマニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内下部のピント表示●でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスエリアは11カ所から選べます。

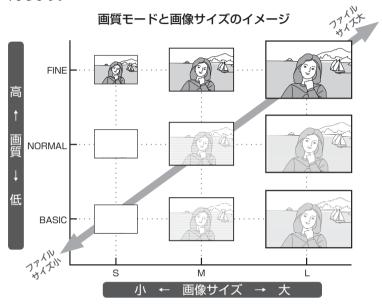
ヒント **距離基準マーク**

距離基準マーク -⊖- は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント：P.3）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

画質や画像のサイズを変更する

SDカードに記録する画像の、画質（画像データの圧縮率）と画像サイズを変更します。画像の用途や、SDカードの残量に合わせて設定してください。

一般的に、画質が高く、画像サイズが大きいほど、画像データのファイルサイズは大きくなります。より精細な画像を大きくプリントすることができますが、SDカードに記録できるコマ数は少なくなります。

画質モードと画像サイズのイメージ

ヒント ファイル名について

このカメラで撮影した画像には、DSC_nnnn.xxxという名前が付けられます。

DSC_nnnn.xxx

ファイル名：nnnnには撮影順に、0001～9999の数字が入ります。

拡張子：画質モードによって異なります。
- RAW の場合：「NEF」
- FINE、NORMAL、BASICの場合：「JPG」
- イメージダストオフデータ（P.144）の場合：「NDF」

- RAW＋FINE、RAW＋NORMAL、RAW＋BASICで撮影した場合、同じファイル名で、拡張子が「NEF」（RAW画像）と「JPG」（FINE、NORMAL、BASIC画像）の2つのファイルが同時に作成されます。
- 画像編集メニューの「**D-ライティング**」（P.150）、「**赤目補正**」（P.151）、「**トリミング**」（P.152）、「**モノトーン**」（P.153）、「**フィルター効果**」（P.154）で作成した画像のファイル名は「CSC_nnnn」、拡張子は「JPG」となります。
- 画像編集メニューの「**スモールピクチャー**」（P.155）で作成したスモールピクチャーのファイル名は「SSC_nnnn」、拡張子は「JPG」となります。
- 撮影メニューの「**仕上がり設定**」→「**カスタマイズ**」→「**カラー設定**」（P.103）を「**モードII（AdobeRGB）**」にした場合は、ファイル名が「_DSCnnnn」（または「_CSCnnnn」、「_SSCnnnn」）となります。

関連ページ　1枚のSDカードで記録できるコマ数 → 資料集（P.187）

画質モード

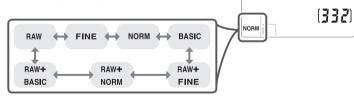
操作方法：（液晶モニター消灯時に）（QUAL）ボタン ＋ メインコマンドダイヤル

画質モードは、以下の７種類から選べます。

画質モード		ファイル形式	説明
RAW	高	NEF	撮影した画像をパソコンで加工する場合などに適しています。撮像素子の生データを圧縮して記録します。
FINE	↑	JPEG	「NORMAL」よりも精細な画質になります。画像データは約 1/4 に圧縮されます。
NORMAL（初期設定）	画質		通常はこの画質モードで撮影します。画像データは約 1/8 に圧縮されます。
BASIC	↓ 低		ファイルサイズが最も小さく、電子メールに添付する場合などに適しています。画像データは約 1/16 に圧縮されます。
RAW+FINE		NEF ＋ JPEG	RAWとFINEの、２種類の画像を同時に記録します。
RAW+NORMAL			RAWとNORMALの、２種類の画像を同時に記録します。
RAW+BASIC			RAWとBASICの、２種類の画像を同時に記録します。

画質モードの設定方法

液晶モニターの消灯時に、（QUAL）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの画質モード表示が変化します。設定したい画質モードに合わせてください。

- 画質モードを変えると、記録可能コマ数（P.6、23）の表示も変化します。
- 画質モードは、撮影メニュー（P.101）でも設定できます。

「RAW」についてのご注意

- 画像サイズは設定できません。表示パネルにも画像サイズは表示されません。
- パソコンでRAW画像を表示するには、付属のPictureProjectまたは別売のCapture NX（P.170）が必要です。この際、画像サイズは「L」と同じ大きさになります。

「RAW＋FINE」「RAW＋NORMAL」「RAW＋BASIC」について

- カメラでの再生時には、JPEG画像だけが表示されます。
- JPEG画像をカメラ上で削除すると、同時記録されたRAW画像も削除されます。
- ホワイトバランスブラケティング（P.119）は使用できません。また、ホワイトバランスブラケティング設定時にこれらの画質モードに設定するとホワイトバランスブラケティングの設定が解除されます。

画像サイズ

操作方法：（液晶モニター消灯時に）🔍（QUAL）ボタン ＋ サブコマンドダイヤル

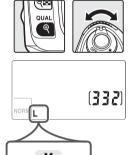
画像サイズは、以下の３種類から選べます。プリントしたい大きさなどに合わせて設定してください。

画像サイズ		画像ファイルの大きさ	プリント時の大きさ（出力解像度※200dpiの場合）
L（初期設定）	大	3872×2592ピクセル	約49.2×32.9cm
M	サイズ	2896×1944ピクセル	約36.8×24.7cm
S	小	1936×1296ピクセル	約24.6×16.5cm

※ 解像度とは、画像がどれだけの細かさで表現されているかを示す数値で、「dpi」で表されます。200dpiとは１インチ（約2.54cm）四方が、縦200×横200の計40000のドット（点）で表現されていることを示します。同じ画像でも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。

画像サイズの設定方法

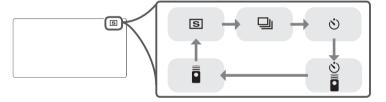
液晶モニターの消灯時に、🔍（QUAL）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの画像サイズ表示が変化します。設定したい画像サイズに合わせてください。

- 画像サイズを変えると、記録可能コマ数（P.6、23）の表示も変化します。
- 画像サイズは、撮影メニュー（P.101）でも設定できます。

撮影動作モードを切り換える

操作方法：[連続撮影ボタン] ボタン

P.43～47で説明する1コマ撮影モードと連続撮影（連写）モード、セルフタイマーモード、2種類のリモコンモードをまとめて、「撮影動作モード」といいます。5種類の撮影動作モードの違いは以下の通りです。

S 1コマ撮影	シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影する、通常のモードです。	P.43
連続撮影	シャッターボタンを押しつづけると連続撮影（連写）できるモードです。	P.43
セルフタイマー	シャッターボタンを押すとセルフタイマーが作動し、10秒後にシャッターがきれます。記念撮影などに便利です。	P.44
2秒リモコン	リモコンの送信ボタンを押すと、2秒後にシャッターがきれます。別売のリモコン（ML-L3）が必要です。	P.46
瞬時リモコン	リモコンの送信ボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。別売のリモコン（ML-L3）が必要です。	P.46

撮影動作モードは [連続撮影ボタン] ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

連続撮影（連写）する

操作方法：⧉ ボタン

連続撮影モードにすると、シャッターボタンを全押ししている間、約3コマ／秒（最高）で連続撮影（連写）できます。

初期設定の1コマ撮影モードと連続撮影モードの違いは以下の通りです。

S 1コマ撮影	シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影し、SDカードに記録します。
⧉ 連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約3コマ/秒※で連続撮影できます。

※ 連続撮影速度は、フォーカスモード**M**、撮影モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピードでの値です。

1コマ撮影と連続撮影の切り換え方法

⧉ ボタンを押すたびに、表示パネルの撮影動作モード表示が変化します。S または ⧉ に合わせてください。

連続撮影についてのご注意

- 連続撮影が終了しても、カードの性能や撮影条件によっては、最大で1分間程度、SDカードアクセスランプが点灯しつづける場合があります。アクセスランプの点灯中は、カメラ本体からSDカードを取り出さないでください。
- 連続撮影中にバッテリーの残量がなくなった場合は、連続撮影は中止され、撮影済みの画像データがSDカードに記録されて電源がOFFになります。

ヒント 連続撮影可能コマ数の表示

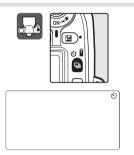
- シャッターボタンを半押しまたは全押ししている間、r と連続撮影可能コマ数（連続撮影速度を維持したまま続けて撮影できるコマ数）が、表示パネルとファインダー内下部に表示されます。右図の場合、連続撮影速度を維持したままで、あと最低11コマ続けて撮影できることを示しています。
- 連続撮影は最大100コマまでできます。ただし、[r 00]になったときは、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。

関連ページ 連続撮影可能コマ数 → 資料集（P.187）

セルフタイマーを使って撮影する

操作方法：⊡ ボタン

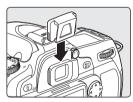
シャッターボタンを押してから、約10秒後（初期設定）にシャッターが切れます。記念写真など、自分も一緒に写りたいときに便利な機能です。

1 三脚などでカメラを固定する

2 ⊡ ボタンを押して、ⓢ（セルフタイマー）を選ぶ

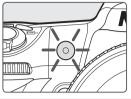
- ⊡ ボタンを押すたびに、表示パネルの撮影動作モード表示が変化します。ⓢ マークに合わせてください。

3 構図を決める

- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**（P.54）でフラッシュを使って撮影したいときは、⚡ ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内下部の ⚡ が点灯するまでお待ちください（P.48）。タイマーの作動中にフラッシュを上げると、タイマーは停止します。

4 接眼目当てを外し、付属のアイピースキャップDK-5を、左図のように取り付ける（**M** 以外の撮影モードでカメラから離れて撮影する場合）

- ファインダーから光が入り、露出が変わることを防ぎます。

5 撮影をはじめる

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、全押ししてください。タイマーが作動し、セルフタイマーランプが点滅します。撮影2秒前になると点灯に変わります。
- タイマーの作動中は電子音も繰り返し鳴ります。撮影2秒前になると間隔が短くなります。
- ピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではタイマーは作動しません。

6 シャッターがきれる

- シャッターボタンを全押ししてから10秒後にシャッターがきれます。

☑ セルフタイマーの解除について

- 作動中のタイマーを解除するには、他の撮影動作モードに切り換えてください。
- 撮影後もセルフタイマーの設定は解除されません。セルフタイマーを解除したいときは、他の撮影動作モードに変更してください。
- 電源をOFFにすると、撮影動作モードは S（1コマ撮影）または ▭（連続撮影）モードに戻ります。

☑ シャッタースピードを bulb にしてセルフタイマー撮影をした場合

撮影モード **M** でシャッタースピードを **bulb** にしてセルフタイマー撮影を行うと、シャッタースピードは約1/10秒になります。

関連ページ	
	セルフタイマー撮影時の電子音を消す → ✎ 1：電子音設定（P.113）
	セルフタイマーの作動時間を変更する → ✎ 29：セルフタイマー（P.132）

リモコンを使って撮影する

操作方法：[連続撮影ボタン] **ボタン**

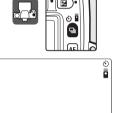
別売のリモコン（ML-L3）（P.170）を使って、カメラから離れた場所からシャッターを切ることができます。記念写真など自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押すときの手ぶれを軽減したいときなどにお使いください。

☑ リモコンをはじめてお使いになるときのご注意

リモコンをお使いになる前に、リモコンにはさんである透明の絶縁シートを引き抜いてください。

1 三脚などでカメラを固定する

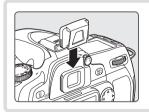
- リモコンは、カメラから5m以内の距離でお使いください。

2 [連続撮影ボタン] ボタンを押して、リモコンモード（[2秒リモコン] または [瞬時リモコン]）を選ぶ

- [連続撮影ボタン] ボタンを押すたびに、表示パネルの撮影動作モード表示が変化します。設定したいリモコンモードに合わせてください。

[2秒リモコン]	**2秒リモコン**	リモコンの送信ボタンを押すと、2秒後にシャッターがきれます。
[瞬時リモコン]	**瞬時リモコン**	リモコンの送信ボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。

- リモコンモードに合わせると、カメラは受信待機状態になります。操作のないまま約1分（初期設定）が過ぎると、リモコンモードから、S（1コマ撮影）または [連続]（連続撮影）モードに戻ります。

3 構図を決める

- オートフォーカスでの撮影時には、ここでカメラのシャッターボタンを半押しすることで、あらかじめピントを合わせておくことができます。ただし、カメラのシャッターボタンでシャッターをきることはできません。

4 接眼目当てを外し、付属のアイピースキャップDK-5を、左図のように取り付ける（**M** 以外の撮影モードでカメラから離れて撮影する場合）

- ファインダーから光が入り、露出が変わることを防ぎます。

5　撮影をはじめる

- リモコン送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押してください。

6　シャッターがきれる

- 2秒リモコンモードではセルフタイマーランプが約2秒間点灯してからシャッターがきれます。
- 瞬時リモコンモードではすぐにシャッターがきれ、撮影後にセルフタイマーランプが一瞬点灯します。
- リモコン撮影時のフォーカス動作は以下のように、「**AFモード**」（P.34）の設定によって異なります。

AF-A AF-S	ピントが合ってから約2秒後、または瞬時にシャッターがきれます。ピントが合わない場合は、待機状態に戻ります。ただし、すでにピントが合っているときやマニュアルフォーカス撮影時はピント合わせを行わず、シャッターがきれます。
AF-C	ピント合わせは行わず、リモコンの送信ボタンを押してから約2秒後、または瞬時にシャッターがきれます。

☑ リモコン撮影の解除について

- リモコンの待機状態を解除するには、他の撮影動作モードに切り換えてください。
- 撮影後もリモコン撮影の設定は解除されません。ただし、リモコン受信待機時間（初期設定で1分）が経過するか電源をOFFにすると、S（1コマ撮影）、または（連続撮影）モードに戻ります。

☑ リモコン撮影時のフラッシュについて

- 撮影モード AUTO、、、 では、リモコンの受信待機状態になるとフラッシュの充電が始まり、充電完了後にリモコンの送信ボタンを押すと、必要に応じて内蔵フラッシュが自動的に上がります。フラッシュの充電中にリモコンの送信ボタンを押しても、カメラは反応しません。しばらく待ってから送信ボタンを押してください。
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**でフラッシュを使って撮影したいときは、リモコンの受信待機状態で ボタンを押して内蔵フラッシュを上げ、ファインダー内下部の が点灯するまでお待ちください（P.48）。2秒リモコンモードで、リモコンの送信ボタンを押した後にフラッシュを上げると、リモコンの撮影は中止されます。
- 瞬時リモコン撮影の場合、赤目軽減発光（P.49）を組み合わせたフラッシュモードでは、赤目軽減ランプが約1秒間点灯してからシャッターがきれます。2秒リモコン撮影の場合、セルフタイマーランプが約2秒間点滅した後、赤目軽減のために赤目低減ランプが約1秒間点灯してからシャッターがきれます。

関連ページ	
	リモコン撮影時の電子音を消す　→　1：電子音設定（P.113）
	リモコン撮影の受信待機時間を変更する　→　30：リモコン待機時間（P.132）

内蔵フラッシュを活用する

撮影状況に合わせて、カメラの内蔵フラッシュを発光させたり、発光方式（フラッシュモード）を切り換えたりすることで、暗い場所や逆光下など、様々な場所での撮影を楽しむことができます。

内蔵フラッシュを使うには

内蔵フラッシュを使って撮影する手順は、撮影モードによって以下のように異なります。

撮影モード AUTO、ポートレート、クローズアップ、夜景ポートレート

① 撮影モードを設定する
② フラッシュモードを設定する （P.49）
③ シャッターボタンを半押しする
必要に応じて自動的に内蔵フラッシュが上がり、発光します。フラッシュが不要な場合はフラッシュは上がらず、発光もしません。内蔵フラッシュを発光させたくないときは、フラッシュモードを発光禁止にしてください（P.49）。

撮影モードP、S、A、M

① 撮影モードを設定する
② ⚡ ボタンを押して、内蔵フラッシュを手動で上げる
③ フラッシュモードを設定する （P.49）
④ 測光モードや露出を決定してから、撮影する
内蔵フラッシュを上げているときは、周囲の明るさなどにかかわらず、フラッシュは常に発光します。発光させないようにするには、内蔵フラッシュを収納（P.50）してください。

フラッシュモードを設定する

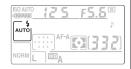
フラッシュモードは、表示パネルに表示されます。設定できるフラッシュモードは、撮影モードによって異なります。詳しくは次ページをご覧ください。

操作方法：⚡ ボタン ＋ メインコマンドダイヤル

⚡ ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのフラッシュモード表示が、撮影モードに応じた内容で変化します。設定したいフラッシュモードに合わせてください。

フラッシュモードについて

フラッシュモードは表示パネルに表示されます。表示の見方は以下の通りです。なお、発光禁止のときは が表示されます。

：赤目軽減発光

人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、赤目軽減ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。

：発光禁止

暗いときや逆光のときでも、内蔵フラッシュは発光しません。

AUTO：通常発光オート（自動発光）

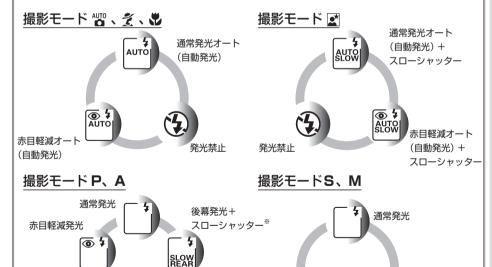
暗いときや逆光のときに、自動的に内蔵フラッシュが上がり、必要に応じて発光します。この表示が無いフラッシュモードでは、フラッシュを発光させたいときに、 ボタンを押して内蔵フラッシュを上げる必要があります。

SLOW：スローシャッター

夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードが遅くなります。

REAR：後幕発光

シャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。詳しくは次ページのヒントをご覧ください。この表示が無いフラッシュモードでは、シャッターが開いた直後にフラッシュが発光します。

フラッシュモードは、撮影モードによって以下のように異なります。

※ メインコマンドダイヤルでフラッシュモードを操作している間は、**SLOW**の文字は表示されません。

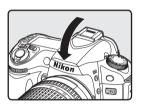
ヒント 後幕発光とは

通常発光時はシャッターが開くと同時にフラッシュが発光します（先幕発光）が、後幕発光ではシャッターが閉じる直前にフラッシュが発光するため、動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したい場合などに適しています。

先幕発光

後幕発光

内蔵フラッシュの収納

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、フラッシュを使わないときは常に収納してください。

内蔵フラッシュについてのご注意

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、被写体から60cm以上離れてください。
- 内蔵フラッシュ撮影が可能なレンズは、焦点距離が18～300mmのCPUレンズと、焦点距離が18～200mmの非CPUレンズです。詳しくはP.162をご覧ください。なお、内蔵フラッシュの自動調光は、CPUレンズ装着時しか機能しません。フラッシュの光がさえぎられることがあるので、レンズフードは外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュ撮影時は、（連続撮影）モードでも、連続撮影はできません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するため、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。

関連ページ	
	フラッシュの調光量を固定して撮影する → FVロック（P.123）
	内蔵フラッシュの発光方式を変更する → 22：内蔵フラッシュ発光（P.126）
	フラッシュの効果を撮影前に確認する → 26：モデリング発光（P.131）
	別売スピードライト（フラッシュ）を使って撮影する → 装着できるスピードライト（P.163）
	フラッシュ撮影時の発光量制御について → 資料集（P.191）
	内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限 → 資料集（P.191）
	内蔵フラッシュの調光範囲と限界絞り値 → 資料集（P.191）

ISO感度を設定する

操作方法：（液晶モニター消灯時に）（ISO）ボタン ＋ メインコマンドダイヤル

暗い場所で撮影するときは、シャッタースピードが遅くなり手ぶれしやすくなりますが、ISO感度を標準（ISO100相当）よりも高くすれば、シャッタースピードが速くなり、手ぶれしにくくなります。ISO感度はISO100～1600相当の間で、1/3段刻みで設定できます。また､ISO1600相当から、さらに約0.3段～約1段感度を上げることもできます。

ISO感度の設定方法

液晶モニターの消灯時に、（ISO）ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのISO感度表示が変化します。設定したいISO感度に合わせてください。

• 設定できるISO感度は、撮影モードによって以下のように異なります。

AUTO（オート）・シーンモード	AUTO（オート；初期設定）、100～1600、H0.3、H0.7、H1.0
P S A M	100（初期設定）～1600、H0.3、H0.7、H1.0

• AUTO（オート）ではカメラが自動的にISO感度を決めます。
• ISO1600よりもさらに高い感度は、H0.3（ISO2000相当）、H0.7（ISO2500相当）、H1.0（ISO3200相当）と表示されます。これらの超高感度域で撮影した画像には、ざらつきや色むらが特に発生しやすくなります。
• ISO感度は、撮影メニュー（P.101）でも設定できます。

ヒント ISO感度とは

フィルムカメラで使うフィルムのISO感度に相当します。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。このため、暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的ですが、一方で、撮影した画像が多少ざらつく場合があります。

ISO感度についてのご注意

• カスタムメニュー「**7：感度自動制御**」を「**する**」にしているときは、ISO感度をH0.3、H0.7、H1.0にできません。
• 「**ISO感度**」を「**AUTO**」にしてから撮影モードを**P**、**S**、**A**、**M**のいずれかに切り換えた場合は、以前に設定したISO感度に戻ります。

関連ページ	
	高感度撮影時のノイズを低減する → 高感度ノイズ低減（P.108）
	撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**でISO感度を自動制御する → 7：感度自動制御（P.116）

最初の設定に戻す（ツーボタンリセット）

カメラの撮影に関する設定を初期状態に戻すことができます。 ボタンと AF ボタン（それぞれのボタンに緑色の●印がついています）を同時に約2秒間押すと、表示パネルがいったん消灯してから再点灯し、各機能が以下の初期設定状態に戻ります。

撮影動作モード（P.42）		1コマ撮影
画質モード（P.40）		NORMAL
画像サイズ（P.41）		L
ISO感度設定（P.51）		
撮影モード	AUTO	AUTO
撮影モード	**P S A M**	100
ホワイトバランス（P.69、106）		オート
	微調整値（P.70）	解除（0）
	色温度設定（P.71）	5000K
AFモード（P.34）		AF-A
フォーカスエリア（P.35）		中央※1
測光モード（P.61）		マルチパターン測光

AEロックのホールド状態（P.62、125）		解除
プログラムシフト（P.56）		解除
露出補正（P.64）		解除（0.0）
オートブラケティング（P.66）		解除（0.0）※2
調光補正（P.65）		解除（0.0）
FVロック（P.123）		解除
フラッシュモード（P.49）		
撮影モード	AUTO	通常発光オート
撮影モード		通常発光オート＋スローシャッター
撮影モード	**P S A M**	通常発光
多重露出（P.109）		解除

※1 カスタムメニュー「**2：AFエリアモード設定**」（P.114）が「**オートエリアAFモード**」のときは、フォーカスエリアは表示されません。

※2 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュブラケティングの補正ステップは1段に、WBブラケティングの補正ステップは1になります。

関連ページ　初期設定について　→　資料集（P.185）

【上級編】PSAMモードで撮影する

いよいよ【上級編】です。ここでは、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**だけで使うことができる高度な機能について説明しています。

【上級編】でできること

シャッタースピードと絞りをカメラまかせにして、気軽に撮影したい	撮影モードP（マルチプログラムオート）：P.56
動きの速い被写体をとらえたい 被写体の動きを強調したい	撮影モードS（シャッター優先オート）：P.57
背景の奥行きやぼかし方を調整したい	撮影モードA（絞り優先オート）：P.58
シャッタースピードと絞りを自分で設定したい	撮影モードM（マニュアル）：P.59
カメラが被写体の明るさを測る方法を設定したい	測光モード：P.61
画像を明るく／暗くしたい	露出補正：P.64
フラッシュの発光量を微調整したい	調光補正：P.65
露出などを少しずつずらした画像を続けて撮影したい	オートブラケティング：P.66
画像の色を見た目と合わせたい 特殊な照明の下で撮影したい	ホワイトバランス：P.69

【設定編】にも、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**だけで利用できる機能があります。

撮影意図に合わせて画像の仕上がりを調整したい	仕上がり設定：P.102
複数の画像を重ねて写し込みたい	多重露出：P.109

基本的な撮影方法

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**では、露出（次ページヒント参照）を自分で設定できるほか、ホワイトバランスなどを変更してさらに高度な撮影を楽しむことができます。

撮影の意図に応じて、シャッタースピードと絞りのそれぞれを自分で設定するか、カメラまかせにするかによって、以下の4つの撮影モードを使い分けてください。

P	**マルチプログラムオート**（P.56）	シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞りの両方をカメラが自動制御します。
S	**シャッター優先オート**（P.57）	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞りはカメラが自動制御します。
A	**絞り優先オート**（P.58）	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞りを自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M	**マニュアル**（P.59）	シャッタースピードと絞りの両方を自分で設定します。長時間露光（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。

✓ 撮影モードP、S、A、Mについてのご注意

- CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリング（P.160）は、必ず最小絞り（最大値）にセットしてください。
- 非CPUレンズをお使いの場合は、撮影モード**M**で撮影してください（撮影モード**P**、**S**、**A**ではシャッターがきれません）。絞りの設定や確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。カメラの露出計（露出インジケーター）や感度自動制御（P.116）は利用できません。詳しくは「装着可能なレンズと使用可能な機能」（P.160）をご覧ください。

関連ページ	
関連ページ	ISO感度をカメラに自動制御させる → 7：感度自動制御（P.116）
	露出値の刻み幅を変更する → 10：露出値ステップ幅（P.118）
	メイン／サブコマンドダイヤルの役割を変更する → 15：コマンドダイヤル変更（P.122）
	フラッシュの効果を撮影前に確認する → 26：モデリング発光（P.131）

ヒント 露出とは

デジタルカメラで撮影した画像の明るさは、シャッター幕が開いている間に撮像素子（CCD）が受け取った光の量によって決まります。この光の量を「露光量」といい、絞りやシャッタースピードなどを調整して露光量を決めることを「露出を合わせる」といいます。

絞りはレンズから入る光の太さを調整する役割を担い、その開口部の大きさは絞り値（＝F値）で表されます。絞り値が小さいほど絞りの開口部が大きくなり、露光量が多くなります。反対に絞り値が大きいほど、絞りの開口部が小さくなり、露光量は少なくなります。

一方、シャッタースピードは、シャッター幕が開いている時間のことで、レンズから入ってきた光が撮像素子に当たる時間を調整します。シャッタースピードは1/60秒や1/250秒のように表され、シャッタースピードが遅い（＝シャッター幕が開く時間が長い）ほど露光量が多くなり、シャッタースピードが速い（＝シャッター幕が開く時間が短い）ほど露光量は少なくなります。

絞りとシャッタースピードの関係は、水道の蛇口からコップに水を注ぐ例えで説明できます。コップにちょうどいっぱいの水が入った状態を適正な露出とし、水道の栓の開き具合をレンズの絞り、水を流す時間をシャッタースピードとします。コップにちょうどいっぱいの水を注ぐ（＝適正な露出を得る）には、水道の栓を開ける度合い（＝絞り）と、栓を開けている時間（＝シャッタースピード）の両方をうまく調節しなければなりません。水が少ないと露出アンダーで画像が暗くなり、水が多すぎてあふれると露出オーバーで画像が明るくなります。

同じ露出を得るための絞りとシャッタースピードの組み合わせは複数ありますが、絞りとシャッタースピードの組み合わせ方によって、画像の仕上がりは下のように大きく異なります。絞りは被写界深度（P.58）を変化させ、シャッタースピードは被写体の動きの表現を変化させる効果があります。

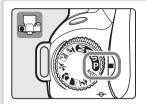
速いシャッタースピードのとき
1/1600秒

遅いシャッタースピードのとき
1秒

絞りを絞り込んだとき
f36

絞りを開いたとき
f3

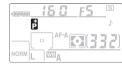
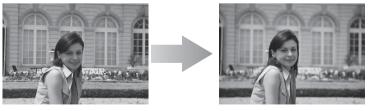
P：マルチプログラムオートでの撮影方法

被写体の明るさに応じて、露出が適正になるようにカメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。シャッターチャンスを逃したくないスナップなど幅広い撮影に適しています。

1 撮影モードダイヤルを **P** に合わせる

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

ヒント **プログラムシフト**

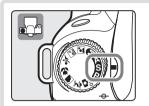
撮影モード**P**で撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフト中は表示パネルに P* マークが点灯します。

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さくしたい）場合や動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードにしたい）場合にはメインコマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きくしたい）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードにしたい）場合にはメインコマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク P* が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたときや、他の撮影モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。

シャッタースピード：1/250秒
絞り値：f8

シャッタースピード：1/2000秒
絞り値：f2.8
絞りを開いて背景をぼかす

関連ページ　プログラム線図　→　資料集（P.188）

S：シャッター優先オートでの撮影方法

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。

1　撮影モードダイヤルを S に合わせる

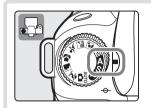
2　シャッタースピードを設定する

- メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルとファインダー内下部のシャッタースピード表示が変化します。設定したいシャッタースピード（30秒〜1/4000秒）に合わせてください。

3　構図を決め、ピントを合わせて撮影する

関連ページ　bulb／- -が点滅したときは　→　警告メッセージ（P.180）

A：絞り優先オートでの撮影方法

絞りを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞りを絞り込む(絞り値を大きくする) ことによって、近くから遠くまでピントのあった風景写真を撮影したり、絞りを開く(絞り値を小さくする) ことによって背景をぼかし、メインとなる被写体を浮き立たせた写真を撮影するなど、被写界深度を調節して撮影する場合に適しています。

1 撮影モードダイヤルを A に合わせる

2 絞りを設定する

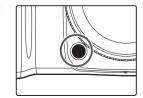
- サブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルとファインダー内下部の絞り値表示が変化します。設定したい絞り値に合わせてください。
- 設定できる最小絞り、開放絞りはレンズによって異なります。

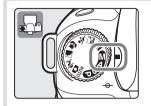
3 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

ヒント 被写界深度とは

ピントを合わせた位置を挟んで、その奥と手前でピントが合って見える範囲のことです。被写界深度が浅いほどピントを合わせた位置以外の部分がぼけて写り、深いほど画像全体がシャープに写ります。被写界深度は、絞りを開く（絞り値を小さくする）ほど浅くなり、絞り込む（絞り値を大きくする）ほど深くなります（被写界深度は絞り値だけでなく、焦点距離や撮影距離によっても左右されます）。一般に、ポートレート写真では被写界深度を浅くして背景をぼかし、風景写真では被写界深度を深くとって全体をシャープに写すと効果的です。

ヒント 被写界深度のプレビュー

プレビューボタンを押し続けると、現在の設定で撮影する場合の絞り値まで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

M：マニュアルでの撮影方法

シャッタースピードと絞りの両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露光（バルブ、P.60）で撮影する場合にもこの撮影モードを使います。

1　撮影モードダイヤルを M に合わせる

2　ファインダー内下部の露出インジケーター（下記）を確認しながら、シャッタースピードと絞りを設定する

- メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルとファインダー内下部のシャッタースピード表示が変化します。設定したいシャッタースピード（bulb または30秒〜1/4000秒）に合わせてください。
- サブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルとファインダー内下部の絞り値表示が変化します。設定したい絞り値に合わせてください。
- シャッタースピードと絞り値は、どちらを先に設定しても構いません。

3　構図を決め、ピントを合わせて撮影する

シャッタースピード：1/60秒
絞り値：f4.5

長時間露光撮影の方法

長時間露光撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の２種類があります。花火や夜景、天体写真の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。長時間露光撮影では、手ぶれを抑えるために三脚や別売のリモコン（P.170）、リモートコード（P.170）が必要です。

バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。 撮影モード**M**でシャッタースピードを bulb にすると、バルブ撮影ができます。
タイム撮影	D80でタイム撮影をするには、別売のリモコンML-L3（P.170）が必要です。リモコンの送信ボタンを一度押すとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。 撮影モード**M**でシャッタースピードを bulb にしてから撮影動作モード（P.42）を２秒リモコンまたは瞬時リモコンモードにすると、シャッタースピードの表示が - - に変わります。この状態でリモコンの送信ボタンを押すと、２秒後または瞬時にシャッターが開き、もう一度押すと閉じます。ただしシャッターは、開いてから30分経つと自動的に閉じます。

シャッタースピード：35秒
絞り値：f25

ヒント 露出インジケーターについて

設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差が、ファインダー内下部に表示されます。この「露出インジケーター」の見方は以下のとおりです（表示内容はカスタムメニュー「**10：露出値ステップ幅**」（P.118）の設定によって変化します）。

「露出値ステップ幅」が「1/3段」のとき	「露出値ステップ幅」が「1/2段」のとき
適正露出	適正露出
1/3段アンダー	1/2段アンダー
２段以上オーバー	３段以上オーバー

- 被写体が明るすぎ、または暗すぎてカメラの測光範囲を超えた場合は、露出インジケーターが点滅します。
- 長時間露光（バルブ）撮影時と非CPUレンズ使用時は、露出インジケーターは表示されません。

長時間露光時のご注意

- 露光時間が長くなると、画像にノイズが発生することがあります。このノイズは、あらかじめ撮影メニュー「**長秒時ノイズ低減**」（P.108）を「**する**」にしておくことで低減できます。
- 長時間露光撮影では、撮影中のバッテリー切れを防ぐため、フル充電したバッテリー、別売のACアダプターをお使いになることをおすすめします。

測光・露出を工夫して撮影する

測光モード

操作方法：[測光] ボタン ＋ メインコマンドダイヤル

適正な露出を得るために、カメラが被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。測光モードは以下の３種類から選ぶことができます。

マルチパターン測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図など様々な情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
中央部重点測光	画面中央のφ8mm相当（初期設定）の円内を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。
スポット測光	フォーカスエリアに重なるφ3.5mm相当（全画面の約2.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 • 測光エリアは、フォーカスエリアに連動します。ただし、「**AFエリアモード**」（P.35）が「**オートエリアAFモード**」のときや、非CPUレンズ使用時は、中央のフォーカスエリアに相当する部分を測光します。

測光モードの設定方法

[測光] ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの測光モード表示が変化します。設定したい測光モードに合わせてください。

✓ フィルター係数のかかるフィルター（露出に影響するフィルター）使用時のご注意

フィルター係数のかかるフィルター（P.168）をお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。マルチパターン測光では充分な効果が得られない場合があります

ヒント マルチパターン測光について

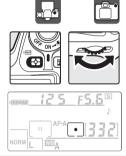
このカメラは420分割RGBセンサーを搭載しています。GタイプまたはDタイプレンズ（P.160）使用時は、このセンサーから得られる様々な情報を最大限に利用できる「3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ」という測光方式になります。その他のCPUレンズをお使いのときは、距離情報を考慮しない「RGBマルチパターン測光Ⅱ」という測光方式になります。

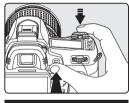
関連ページ　中央部重点測光の測光範囲を変更する　→　12：中央部重点測光範囲（P.119）

AEロック撮影

操作方法：AE-L AF-L ボタン

AEロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。撮影モード**P**、**S**、**A**で利用できます※。

※ 撮影モード AUTO、、、、、、 でもAEロックは作動しますが、マルチパターン測光での撮影となり、充分な効果が得られないため、おすすめできません。

1 **測光モード（P.61）を「中央部重点測光」または「スポット測光」にする**

- 「マルチパターン測光」は充分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。

2 **露出を合わせたい部分にフォーカスエリアを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま AE-L AF-L ボタンを押して、露出を固定（ロック）する**

- AE-L AF-L ボタンを押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません
- ファインダー内下部に**AE-L**が点灯します。
- オートフォーカス撮影時は、ピントも同時にロックされるので、ピント表示●の点灯もご確認ください。

ヒント **AEとは**

Automatic Exposureの略で、露出をカメラが自動的に制御する「自動露出」の意味です。AEによって決定された露出を固定することを「AEロック」といいます。

3 AE-L AF-L ボタンを押したまま、構図を決めて撮影する

ヒント **シャッタースピードと絞り値の変更**

AE-L AF-L ボタンを押している間も以下の操作ができます。

撮影モード	操作
P（マルチプログラムオート）	プログラムシフト（P.56）
S（シャッター優先オート）	シャッタースピードの変更
A（絞り優先オート）	絞り値の変更

- 表示パネルやファインダー内下部には変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードは変更できません。

関連ページ AEロックの操作方法を変更する → 18：AE-L/AF-Lボタンの機能（P.125）
19：半押しAEロック（P.125）

露出補正

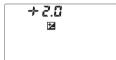
操作方法：[±] ボタン ＋ メインコマンドダイヤル

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることで、画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モード（P.61）を「中央部重点測光」または「スポット測光」にすると効果的です。

撮影モード**M**では、露出インジケーター表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

露出補正の方法

[±] ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの露出補正表示が変化（1/3段または1/2段刻みで±5段）します。設定したい補正量に合わせてください。

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内下部に [±] マークが表示されます。
- [±] ボタンを押すと、表示パネルのほか、ファインダー内下部でも以下のように補正量が確認できます。

－0.3段補正　　＋2段補正

- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正するのが基本です。
- 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

－１段補正

露出補正無し

＋１段補正

関連ページ	露出補正の刻み幅を変更する → 10：露出値ステップ幅（P.118）
	[±] ボタンを使わずに露出補正を行う → 11：露出補正簡易設定（P.118）

調光補正

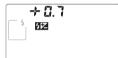
操作方法：ボタン ＋ サブコマンドダイヤル

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くしてメインの被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくしてメインの被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

調光補正の方法

ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの露出補正表示が変化（1/3段または1/2段刻みで－3段～＋1段）します。設定したい補正量に合わせてください。

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内下部にマークが表示されます。
- ボタンを押すと、表示パネルのほか、ファインダー内下部でも以下のように補正量が確認できます。

125 F5.6 0.3
－0.3段補正

125 F5.6 0.7
＋0.7段補正

- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正するのが基本です。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

ヒント 別売スピードライト装着時の調光補正

別売のスピードライトSB-800、SB-600装着時も、調光補正を行うことができます。

関連ページ 調光補正の刻み幅を変更する → 10：露出値ステップ幅（P.118）

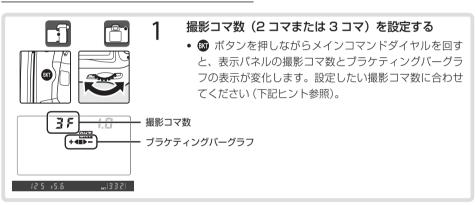
オートブラケティング

操作方法：BKT ボタン ＋ コマンドダイヤル

露出の調整が難しい状況などでの撮影に効果的な機能で、シャッターボタンを押すたびに、露出などを少しずつずらした画像を続けて撮影することができます。ここでは初期設定の「**AE・フラッシュブラケティング**」（露出とフラッシュの発光量をずらしながら撮影する）について説明します。カスタムメニュー「**13：オートブラケティングのセット**」（P.119）の設定を変更すると、露出だけ、またはフラッシュの発光量だけを単独でずらすことや、ホワイトバランスをずらして撮影することもできます。

AE・フラッシュブラケティング撮影の方法

1 撮影コマ数（2 コマまたは 3 コマ）を設定する

- BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの撮影コマ数とブラケティングバーグラフの表示が変化します。設定したい撮影コマ数に合わせてください（下記ヒント参照）。

ヒント 撮影コマ数設定時の表示の見方

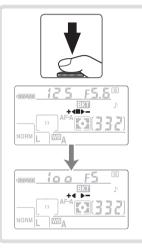
撮影コマ数	ブラケティングバーグラフ	意味
3F	+◀■▶−	「補正なし」→「−側に補正」→「+側に補正」の順に3コマ撮影します
+2F	+◀■	「補正なし」→「+側に補正」の順に2コマ撮影します
−2F	■▶−	「補正なし」→「−に補正」の順に2コマ撮影します

ヒント ±2段を超えるブラケティングを行うには

ブラケティングに露出補正（P.64）を組み合わせると、±2段を超えるブラケティング撮影が可能です。

関連ページ	
	ブラケティング撮影の撮影コマ数と補正段数の組み合わせ → 資料集（P.189）
	オートブラケティングの補正段数の刻み幅を変更する → 10：露出値ステップ幅（P.118）
	オートブラケティングの撮影順を変更する → 14：BKT補正順序（P.122）

2 補正段数（0.3 段〜 2 段）を設定する

- BKT ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの補正段数表示が変化します。設定したい補正段数に合わせてください。

3 構図を決めて 1 コマ目を撮影し、続けて残りのコマを撮影する

- シャッタースピードと絞り値は、補正された値が表示されます。
- 初期設定では、3コマ撮影時は「補正無し」→「－側に補正」→「＋側に補正」の順に、2コマ撮影時には「補正無し」→「補正あり」の順に撮影されます。
- 表示パネルのブラケティングバーグラフから、基準露出となるコマを撮影すると ■ が、マイナス側のコマを撮影すると ▶━ が、プラス側のコマを撮影すると ✚◀ が消灯します。左図は、撮影コマ数を3コマに設定し、最初のコマを撮影した直後の表示例です。

ブラケティング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルの撮影コマ数を0にしてください（BKT が消灯します）。ただし、設定した補正段数は記憶されます。

AE・フラッシュブラケティングについてのご注意

- （連続撮影）モードでも、ブラケティング撮影が終了した時点で撮影はいったん停止します。
- 撮影中に電源をOFFにしても、再びONにすれば残りの撮影を再開できます。いったん電源をOFFにしてSDカードを交換したときも同様です。
- 撮影中に**P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モードに変更すると、ブラケティング撮影は終了します。ただし、撮影モードを**P**、**S**、**A**、**M**のいずれかに戻すと、以前設定した撮影コマ数と補正段数で、AE・フラッシュブラケティングが設定されます。
- 撮影中にカスタムメニュー「**13：オートブラケティングのセット**」（P.119）を「**WBブラケティング**」に変更すると、AE・フラッシュブラケティングは終了します。

ヒント AEブラケティング

AEブラケティングでは、撮影モードによって補正される内容（シャッタースピード／絞り値）が異なります。

撮影モード	変化する内容
P（マルチプログラムオート）	シャッタースピードと絞り値※1
S（シャッター優先オート）	絞り値※1
A（絞り優先オート）	シャッタースピード※1
M（マニュアル）	シャッタースピード※2

※1 カスタムメニュー「**7：感度自動制御**」（P.116）が「**する**」のときは、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると、自動的にISO感度が変化します。

※2 カスタムメニュー「**7：感度自動制御**」（P.116）が「**する**」のときは、まずISO感度を変化させて基準となる露出を適正露出に近づけてから、オートブラケティングでシャッタースピードを変化させます。

ホワイトバランスを変更する

操作方法：（液晶モニター消灯時に）?/O‐ (WB) ボタン ＋ メインコマンドダイヤル

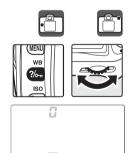
光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定の**A**（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

ホワイトバランスは以下の９種類から選ぶことができます。

ホワイトバランス		内容
A	**オート**	カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、この設定のままで撮影できます。
電球アイコン	**電球**	白熱電球の下での撮影に適しています。
蛍光灯アイコン	**蛍光灯**	白色蛍光灯の下での撮影に適しています。
晴天アイコン	**晴天**	晴天の屋外での撮影に適しています。
フラッシュアイコン	**フラッシュ**	内蔵フラッシュや別売のスピードライトを使って撮影する場合に適しています。
曇天アイコン	**曇天**	曇り空の屋外での撮影に適しています。
晴天日陰アイコン	**晴天日陰**	晴天の日陰での撮影に適しています。
K	**色温度設定**	色温度を直接指定します（P.71）。
PRE	**プリセット**	自分で選んだ被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、SDカード内の画像と同じホワイトバランスに合わせることができます（P.72）。

ホワイトバランスの変更方法

液晶モニターの消灯時に、?/O‐（WB）ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのホワイトバランス表示が変化します。設定したいホワイトバランスに合わせてください。

- ホワイトバランスは撮影メニュー（P.101）でも設定できます。

関連ページ	
	ホワイトバランスを変えながら撮影する → 13：オートブラケティングのセット（P.119）
	ホワイトバランスの色温度 → 資料集（P.190）

ホワイトバランスの微調整

操作方法：(液晶モニター消灯時に) ?/o-n (WB) ボタン ＋ サブコマンドダイヤル

ホワイトバランスを K (色温度設定)、PRE (プリセット) 以外にしたときは、さらに微調整を行うことができます。

- 微調整値は１段刻みで±３段の範囲で設定できます。微調整値に対応する色温度については、付録 (P.190) をご覧ください。
- 「－」方向に微調整すると画像が赤っぽく、「＋」方向に微調整すると青っぽくなります。

ホワイトバランスの微調整の方法

液晶モニターの消灯時に、?/o-n (WB) ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのホワイトバランス微調整値表示が変化します。設定したい微調整値に合わせてください。

微調整値を設定すると、表示パネルに右のように表示されます。

- ホワイトバランスの微調整は撮影メニュー (P.106) でも行えます。

【上級編】PSAMモードで撮影する　ホワイトバランスを変更する

関連ページ	ホワイトバランスの各微調整値に対する色温度　→　資料集 (P.190)

色温度設定

操作方法：（液晶モニター消灯時に）?/⊶ (WB) ボタン ＋ サブコマンドダイヤル

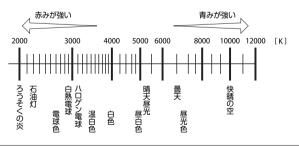
ホワイトバランスを K（色温度設定）にしたときは、ホワイトバランスの色温度を直接数値で指定してください。

色温度の設定方法

液晶モニターの消灯時に、?/⊶（WB）ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの色温度表示が変化します。設定したい色温度（K：ケルビン相当）に合わせてください。

- 色温度設定は、撮影メニュー（P.106）でも行えます。

ヒント 色温度とは

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なってしまいます。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。下図のように色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります。

色温度設定についてのご注意

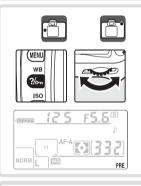
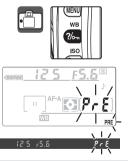
- 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ（蛍光灯）、（フラッシュ）に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

プリセットホワイトバランス

特殊な照明の下で撮影するときなど、**A**（オート）や☀（電球）などの設定では望ましい結果が得られない場合や、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したいときは、事前に取得（プリセット）したホワイトバランスを使うことができます。プリセットデータはカメラで取得する方法と、SDカードから読み込む方法があります。ここでは、カメラで直接、プリセットデータを取得する方法について説明します。SDカードからホワイトバランスを読み込む方法については、P.106をご覧ください。

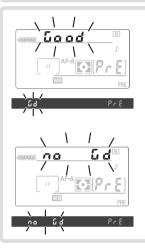
プリセットデータをカメラで取得するには

プリセットデータとして保存できる「取得データ」は1つだけです。カメラでプリセットデータを取得するたびに、以前保存した「取得データ」は、新しいデータに置き換えられるので、ご注意ください。

1 撮影時に使う照明と、白またはグレーの被写体を用意する

2 液晶モニターの消灯時に、?/⊶ (WB) ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルのホワイトバランス表示を PRE に合わせる

3 いったん ?/⊶ (WB) ボタンを放してから、もう一度 ?/⊶ (WB) ボタンを 1.5 秒以上押し続ける

- プリセット取得モードになり、表示パネルとファインダー内下部に、左のような表示が点滅します。
- プリセット取得をやめるには、もう一度 ?/⊶ (WB) ボタンを押してください。

4　撮影時に使う照明の下で、用意した白またはグレー（無彩色）の被写体をファインダーいっぱいにとらえて、シャッターボタンを押す

- プリセットデータが取得されます。ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットデータは正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、SDカードに画像は記録されません。

5　表示パネルとファインダー内下部に、左のように点滅表示されたことを確認する

- データ取得に成功しました。これで、撮影時の照明の色に合わせてホワイトバランスが変更されました。
- 約6秒間点滅後、撮影できる状態に戻ります。点滅中にシャッターボタンを半押しすれば、すぐに撮影できます。

- 左のように表示された場合、データ取得は失敗です。原因として、被写体が明るすぎる、または暗すぎることが考えられます。シャッターボタンを半押しすると点滅表示が消え、手順4の状態に戻ります。

☑ データ取得についてのご注意

- ホワイトバランスを厳密に合わせたいときは、市販の18%標準反射板を使ってプリセットデータを取得してください。
- 適正露出で撮影してください。

画像をカメラで再生する

撮影した画像は、液晶モニターで再生することができます。再生方法には、画像を1コマずつ再生する「1コマ表示モード」と、複数の画像を一覧表示する「サムネイル表示モード」の2種類があります。

画像を1コマずつ再生する（1コマ表示モード）

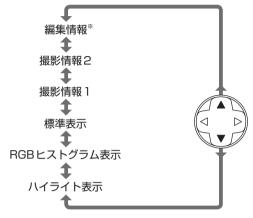
▶ ボタンを押すと、液晶モニターに、最後に撮影した画像が表示されます。

- 縦位置で撮影された画像は、右のように縦位置で再生されます。

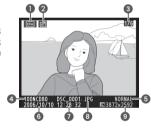
1コマ表示モードでの操作方法

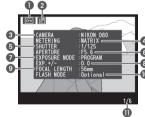
前後の画像を見る	マルチセレクター（◀▶）または メインコマンドダイヤル	マルチセレクターの◀を押す（またはメインコマンドダイヤルを左に回す）と前の画像が、▶を押す（右に回す）と次の画像が表示されます。
画像情報の表示	マルチセレクター（▲▼）または メインコマンドダイヤル	表示中の画像についての詳しい情報が表示されます（P.75）。
画像を拡大する	拡大ボタン	表示中の画像が拡大表示されます（P.78）。
画像を削除する	削除ボタン	表示中の画像を削除します（P.80）。
画像を保護する	?/プロテクトボタン	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（P.79）。
複数画像を一覧表示する	サムネイルボタン	サムネイル表示モード（P.77）に切り換わります。
撮影に戻る	シャッターボタンの半押しまたは ▶	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニュー（P.95）が表示されます。
画像編集メニューを表示する	OK	表示中の画像について、画像編集メニュー（P.147）が表示されます。

画像情報の表示

1コマ表示モードでは、マルチセレクターの▲または▼を押す（またはサブコマンドダイヤルを回す）と、以下のように表示内容が切り換わり、画像についての詳しい情報を見ることができます。

※ 画像編集メニューで作成した画像の場合にだけ表示されます。

標準表示

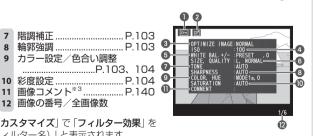
1 プロテクト設定の有無 P.79
2 画像編集の有無 P.147
3 画像の番号／全画像数
4 フォルダー名 P.141
5 画質モード P.40
6 撮影日付 ....P.17、138
7 撮影時刻 ....P.17、138
8 ファイル名 P.39
9 画像サイズ P.41

撮影情報 1

1 プロテクト設定の有無 P.79
2 画像編集の有無 P.147
3 カメラ名
4 測光モード P.61
5 シャッタースピード P.56-60
6 絞り値 P.56-60
7 撮影モード P.42
8 露出補正値 P.64
9 焦点距離 P.14
10 フラッシュモード P.48
11 画像の番号／全画像数

撮影情報 2

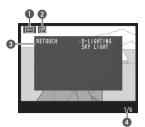
1 プロテクト設定の有無 P.79
2 画像編集の有無 P.147
3 仕上がり設定※1 .... P.102
4 ISO感度※2 .... P.51
5 ホワイトバランス／
　ホワイトバランス微調整 P.69
6 画像サイズ／画質モード P.39
7 階調補正 P.103
8 輪郭強調 P.103
9 カラー設定／色合い調整
　............................P.103、104
10 彩度設定 P.104
11 画像コメント※3 .... P.140
12 画像の番号／全画像数

※1 「**仕上がり設定**」→「**白黒**」→「**カスタマイズ**」で「**フィルター効果**」を適用した場合は、「B&W、（フィルター名）」と表示されます。

※2 撮影時に感度自動制御によって感度が変更された場合は、赤字で表示されます。

※3 36文字まで登録できますが、撮影情報には最初の13文字だけが表示されます。

編集情報※

1 プロテクト設定の有無 P.79
2 画像編集の有無.................. P.147
3 画像編集メニュー（P.147）で行った画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は順番に表示されます。
4 画像の番号／全画像数

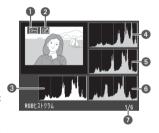
※ 画像編集メニューで作成した画像の場合にだけ表示されます。

ハイライト表示※

1 プロテクト設定の有無 P.79
2 画像編集の有無.................. P.147
3 画像の白とび部分が点滅表示されます。
4 画像の番号／全画像数

※ ハイライトとは、画像の中で、白に近い明るい階調の領域のことです。ハイライト部の中で、白い部分の階調が飽和してデータが失われた状態のことを「白とび」といいます。反対に、黒い部分の階調が失われた状態のことを「黒つぶれ」といいます。

RGB ヒストグラム表示※

1 プロテクト設定の有無 P.79
2 画像編集の有無.................. P.147
3 RGBのヒストグラム
4 赤色（R）のヒストグラム
5 緑色（G）のヒストグラム
6 青色（B）のヒストグラム
7 画像の番号／全画像数

※ ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表す山状のグラフのことで、横軸は画像の明るさ、縦軸は画素数を表します。明るい画像では山が右に寄り、暗い画像では左に寄ります。山裾が右端に達していると白とび、左端に達していると黒つぶれを起こしていることになります。なお、D80のヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。

関連ページ	
	画像を常に横位置で表示する → 縦横位置情報の記録（P.146） 縦位置自動回転（P.97）
	撮影後の画像が自動表示されないようにする → 6：撮影直後の画像確認（P.116）
	液晶モニターの点灯時間を変更する → 27：液晶モニターのパワーオフ（P.132）

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示モード）

1コマ表示モードのときに ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り換わります。 ボタンを押すたびに、4コマ表示、9コマ表示の順に切り換わります。

サムネイル表示モードでの操作方法

表示されるコマ数を増やす		1コマ表示時にボタンを押すと4コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと9コマ表示に切り換わります。
表示されるコマ数を減らす		9コマ表示時にボタンを押すと4コマ表示に、4コマ表示時にボタンを押すと1コマ表示に切り換わります。
1コマ表示に戻す	OK	サムネイル表示モードをやめ、1コマ表示モードに戻ります。
画像を選ぶ		拡大表示（P.78）や削除（P.80）、プロテクト（P.79）などの対象となる画像を選ぶときに使います。選んだ画像には、黄色の枠が表示されます。 マルチセレクターの▲▼の代わりにサブコマンドダイヤルを、◀▶の代わりにメインコマンドダイヤルを使うこともできます。
画像を削除する		選択中の画像を削除します（P.80）。
画像を保護する		選択中の画像にプロテクト（保護）を設定します（P.79）。
撮影に戻る	シャッターボタンの半押しまたは	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。
メニューに移る	MENU	メニュー（P.95）が表示されます。

画像を拡大表示する

画像の再生中に 🔍 ボタンを押すと、拡大表示されます。
拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが **L** の場合は約 25 倍、**M** では約 19 倍、**S** では約 13 倍です。

拡大表示中の操作方法

操作	ボタン	説明	
拡大率を上げる	🔍	🔍 ボタンを押すごとに、拡大率が上がります。	拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下に画像全体が縮小表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えますが、再度操作すると表示されます。
拡大率を下げる	縮小ボタン	縮小ボタンを押すごとに、拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）させる	マルチセレクター	画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	
前後の画像を見る	コマンドダイヤル	メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の画像が表示されます。	
拡大表示をやめる	OK	拡大表示をやめ、1 コマ表示モードに戻ります。	
画像を削除する	🗑	拡大表示をやめ、表示中の画像を削除します（P.80）。	
画像を保護する	?/On	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（P.79）。	
撮影に戻る	シャッターボタンの半押しまたは ▶	液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。	
メニューに移る	MENU	メニュー（P.95）が表示されます。	

画像を保護する—プロテクト

大切な画像を誤って削除してしまうことを防ぐために、画像にプロテクト（保護）を設定することができます。ただし、SDカードを初期化（フォーマット、P.19、138）すると、プロテクトを設定した画像も削除されるので、ご注意ください。

1 【1 コマ表示モードのとき】
プロテクトしたい画像を液晶モニターに表示する

【サムネイル表示モードのとき】
プロテクトしたい画像をマルチセレクターで選ぶ

2 ボタンを押す

- 画像にプロテクトアイコン が表示され、プロテクトが有効になります。
- もう一度 ボタンを押すと、 アイコンが消え、プロテクトが解除されます。

ヒント プロテクトの一括解除について

ボタンと ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの「**再生フォルダー設定**」で設定されているフォルダ内のすべての画像のプロテクトが一括で解除できます。

ヒント プロテクト画像のファイル属性

プロテクトを設定した画像は、パソコン上ではDOSファイルフォーマットの「読み取り専用」属性になります。

画像を削除する

SDカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元に戻せないのでご注意ください。ただし、プロテクト（P.79）を設定した画像は、削除できません。

1 【1 コマ表示モードのとき】
削除したい画像を液晶モニターに表示する

【サムネイル表示モードのとき】
削除したい画像をマルチセレクターで選ぶ

2 🗑 ボタンを押す

- 削除の確認画面が表示されます。

- もう一度 🗑 ボタンを押すと、選んだ画像が削除されます。
- 画像の削除を取り消したいときは、▶ ボタンを押してください。

関連ページ　複数の画像をまとめて削除する　→　削除（P.96）

【接続編】テレビやパソコン、プリンターと接続しよう

画像をテレビで見る

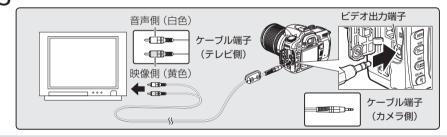
カメラをテレビやビデオなどに接続して、撮影した画像をテレビで見ることや、ビデオデッキで録画することができます。接続には、カメラに付属のオーディオビデオケーブルEG-D2（以下、AVケーブル）をお使いください。

1 セットアップメニューの「**ビデオ出力**」を、テレビに合わせる（P.139）。

- 日本国内では通常、「**NTSC**」（初期設定）にしてください。

2 カメラの電源をOFFにする

- AVケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

3 カメラとテレビを以下のように接続する

4 テレビの入力をビデオ入力に切り換える

5 カメラの電源をONにする

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- カメラをテレビに接続している間は、液晶モニターは点灯しません。

- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のACアダプター EH-5をお使いになることをおすすめします。ACアダプター接続中は、液晶モニターのパワーオフ設定は10分に固定されます。また、表示パネルは常に点灯します。
- カメラをテレビに接続すると、BGM付きのPictmotion（P.97）が楽しめます。

画像をパソコンに転送する

付属のUSBケーブルUC-E4を使って、撮影した画像をパソコンに転送することができます。ここでは、付属のPictureProjectを使って画像をパソコンに転送するために、カメラ側で必要な操作について説明します。
PictureProjectを使うと、撮影した画像をパソコンに転送することができるほか、パソコン上で見やすく整理したり、調整したり、印刷したりすることができます。

- 最初に各ソフトウェアの使用説明書をよくお読みになり、必要なソフトウェアをインストールしてください。ソフトウェアの動作環境については、ソフトウェアの使用説明書でご確認ください。
- カメラとパソコンを接続するときは、バッテリーの消耗を防ぐため、別売のACアダプター EH-5をお使いになることをおすすめします。

ヒント 別売のCamera Control Proについて

別売のCamera Control Pro (P.170) では、パソコンからカメラをコントロールすることができます。

Camera Control Proを使用してカメラをパソコンからコントロールするときは、「**USB設定**」(P.139) を「**PTP**」にしてからパソコンと接続してください。Camera Control Proを起動すると、表示パネルとファインダー内下部に右のように表示されます。

カメラとパソコンを接続する前に

パソコンのOS（オペレーティングシステム）に合わせて、USB通信方式を設定します。以下の表を参考にして、セットアップメニューの「**USB設定**」で設定してください (P.139)。初期設定は「**Mass Storage**」です。

OS	USB設定
Windows XP Home Edition Windows XP Professional	「**Mass Storage**」または「**PTP**」
Mac OS X	
Windows 2000 Professional	「**Mass Storage**」

Windows 2000 Professionalをお使いの場合のご注意

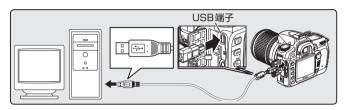
Windows 2000 ProfessionalでPictureProjectの転送機能をお使いになるときは、必ず「**USB設定**」を「**Mass Storage**」にしてください。

「**PTP**」で接続した場合は、「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」というダイアログが表示されます。「キャンセル（中止）」を選んでダイアログを閉じてから、カメラとパソコンの接続を外してください。「**Mass Storage**」に変更してから、再接続してください。

カメラとパソコンを接続する

カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。

1 「USB 設定」（P.139）が、OS に合わせて正しく設定されていることを確認し、パソコンを起動する

2 カメラの電源を OFF にしてから、カメラに付属の USB ケーブル UC-E4 でカメラとパソコンを接続する

USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐに差し込んでください。

3 カメラの電源を ON にする

「**USB設定**」（P.139）が「**Mass Storage**」の場合は、正しく接続されると表示パネルとファインダー内下部に、左のように表示されます（「**PTP**」の場合、パソコンと接続しても表示は変化しません）。

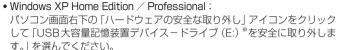
4 画像を転送する

- PictureProjectの使い方については、PictureProjectの使用説明書CD-ROMをご覧ください。

5 転送が終わったら、パソコンとカメラの接続を外す

●USB通信方式がMass Storageの場合：

USBケーブルを外したり、カメラの電源をOFFにする前に、必ず次の操作を行ってください。

- Windows XP Home Edition ／ Professional：
  パソコン画面右下の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックして「USB大容量記憶装置デバイス－ドライブ（E:）※を安全に取り外します。」を選んでください。

- Windows 2000 Professional：
  パソコン画面右下の「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックして「USB大容量記憶装置デバイス－ドライブ（E:）※を停止します」を選んでください。

※「ドライブ(E:)」はお使いのパソコンによって異なります。

- Mac OS X：
  デスクトップ上の「NIKON D80」のアイコンをゴミ箱に捨ててください。

●USB通信方式がPTPの場合：

カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜いてください。

USBハブについてのご注意

USBハブを介しての接続は、動作保証しておりません。

画像をプリンターで印刷する

カメラで撮影した画像をプリント（印刷）します。画像をプリントするには、次のような方法があります。

1. カメラとプリンターを直接つないでプリントする→ P.86

2.SD カードをプリンターのカードスロットに挿入してプリントする

プリンターの使用説明書をご覧ください。
DPOF（P.182）対応プリンターをお使いの場合は、事前にプリント指定（P.93）を行い、指定通りにプリントすることができます。

3.SD カードをプリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼する

事前にプリント指定（P.93）を行った場合は、DPOF対応のプリントサービス取扱店にお持ち込みください。

4. カメラの画像をパソコンに転送してからプリントする

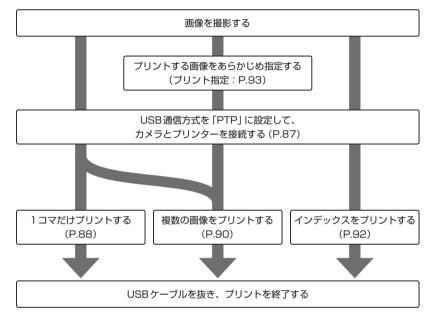
画像の転送方法については「画像をパソコンに転送する」（P.82）をご覧ください。パソコンでのプリント方法はお使いになるソフトウェアやプリンターの使用説明書をご覧ください。

※1〜3の方法では、RAW画像（P.40）はプリントできません。RAW画像はパソコンに転送してから、PictureProjectや別売のCapture NX（P.170）などのソフトウェアを使って、プリントしてください。

ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のACアダプター EH-5をお使いになることをおすすめします。
- ダイレクトプリントする画像を撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で撮影する場合は、「**撮影メニュー**」→「**仕上がり設定**」→「**カスタマイズ**」→「**カラー設定**」（P.103）を「**モードIa（sRGB）**」または「**モードIIIa（sRGB）**」にすることをおすすめします。

カメラとプリンターを直接つないでプリントする

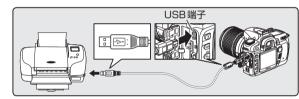
PictBridge（ピクトブリッジ：P.182）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接接続してSDカード内の画像をプリントすることができます。これを「ダイレクトプリント」といいます。ダイレクトプリントは、次の手順で行うことができます。

次ページから、それぞれの手順について詳しく説明します。

USB 通信方式を PTP に設定して、カメラとプリンターを接続する

1 セットアップメニューの「USB 設定」を「PTP」に設定する（P.139）。

2 カメラの電源を OFF にする

3 プリンターの電源を ON にする

4 カメラに付属の USB ケーブル UC-E4 で、カメラとプリンターを接続する

USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐに差し込んでください。

5 カメラの電源を ON にする

- 正しく接続されると、液晶モニターに①の画面が表示された後、②の画面が表示されます。

1コマだけプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから（P.87）、以下の手順でプリントしてください。

1 左の画面でマルチセレクターの◀または▶を押して、プリントしたい画像を選ぶ

- ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶこともできます。ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- ボタンを押すと、拡大表示画面に切り換わります。再生時の拡大表示（P.78）と同様の操作で、細部を確認しながら画像を選ぶことができます。

2 OK ボタンを押す

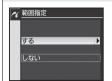
- 左の画面が表示されます。

3 以下の項目を設定する

- ▲または▼で設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	枚数指定
プリントする用紙のサイズを選びます。「**プリンターの設定**」、「**Lサイズ**」、「**2Lサイズ**」、「**はがき**」、「**100x150mm**」、「**4x6 in.**」、「**203x254mm**」、「**Letter**」、「**A3サイズ**」、「**A4サイズ**」のうち、プリンターが対応するサイズのみ表示されます。 OK ボタンを押すと、**2**の画面に戻ります。	プリントする枚数（99枚まで）を設定します。 OK ボタンを押すと、**2**の画面に戻ります。

フチ設定	日付プリント
「**プリンターの設定**」、「**あり**」（フチありプリント）または「**なし**」（フチなしプリント）を選びます。 OK ボタンを押すと、**2**の画面に戻ります。	「**プリンターの設定**」、「**あり**」（日付を印刷する）または「**なし**」（日付を印刷しない）を選びます。 OK ボタンを押すと、**2**の画面に戻ります。

範囲指定

プリント範囲を指定します。「**する**」を選んで ▶ ボタンを押すと、下のような画面が表示されます。

黄色の枠は、プリントされる範囲を示しています。

ボタンを押すと枠が大きく（プリント範囲が広く）なり、ボタンを押すと枠が小さく（プリント範囲が狭く）なります。

マルチセレクターの▲▼◀▶で範囲が移動します。

OK ボタンを押すと範囲が決定し、**2**の画面に戻ります。

4 「**プリント実行**」を選んで OK ボタンを押す

- プリントが始まります。プリントが終わると、**1**の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、もう一度 OK ボタンを押してください。

プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

「**用紙設定**」、「**フチ設定**」、「**日付プリント**」の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に「**プリンターの設定**」を選んでください。

複数の画像をプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから (P.87)、以下の手順でプリントしてください。

1 左の画面で MENU ボタンを押す

2 「プリント画像選択」または「DPOF プリント」を選び、マルチセレクターの▶を押す

- 事前に「**プリント指定**」(P.93) をした場合、「**DPOFプリント**」を選べば、3の画面にプリント指定で設定したプリント枚数が反映されます。

(ここでは「**プリント画像選択**」の画面で説明していますが、「**DPOFプリント**」画面でも操作方法は同じです)

3 ◀または▶でプリントする画像を選び、▲または▼でプリント枚数（99 枚まで）を設定する

- プリントされる画像には、 アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、 アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- ボタンを押している間は、選択中の画像が拡大表示されます。

4 OK ボタンを押す

- 左の画面が表示されます。

プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

「**用紙設定**」、「**フチ設定**」、「**日付プリント**」の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に「**プリンターの設定**」を選んでください。

5 以下の項目を設定する

- ▲または▼で設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	フチ設定
プリントする用紙のサイズを選びます。 OK ボタンを押すと、4の画面に戻ります。表示される用紙サイズは、プリンターによって異なります（P.88）。	「**あり**」（フチありプリント）または「**なし**」（フチなしプリント）を選びます。 OK ボタンを押すと、4の画面に戻ります。

日付プリント
「**あり**」（日付を印刷する）または「**なし**」（日付を印刷しない）を選びます。 ▶を押すと、4の画面に戻ります。

プリント中
1 / 5
OK キャンセル

6 「プリント実行」を選んで OK ボタンを押す

- プリントが始まります。プリントが終わると、2の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、OK ボタンを押してください。

インデックスをプリントする

SDカード内のすべてのJPEG画像（P.40）が一覧できる「インデックス」をプリントすることができます。

1 「複数の画像をプリントする」（P.90）のステップ**2**で「**INDEXプリント**」を選ぶと、右のような画面が表示されます。

2 OK ボタンを押すと、「複数の画像をプリントする」（P.90）のステップ**4**の画面に移ります。以下、ステップ**5**、**6**と同様の手順でプリントしてください。

- 用紙サイズによっては、インデックス印刷ができない場合があります（警告画面が表示されます）。
- インデックス印刷できるのは256コマまでです。SDカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります（確認画面が表示されます）。

☑ プリント中のエラーについてのご注意

プリント中にエラーメッセージが表示された場合は、プリンターの状況（用紙の有無や紙詰まりなど）をご確認ください。エラーの原因を取り除いてから、「**継続**」を選んで OK ボタンを押すと、プリントが再開されます。「**キャンセル**」を選んで OK ボタンを押すと、その時点でプリントを中止します。

- エラーの内容によっては、「**継続**」できない場合があります。

☑ ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像（P.40）はダイレクトプリントできません。これらの画像も画像選択画面に表示されますが、選ぶことはできません。
- 「**フチ設定**」と「**範囲指定**」は、接続したプリンターがそれぞれの機能に対応していない場合は、選ぶことができません。なお、「範囲指定」で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

プリントする画像をあらかじめ指定する（プリント指定）

SDカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはダイレクトプリント（P.85）時に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定することができます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。

プリント指定の方法は以下の通りです。

1 再生メニュー（P.95）の「**プリント指定**」で、「**設定**」を選ぶ

- 「プリント指定」画面が表示されます。

2 マルチセレクターの◀または▶で、プリントしたい画像を選ぶ

3 ▲を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定する

- 設定した画像には、🖶 アイコンとプリント枚数が表示されます。
- ▼を押すと、プリント枚数が減少します。枚数を0にすると、🖶 アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- MENU ボタンを押すと、画像選択を中止して、再生メニューに戻ります。

4 2と3の手順を繰り返して、プリントしたい画像すべてについてプリント枚数を設定する

5 OK ボタンを押す

- 左の画面が表示されます。
- 「**撮影情報**」または「**日付**」を選んで▶を押し、チェックボックスをオンにすると、指定した画像すべてに、撮影情報や撮影した日付がプリントされます。

6 「設定終了」を選んで OK ボタンを押す

- 設定が有効になり、再生メニューに戻ります。

プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、「**プリント指定**」の「**撮影情報**」「**日付**」の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの「**日付プリント**」を「**あり**」にしてください。
- SDカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像（P.40）には、プリント指定ができません。これらの画像も画像選択画面に表示されますが、選ぶことはできません。
- プリント指定を行ったSDカード内のデータを、パソコンなどで削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

再生についての設定 ― 再生メニュー

画像を再生するときの設定は、「再生メニュー」で行います。再生メニューには、以下の項目があります。

- セットアップメニューの「**メニュー表示切り換え**」（P.136）を「**マイメニュー**」にしたときは、登録されているメニュー項目だけが表示されます。
- メニューの操作方法についてはP.10をご覧ください。

再生メニュー
削除
再生フォルダー設定 NCD80
縦位置自動回転 ON
スライドショー
非表示設定
プリント指定

削除	SDカード内の画像を個別に、またはまとめて削除します。	P.96
再生フォルダー設定	どのフォルダーの画像を再生するかを設定します。	P.96
縦位置自動回転	縦位置で撮影した画像を、再生時に自動的に回転して表示するかどうかを設定します。	P.97
スライドショー	SDカード内の画像を1コマずつ順番に自動再生します。BGMなしの「**スタンダード**」とBGM付きの「**Pictmotion**」の2種類のスタイルがあります。「**Pictmotion**」ではBGMと画像切り換え効果を加えながら再生します。	P.97
非表示設定	画像が液晶モニターに表示されないようにします。	P.100
プリント指定	DPOF対応のプリントショップやプリンターで画像をプリントするための設定をします。	P.93、100

画像選択画面の操作方法

再生メニューで画像の削除（P.96）やスライドショー（P.96）の設定、非表示設定（P.100）、プリント指定（P.93、100）、ダイレクトプリント（P.86）を行うときは、右のような「画像選択画面」が表示される場合があります。画像選択画面での操作方法は以下の通りです。

1

マルチセレクターの◀または▶を押して、画像を選びます。

2

画像の細部を確認したいときは、🔍ボタンを押している間、選択中の画像が拡大表示されます。🔍ボタンを放すと元に戻ります。

3

▲または▼を押して、設定のON/OFF（またはプリント枚数）を設定します。設定がONになると、内容に応じたアイコンが表示されます。プリント関連の設定の場合は、アイコンの横にプリント枚数も表示されます。

4

OK ボタンを押すと、設定が有効になります。

削除

画像を削除します。ただし、[プロテクト] がついている画像はプロテクト（P.79）が設定されているため、削除できません。たくさんの画像を削除するときは、時間がかかる場合があります。

選択画像削除	指定した画像だけを削除します。
全画像削除	すべての画像を削除します。

再生フォルダー設定

画像の再生（P.74）時に、画像の記録に使われているフォルダー（画像が記録される場所）内の画像だけを表示するか、すべての画像を表示するかを設定します。

記録中のフォルダー（初期設定）	画像の記録に使われているフォルダー内の画像だけが再生されます。
全てのフォルダー	SDカード内のすべての画像が再生されます。

再生フォルダー設定についてのご注意

- 「**全てのフォルダー**」にした後に撮影を行うと、自動的に「**記録中のフォルダー**」に変更されます。すべてのフォルダーの画像を再生するには、改めて「**全てのフォルダー**」にしてください。
- 画像を記録するフォルダーはセットアップメニューの「**記録フォルダー設定**」（P.141）で設定できます。
- 「**記録中のフォルダー**」にして、SDカードを交換した後、撮影を行わずに画像を再生すると、液晶モニターに「撮影画像がありません」と表示されます。「**全てのフォルダー**」に変更すると、SDカード内の画像が再生できます。

縦位置自動回転

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示するかどうかを設定します。初期設定は「**する**」です。

ただし、「**する**」にしていても、セットアップメニューの「**縦横位置情報の記録**」(P.146) を「**記録しない**」にして撮影した画像は、すべて横位置で表示されます。

スライドショー

撮影した画像を1コマずつ順番に、連続再生する「スライドショー」を行います。BGMなしの「**スタンダード**」と、BGMと画像切り換え効果を加えた「**Pictmotion**」の2種類のスタイルがあります。BGMをお楽しみいただくには、カメラをテレビに接続する (P.81) 必要があります。

スライドショーの楽しみ方

スライドショーを充分にお楽しみいただくには、以下の手順をおすすめします。

1 再生する画像を選ぶ

「**再生画像選択**」を選んで▶を押すと、下の画面が表示されます。

全画像	すべての画像が再生されます。
画像選択	画像選択画面 (P.95) で、再生したい画像を個別に指定 (最大50コマ) します。

- 選ぶことができるのは、再生メニュー「**再生フォルダー設定**」(P.96) で設定したフォルダー内の画像だけです。また、D80で表示できない画像や、非表示設定 (P.100) を行った画像を選ぶことはできません。
- 画像選択が完了すると、「スライドショー」画面に戻ります。

関連ページ　スライドショーで再生するフォルダーを選ぶ → 再生フォルダー設定 (P.96)

2　再生スタイルを選ぶ

「**設定変更**」→「**スタイル設定**」を選んで▶を押すと、下の画面が表示されます。

スタンダード	画像を一定の間隔で順番に再生します。BGMや画像切り換え効果は付きません。
Pictmotion	BGMと画像切り換え効果（パンニングやズーミング）を加えながら、画像を1コマずつ順番に再生します。

- BGMをお楽しみいただくには、付属のオーディオビデオケーブルで、カメラとテレビを接続してください。
- どちらかのスタイルを選んで OK ボタンを押すと、「スライドショー」画面に戻ります。

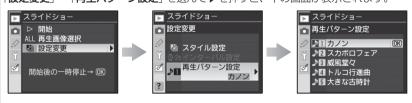
3　「設定変更」を選んで▶を押し、再生時のオプション設定を行う

ステップ2で「スタンダード」を選んだ場合

「**設定変更**」→「**インターバル設定**」を選んで▶を押すと、下の画面が表示されます。

- 1コマの画像が表示される時間を選んでください。初期設定は「**2秒**」です。
- オプションを選んで OK ボタンを押すと、「スライドショー」画面に戻ります。

ステップ2で「Pictmotion」を選んだ場合

「**設定変更**」→「**再生パターン設定**」を選んで▶を押すと、下の画面が表示されます。

- 再生時のBGMを選んでください。初期設定は「**カノン**」です。BGMによって、画像切り換え効果が変わります。
- オプションを選んで OK ボタンを押すと、「スライドショー」画面に戻ります。

4 スライドショーを再生する

「**開始**」を選んで OK ボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショー再生中は、以下の操作が可能です。

1コマ進む／戻る※	マルチセレクター または メインコマンドダイヤル	マルチセレクターの◀を押す（またはメインコマンドダイヤルを左に回す）と前の画像が、▶を押す（右に回す）と次の画像が表示されます。
画像情報の表示※	マルチセレクター または メインコマンドダイヤル	表示中の画像についての詳しい情報が表示されます（P.75）。
一時停止	OK	スライドショーが一時停止し、右のような画面が表示されます。再開するには、「**再開**」を選んで OK を押します。「**終了**」を選んで OK を押すと、再生メニューに戻ります。
再生メニューに戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	▶	スライドショーを中止して、1コマ表示モード（P.74）またはサムネイル表示モード（P.77）に戻ります。
撮影に戻る	シャッターボタン	シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

※ この操作は、ステップ2で「**スタンダード**」を選んだ場合に行えます。「**Pictmotion**」では行えません。

- 再生が終わると、上の表中にある「一時停止」画面が表示されます。「**再開**」を選んで OK ボタンを押すと、スライドショーがもう一度最初から始まります。「**終了**」を選んで OK ボタンを押すと、再生メニューに戻ります。

非表示設定

画像を非表示設定にすると、その画像は非表示設定画面以外では表示されなくなります。

設定	非表示設定のオン／オフを画像ごとに設定します。
一括解除	非表示設定を一括して解除します。

ヒント 非表示画像のファイル属性とコマ番号

非表示設定画像は、DOSファイルフォーマットの「隠しファイル」属性と「読み取り専用」属性になります。画像は非表示設定画面以外では表示されませんが、コマ番号は付加されます。また、RAW画像とJPEG画像を同時記録する設定で撮影したときは、RAW画像とJPEG画像の両方が同じ属性になります。

☑ プロテクト設定の解除について

プロテクトと非表示の両方が設定されていた画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

プリント指定

画像をプリントするための設定を、あらかじめカメラで行うことができます。設定方法については、P.95をご覧ください。

プリント指定の一括解除

プリント指定で設定した内容をすべて解除します。「**一括解除**」を選んで OK ボタンを押すと、右の画面が表示された後、再生メニューに戻ります。

撮影についての設定 ― 撮影メニュー

撮影についての設定は、「撮影メニュー」で行います。撮影メニューには、以下の項目があります。

- セットアップメニューの「**メニュー表示切り換え**」(P.136)を「**マイメニュー**」にしたときは、登録されているメニュー項目だけが表示されます。
- メニューの操作方法についてはP.10をご覧ください。

撮影メニュー
仕上がり設定 N
画質モード NORM
画像サイズ
ホワイトバランス A
ISO感度設定 100
長秒時ノイズ低減 OFF
高感度ノイズ低減 NORM

メニュー項目	内容	ツーボタンリセット※1	参照ページ
仕上がり設定※2	画像の仕上がりを、撮影するシーンや好みに合わせて設定します。		P.102
画質モード	記録する画像のファイル形式や画質を設定します。	●	P.40、105
画像サイズ	記録する画像のサイズ(大きさ)を設定します。	●	P.41、105
ホワイトバランス※2	画像が見た目に近い色で記録されるように、光源に合わせてホワイトバランスを設定します。	●	P.69、106
ISO感度設定	ISO感度を設定します。標準(100)より高くすることで、暗い所での撮影に対応できます。	●	P.51、107
長秒時ノイズ低減	夜景撮影など、暗い所での低速シャッター撮影時に発生しやすいノイズを低減します。		P.108
高感度ノイズ低減	高いISO感度での撮影時に発生しやすいノイズを低減します。		P.108
多重露出※2	1コマの画像に対して、2回または3回の露光を行うことができます。	●	P.109

※1 ツーボタンリセット(P.52)を行うと、初期設定にリセットされる項目です。

※2 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定できます。

仕上がり設定（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

操作方法：MENU ボタン → 撮影メニュー → 仕上がり設定

記録する画像の仕上がり（色の鮮やかさや輪郭の強調度合いなど）を撮影シーンや好みに合わせて設定します。仕上がり設定は、以下の７種類から選ぶことができます。

N	**標準**（初期設定）	標準的な画像に仕上げます。ほとんどの撮影状況に対応できます。
SO	**ソフトに**	被写体の輪郭をソフトに再現します。人物の肌をなめらかに表現したいときや、撮影後にパソコン上で画像を加工したいときに適しています。
VI	**鮮やかに**	彩度を高め、赤色と緑色を鮮やかに表現します。ややコントラストが高く、シャープな画像になります。
VI+	**より鮮やかに**	彩度とコントラストを高め、被写体の輪郭を強調した画像になります。
PO	**ポートレート**	人物撮影に適しています。コントラストを抑え、肌の質感や立体感を自然に仕上げます。
	カスタマイズ	仕上がりを自分で細かく設定することができます。
BW	**白黒**	白黒写真を撮影したいときに使います（P.105）。

「カスタマイズ」以外の仕上がり設定についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。
- 画像の色空間は「sRGB」になります。色空間を「AdobeRGB」にしたいときは、「**カスタマイズ**」を選び、「**カラー設定**」を「**モードII（AdobeRGB）**」にしてください（P.103）。
- 充分な効果を得るには、GタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。

仕上がり設定の「カスタマイズ」について

仕上がり設定で「**カスタマイズ**」を選ぶと、「**輪郭強調**」、「**階調補正**」、「**カラー設定**」、「**彩度設定**」、「**色合い調整**」の5種類の項目を個別に設定することができます。設定後は、「**設定終了**」を選んで OK ボタンを押してください。

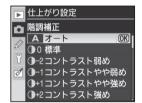
5種類の項目の内容は、以下の通りです。

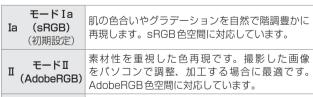
輪郭強調

画像の輪郭の強調度合い（シャープネス）を設定します。初期設定は「**オート**」です。強めにするとくっきりとした画像になり、弱めにするとソフトな画像になります。

階調補正

画像の階調（コントラスト）を設定します。初期設定は「**オート**」です。

- コントラストを弱くすると軟調な画像になり、強くすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白飛びが気になる場合などは弱めが、霞んだ遠景の撮影などには強めが適しています。
- 「**ユーザーカスタム**」では、別売のCamera Control Pro（P.170）で作成してカメラに登録したトーンカーブを用います。詳しくはCamera Control Proの使用説明書をご覧ください。

カラー設定

画像の色再現を設定します。

	モード	内容
Ia	モードIa (sRGB)（初期設定）	肌の色合いやグラデーションを自然で階調豊かに再現します。sRGB色空間に対応しています。
II	モードII (AdobeRGB)	素材性を重視した色再現です。撮影した画像をパソコンで調整、加工する場合に最適です。AdobeRGB色空間に対応しています。
IIIa	モードIIIa (sRGB)	風景撮影に適したモードです。緑や青空などの色を鮮やかに再現します。「**モードIa**」に比べ、やや硬調な画像に仕上がります。sRGB色空間に対応しています。

彩度設定

画像の彩度（色の鮮やかさ）を設定します。初期設定は「**オート**」です。「**弱め**」にすると鮮やかさが抑えられ、「**強め**」にするとより鮮やかになります。

色合い調整

画像の色合いを調整します。初期設定の「**0°**」から、＋側と－側にそれぞれ3段階（1段階は約3°）で調整できます。肌色を基準にした場合、＋側にすると黄色みが増し、－側にすると赤みが増します。

輪郭強調、階調補正、彩度設定の「オート」についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。
- 充分な効果を得るには、GタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。

カラー設定についてのご注意

- カラーマネジメント機能を持たないアプリケーションで画像を開くときやプリントするとき、またはダイレクトプリントや、プリントサービス店にプリントを依頼するときは、「**モードⅠa**」または「**モードⅢa**」をおすすめします。
- 「モードⅡ」の画像をAdobe Photoshopなどのカラーマネジメント機能を持ったアプリケーションで開く場合は、色空間をAdobeRGBに設定してください。詳しくは、アプリケーションの説明書をご覧ください。なお、PictureProjectや別売のCapture NX(P.170）は、撮影した画像の色空間とソフトウェアの色空間が異なっていても、自動的に正しい色で表示する機能を備えています。

ヒント 色空間とは

色を数値化して表現するときに、どの色にどの数値を対応させるかを定めたもので、「カラースペース」ともいいます。一般にはsRGB色空間が利用されています。AdobeRGB色空間は出版・印刷などで使われる場合があります。

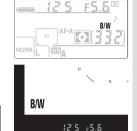
ヒント 色合い調整の意味

色は「彩度（鮮やかさ）」「色相（色合い）」「明度（明るさ）」の3要素で成り立っており、「色合い調整」はこのうち「色相」を変化させるものです。調整の単位が角度で表されているのは、色彩管理などで用いられる「色相環（赤から紫までの色相を環状につなげたもの）」を何度回転させるかで、色相の変化の度合いを示しているためです。

仕上がり設定の「白黒」について

仕上がり設定の「**白黒**」を選ぶと、右の画面が表示されます。「**スタンダード**」を選ぶと標準的な仕上がりになりますが、「**カスタマイズ**」を選ぶと、さらに「**輪郭強調**」、「**階調補正**」、「**フィルター効果**」の3種類の項目を個別に設定することができます。

輪郭強調	「**カスタマイズ**」の「**輪郭強調**」(P.103)と同じです。
階調補正	「**カスタマイズ**」の「**階調補正**」(P.103)と同じです。
フィルター効果	白黒写真用カラーフィルターを通して撮影したときのような効果が得られます。フィルターカラーは「**なし**(白黒)」、「**黄**」、「**オレンジ**」、「**赤**」、「**緑**」から選べます。

仕上がり設定を「**白黒**」にしたときは、表示パネルとファインダースクリーンに右のように表示されます。

ヒント **フィルター効果について**

市販の白黒写真用カラーフィルターには、以下のような効果があります。

黄	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。黄→オレンジ→赤の順にコントラストが強くなります。
オレンジ	
赤	
緑	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

なお、「**フィルター効果**」で得られる効果は、白黒写真用カラーフィルターよりも強くなります。

画質モード (すべての撮影モードで設定可能)

画像を記録する際の画質を変更します。内容については【中級編】のP.40をご覧ください。

画像サイズ (すべての撮影モードで設定可能)

画像サイズ(大きさ)を変更します。内容については【中級編】のP.41をご覧ください。

ホワイトバランス（撮影モードP、S、A、Mで設定可能）

ホワイトバランスを変更します。内容については「【上級編】撮影―ホワイトバランス」をご覧ください（P.69）。

SD カード内の画像のホワイトバランスを使うには

SDカードに保存されている撮影済み画像のホワイトバランスデータを、プリセットデータとして使うことができます。

- プリセットデータとして保存できる「撮影データ」は1つだけです。「撮影データ」からプリセットデータを取得するたびに、以前保存した「撮影データ」は、新しいデータに置き換えられるので、ご注意ください。

1 「撮影メニュー」→「**ホワイトバランス**」→「プリセット」→「撮影データ」を選び、マルチセレクターの▶を押す

2 プリセットデータとして使いたい画像を選ぶ

- 左の画面の上部に表示されている画像のホワイトバランスに設定したいときは、「**表示画像で設定**」を選んで OK ボタンを押すと、設定は完了します。
- 別の画像を選ぶときは、「**データを選択**」を選んで▶を押し、ステップ**3**にお進みください。

3 プリセットデータとして設定したい画像が保存されているフォルダーを選ぶ

4 ▶を押す

- 選んだフォルダー内の画像が一覧表示されます。

5　◀または▶で画像を選ぶ

6　OK ボタンを押す

- 選んだ画像のホワイトバランスに変更され、撮影メニューに戻ります。

前回の取得データをプリセットデータに再設定するには

いったん「取得データ」から「撮影データ」に変更したプリセットデータを、元の「取得データ」に戻すには、「**撮影メニュー**」→「**ホワイトバランス**」→「**プリセット**」→「**取得データ**」を選び、OK ボタンを押してください。ホワイトバランスが「**取得データ**」に切り換わります。

プリセットデータについてのご注意

- プリセットデータとして設定できるのは、D80で撮影した画像だけです。D80以外のデジタルカメラで撮影した画像も上記手順**5**の画像選択画面に表示されますが、プリセットデータとして設定することはできません。
- プリセットデータとして「**撮影データ**」を使うように設定していても、新しくカメラでプリセットデータを取得すると、自動的に「**取得データ**」を使うように設定が変更されます。

ISO 感度設定（すべての撮影モードで設定可能）

ISO感度を変更します。内容については【中級編】のP.51をご覧ください。

長秒時ノイズ低減（すべての撮影モードで設定可能）

シャッタースピードが低速になったときに発生する「長秒時ノイズ」を低減することができます。「**する**」にすると、シャッタースピードが約8秒より低速になった場合に、自動的に長秒時ノイズの低減処理が行われます。初期設定は「**しない**」です。

長秒時ノイズの低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、表示パネルとファインダー内下部に右のように表示されます。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理には、撮影時のシャッタースピードの約半分から同等の時間がかかります。

✔ 長秒時ノイズ低減についてのご注意

- ノイズ低減処理が完了する前に再生すると、液晶モニターにノイズ低減処理を行う前の画像（ノイズが入った画像）が表示される場合があります。
- シャッタースピードにかかわらず、連続撮影速度は遅くなります。また、連続撮影可能コマ数も少なくなります。
- ノイズ低減処理中に電源をOFFにすると、処理は行われません。

高感度ノイズ低減（すべての撮影モードで設定可能）

ISO感度を高くして撮影したときに発生する「高感度ノイズ」を低減することができます。

標準（初期設定）	撮影時のISO感度が400よりも高くなると、高感度ノイズの低減処理が行われます。 • ノイズ低減の効果は、強い順に「**強め**」、「**標準**」、「**弱め**」になります。
弱め	
強め	
しない	撮影時のISO感度が800よりも高くなったときは、常にノイズ低減処理が行われます。この場合のノイズ低減効果は「**弱め**」よりもさらに弱くなります。

多重露出（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

1コマの画像に、2回または3回の露光を行ったような効果を得ることができます。

多重露出の撮影方法

初期設定では、多重露出撮影中に、何も操作しないで30秒経過すると、カメラが待機状態（P.23、132）に入り、撮影は中断されてしまいます。撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニュー「**28：半押しタイマー**」（P.132）を「**30分**」にするか、別売のACアダプター EH-5を接続することをおすすめします。

1 「撮影メニュー」→「**多重露出**」を選び、マルチセレクターの▶を押す

2 「**コマ数**」を選んで▶を押す

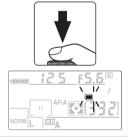
3 ▲▼で露光回数（2コマまたは3コマ）を設定して、OKボタンを押す

4 「**自動ゲイン補正**」を選んで▶を押す

5 自動ゲイン補正をするかどうかを選んで、OK ボタンを押す

する （初期設定）	重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。ただし、背景が暗いときは「**しない**」にすることをおすすめします。 • 各コマのゲインは、［1 ÷露光回数］となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は 1/2、「3コマ」の場合は 1/3になります。
しない	ゲインを補正せず、すべての露光結果をそのまま重ね合わせます。

6 「設定終了」を選んで OK ボタンを押す

- 多重露出の撮影待機状態になり、表示パネルに ▬ マークが点灯します。
- 多重露出の設定を解除するには、「**撮影メニュー**」→「**多重露出**」→「**設定解除**」を選び、OK ボタンを押してください。

7 1 回目の露光を行う

- 撮影を始めると、▬ マークが点滅します。

8 2 回目以降の露光を行う

- 設定した回数分の露光を行うと、多重露出撮影が解除され、▬ マークが消灯します。

多重露出撮影を中断するには

多重露出撮影中に、「**撮影メニュー**」→「**多重露出**」を選ぶと、右の画面が表示されます。この画面で「**中断**」を選んで OK ボタンを押すと、多重露出撮影は途中で終了し、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（「**自動ゲイン補正**」を「**する**」にしていたときは、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。多重露出撮影の設定も解除されるので、もう一度多重露出撮影を行うには、「**多重露出**」の設定を最初からやり直してください。

このほか、以下の場合も、多重露出は中断されます。

- 半押しタイマー（P.23、132）がオフになったとき
- ツーボタンリセット（P.52）を行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出中に撮影した画像を削除したとき
- **P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モードに変更したとき

✓ 多重露出についてのご注意

- 多重露出による撮影中は、SDカードの交換を行わないでください。
- 多重露出で撮影した画像の撮影データ（撮影日時、測光・露出の設定、撮影モード、焦点距離、縦横位置情報など）は、1回目の露光時の内容になります。
- カスタムメニュー「**28：半押しタイマー**」（P.132）が「**16秒**」以下になっていても、多重露出撮影中は、半押しタイマーの作動時間が30秒に延長されます。

✓ 多重露出とオートブラケティングの設定について

オートブラケティングを設定してから多重露出を設定すると、オートブラケティングが解除されます。また、多重露出を設定するとオートブラケティングを設定することができません。

✓ 多重露出撮影時に利用できない機能について

多重露出撮影中に、以下の機能を利用することはできません。

- 「**多重露出**」と「**ホワイトバランス**」を除いた撮影メニューの全項目
- オートブラケティング

さらに細かい設定 — カスタムメニュー

カスタムメニューでは、カメラの各種設定を、好みに合わせて変更することができます。カスタムメニューには、以下の項目があります。

- 11～32はセットアップメニューの「**メニュー表示切り換え**」(P.136) が初期設定の「**シンプルメニュー**」(初期設定) のときは、表示されません。また、「**メニュー表示切り換え**」を「**マイメニュー**」にしたときは、登録されているメニュー項目だけが表示されます。すべてのメニューを表示するには、「**フルメニュー**」に変更してください。
- メニューの操作方法についてはP.10をご覧ください。

項目	ページ
R：カスタムのリセット	P.113
1：電子音設定	P.113
2：AFエリアモード設定	P.114
3：中央フォーカスエリアフレーム	P.115
4：内蔵AF補助光の照射	P.115
5：カード無し時レリーズ	P.116
6：撮影直後の画像確認	P.116
7：感度自動制御	P.116
8：格子線表示	P.117
9：ファインダー内警告表示	P.118
10：露出値ステップ幅	P.118

「メニュー表示切り換え」を「フルメニュー」にすると、以下の項目が表示されます。

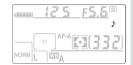
項目	ページ
11：露出補正簡易設定	P.118
12：中央部重点測光範囲	P.119
13：オートブラケティングのセット	P.119
14：BKT補正順序	P.122
15：コマンドダイヤル変更	P.122
16：ファンクションボタンの機能	P.122
17：イルミネーター点灯	P.125
18：AE-L/AF-Lボタンの機能	P.125
19：半押しAEロック	P.125
20：フォーカスエリア循環選択	P.126
21：フォーカスエリア照明	P.126
22：内蔵フラッシュ発光	P.126
23：フラッシュ使用推奨表示	P.131
24：フラッシュ時シャッタースピード制限	P.131
25：オートFP撮影	P.131
26：モデリング発光	P.131
27：液晶モニターのパワーオフ	P.132
28：半押しタイマー	P.132
29：セルフタイマー	P.132
30：リモコン待機時間	P.132
31：露出ディレーモード	P.133
32：MB-D80の電池設定	P.133

R：カスタムのリセット

「**する**」を選ぶと、すべてのカスタムメニューの設定内容が、初期設定に戻ります。ツーボタンリセット（P.52）とは、リセットされる内容が異なるので、ご注意ください。

関連ページ	撮影モード別：初期設定一覧　→　資料集（P.185）

1：電子音設定（すべての撮影モードで設定可能）

- 「**する**」（初期設定）のときは、以下の場合に電子音が鳴ります。
  - ・セルフタイマー（P.44）の作動中
  - ・2秒リモコン撮影（P.46）の作動中
  - ・瞬時リモコン撮影（P.46）の完了時
  - ・オートフォーカスのピントが合ったとき（ただし、AFモード（P.34）が**AF-C**、または**AF-A**で被写体が動いているとカメラが判断したときは、電子音は鳴りません）
- 「**しない**」にすると、電子音は鳴りません。
- 「**する**」のときは表示パネルに ♪ マークが、「**しない**」のときは 🔇 マークが表示されます。

2：AF エリアモード設定（すべての撮影モードで設定可能）

ピントを合わせるフォーカスエリアを、カメラがどのように選択するかを設定します。

モード	説明
[ ] シングルエリアAFモード※1	フォーカスエリアを自分で選び、そのエリアだけを使ってピントを合わせます。静止している被写体の撮影に適しています。
[·:·] ダイナミックエリアAFモード※2	フォーカスエリアを選ぶのはシングルと同じですが、選んだフォーカスエリアから被写体が一時的に外れてしまった場合でも、他のフォーカスエリアを使ってピントを合わせることができます。不規則な動きをする被写体の撮影に効果的です。
[■] オートエリアAFモード※3	カメラが自動的に、フォーカスエリアに重なっている被写体から、ピントを合わせる部分を選びます。

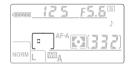
※1 撮影モード **P**、**S**、**A**、**M** 、🌷 の初期設定

※2 撮影モード 🏃 の初期設定

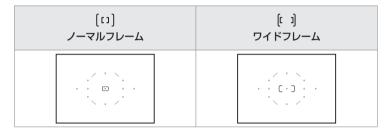
※3 撮影モード AUTO 、👤 、⛰ 、🌃 、👤★ の初期設定

AFエリアモードの設定は、表示パネルで確認できます。右図は「**シングルエリアAFモード**」で中央から１つ左側のフォーカスエリアを選んだ場合です。

【設定編】さらに細かい設定　カスタムメニュー

関連ページ　オートフォーカスの設定をする　→　【中級編】　オートフォーカスで撮影する (P.32)

3：中央フォーカスエリアフレーム（すべての撮影モードで設定可能）

中央のフォーカスエリアがピントを合わせる範囲（被写体を追う範囲）を、初期設定の「**ノーマルフレーム**」から、さらに広い「**ワイドフレーム**」に変更することができます。他の被写体に邪魔されずに、特定の被写体に集中してピントを合わせたいときは「**ノーマルフレーム**」を、動いている被写体などを中央のフォーカスエリアで捉えやすくしたいときは「**ワイドフレーム**」をおすすめします。

「**中央フォーカスエリアフレーム**」の設定によって、ファインダー内の表示が以下のように変わります。

✓「中央フォーカスエリアフレーム」についてのご注意

カスタムメニュー「**2：AFエリアモード設定**」が「**オートエリアAFモード**」のときは、「**ワイドフレーム**」は機能しません。

関連ページ　オートフォーカスの設定をする → 【中級編】 オートフォーカスで撮影する（P.32）

4：内蔵AF補助光の照射（、、以外の撮影モードで設定可能）

- 「**照射する**」（初期設定）のときは、ピント合わせの際に、必要に応じて自動的にAF補助光ランプが点灯します。AF補助光ランプが点灯するのは、以下の条件がすべて満たされた場合です。
  - ・被写体が暗い場合
  - ・AFモードが**AF-S**、または**AF-A**で自動的にAF-Sが選ばれた場合
  - ・カスタムメニュー「**2：AFエリアモード設定**」が「**シングルエリアAFモード**」または「**ダイナミックエリアAFモード**」で中央のフォーカスエリアを選択したとき、または「**オートエリアAFモード**」のとき
- 「**照射しない**」にすると、状況にかかわらず、AF補助光は点灯しません。被写体が暗い場合などは、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります。

5：カード無し時レリーズ（すべての撮影モードで設定可能）

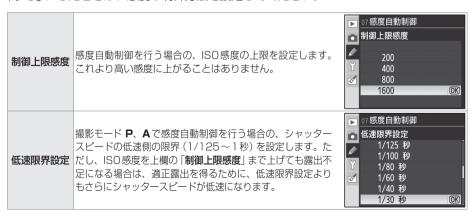
- 「**レリーズ禁止**」（初期設定）のときは、カメラにSDカードを入れないとシャッターがきれません。
- 「**レリーズ許可**」にすると、SDカードを入れなくてもシャッターがきれるようになります。ただし、SDカードが入っていないときに撮影した画像は、液晶モニターに表示されますが、画像上に「デモモード」と表示され、**プリントやSDカードへの保存はできません**のでご注意ください。

6：撮影直後の画像確認（すべての撮影モードで設定可能）

- 「**する**」（初期設定）のときは、撮影直後に、撮影した画像が約４秒間液晶モニターに自動的に表示されます。
- 「**しない**」にすると、画像は自動表示されません。撮影した画像を確認したいときは ▶ ボタンを押してください。

7：感度自動制御（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

- 「**しない**」（初期設定）のときは、撮影メニューの「**ISO感度設定**」（P.51、107）で設定したISO感度に固定されます。
- 「**する**」にすると、通常は「**ISO感度設定**」で設定したISO感度で撮影しますが、設定した感度で適正露出が得られない場合には、カメラが自動的にISO感度を変更します。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。
- 「**する**」にしたときは、感度の制御方法を設定してください。

項目	説明	画面
制御上限感度	感度自動制御を行う場合の、ISO感度の上限を設定します。これより高い感度に上がることはありません。	07 感度自動制御 / 制御上限感度 / 200 / 400 / 800 / 1600 OK
低速限界設定	撮影モード **P**、**A**で感度自動制御を行う場合の、シャッタースピードの低速側の限界（1/125～1秒）を設定します。ただし、ISO感度を上欄の「**制御上限感度**」まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。	07 感度自動制御 / 低速限界設定 / 1/125 秒 / 1/100 秒 / 1/80 秒 / 1/60 秒 / 1/40 秒 / 1/30 秒 OK

感度自動制御を「**する**」にすると、表示パネルとファインダー内下部に、右のように表示されます。表示が点灯している場合は、撮影メニュー「**ISO感度**」で設定した感度で撮影されます。点滅している場合は、「**ISO感度**」で設定した感度では適正露出が得られないため、カメラが感度を変更していることを示しています。ただし、フラッシュ撮影時は感度自動制御が機能している場合でも表示は点滅しません。

☑ 感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が高くなると、低く設定したときに比べて、多少ざらついた画像になることがあります。
- 撮影メニュー「**ISO感度設定**」が1600よりも高いときは、この項目を選ぶことはできません。また、感度自動制御を「**する**」にしているときに、撮影メニュー「**ISO感度設定**」を1600よりも高くすることもできません。
- フラッシュ撮影時も感度自動制御は機能しますが、以下のような場合は手前の被写体の露出がアンダーになることがあります。
  - ・低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）する場合
  - ・日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）する場合
  - ・背景が明るい場合

  このようなときは、以下のように対処すればフラッシュの光が届きやすくなります。
  - ・撮影モード**A**などにして絞りを開く
  - ・スローシンクロを解除する

関連ページ　高感度撮影時のノイズを低減する　→　高感度ノイズ低減（P.108）

8：格子線表示（すべての撮影モードで設定可能）

「**する**」にすると、ファインダーに格子線（P.7）を表示させることができます。構図を厳密に決めたいときなどに便利です。初期設定は「**しない**」です。

9：ファインダー内警告表示（すべての撮影モードで設定可能）

- 「**する**」（初期設定）のときは、ファインダースクリーンに以下の警告が表示されます。

B/W	撮影メニューの「**仕上がり設定**」を「**白黒**」に設定したときに表示されます。
	バッテリーの残量が少なくなると表示されます。
	カメラにSDカードが挿入されていないときに表示されます。

- 「**しない**」にすると、警告は表示されません。

10：露出値ステップ幅（すべての撮影モードで設定可能）

露出値（シャッタースピード、絞り、露出補正値、オートブラケティング補正量、調光補正値）を設定（または表示）するときの刻み幅（ステップ）を、「**1/3段**」と「**1/2段**」から選ぶことができます。初期設定は「**1/3段**」です。

11：露出補正簡易設定（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

露出補正を行う場合、通常は ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して設定を行いますが、コマンドダイヤルだけで露出補正を行えるように設定を変更できます。

- 「**しない**」（初期設定）のときは、 ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して露出補正を行います。
- 「**する**」にすると、コマンドダイヤルだけで露出補正が行えます。このとき、露出補正値にかかわらず露出インジケーターの「**0**」が点滅します。
  露出補正に使うコマンドダイヤルは、撮影モードとカスタムメニュー「**15：コマンドダイヤル変更**」の設定によって、下表のように割り当てられます。

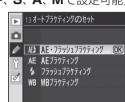
		カスタムメニュー「15：コマンドダイヤル変更」	
		しない	する
撮影モード	**P**	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	S	サブコマンドダイヤル	メインコマンドダイヤル
	A	メインコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル

※ 撮影モード**M**では、露出補正簡易設定は機能しません。

12：中央部重点測光範囲　（撮影モードP、S、A、Mで設定可能）

中央部重点測光時に、重点的に測光するファインダー中央部の範囲を「φ6mm」、「φ8mm」、「φ10mm」から選ぶことができます。初期設定は「φ8mm」です。

13：オートブラケティングのセット（撮影モードP、S、A、Mで設定可能）

初期設定の「**AE・フラッシュブラケティング**」（P.66）以外に、下記のブラケティング撮影を行うことができます。「**AEブラケティング**」と「**フラッシュブラケティング**」はそれぞれ、露出値だけをずらすか、フラッシュの発光量だけをずらすかが異なるだけで、撮影手順などは「**AE・フラッシュブラケティング**」と同様です。

AEブラケティング	露出値だけをずらして撮影します。
フラッシュブラケティング	フラッシュの発光量だけをずらして撮影します。 フラッシュの発光モードが「i-TTL調光」（P.165、191）または「絞り連動外部自動調光」（P.165、別売のスピードライトSB-800使用時のみ）に使用できます。
WBブラケティング （P.120）	ホワイトバランスをずらした画像を撮影します。複数の光源が混在しているなどホワイトバランスの決定が難しいときや、微妙な白の色味を好みで選びたいときなどに効果的です。 画質モードが「RAW＋FINE」、「RAW＋NORMAL」、「RAW＋BASIC」、「RAW」のときや、ホワイトバランスが K（色温度設定）のときは、選ぶことができません。

ヒント AEブラケティング

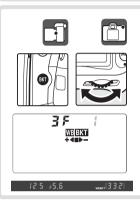
AEブラケティングでは、撮影モードによって補正される内容（シャッタースピード／絞り値）が異なります。

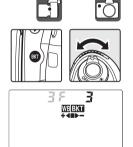
撮影モード	変化する内容
P（マルチプログラムオート）	シャッタースピードと絞り値※1
S（シャッター優先オート）	絞り値※1
A（絞り優先オート）	シャッタースピード※1
M（マニュアル）	シャッタースピード※2

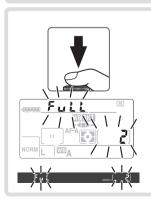
※1 カスタムメニュー「**7：感度自動制御**」（P.116）が「**する**」のときは、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると、自動的にISO感度が変化します。

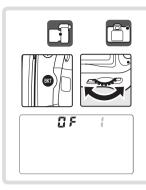
※2 カスタムメニュー「**7：感度自動制御**」（P.116）が「**する**」のときは、まずISO感度を変化させて基準となる露出を適正露出に近づけてから、オートブラケティングでシャッタースピードを変化させます。

WB ブラケティングの手順

1 カスタムメニュー「13：オートブラケティングのセット」（P.119）で「WB ブラケティング」を選んでマルチセレクターの▶を押す

2 撮影コマ数を設定する

- BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの撮影コマ数が変化します。設定したい撮影コマ数に合わせてください。
- 表示パネルとファインダー内下部に、左のように表示されます。

3 補正段数を設定する

- BKT ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの補正段数が変化します。設定したい補正段数に合わせてください。

4 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターを１回きると、設定したすべてのコマ数の画像が同時に記録されます。
- ホワイトバランスを微調整していた場合は、微調整にブラケティングによる補正段数が加算されます。
- SDカードの残量が不足している場合は、左のように点滅表示され、シャッターがきれません。新しいSDカードに交換すると撮影できます。

5 WB ブラケティング撮影をやめ、通常撮影に戻る

- BKT ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルの撮影コマ数を「0」にしてください。表示パネルとファインダー内下部の WB BKT マークが消灯します。
- 設定した補正段数は記憶されます。また、ツーボタンリセット（P.52）でも解除できますが、補正段数は記憶されません。

WBブラケティングについてのご注意

WBブラケティングに設定した後に画質モード（P.40）を「**RAW**」、「**RAW＋FINE**」、「**RAW＋NORMAL**」、「**RAW＋BASIC**」のいずれかにするか、ホワイトバランスを「**色温度設定**」（P.71）にすると、WBブラケティングの設定が解除されます。

関連ページ	
関連ページ	ブラケティングの設定コマ数と補正段数の組み合わせ → 資料集（P.189）
	オートブラケティングの補正段数の刻み幅を変更する → 10：露出値ステップ幅（P.118）
	オートブラケティングの撮影順を変更する → 14：BKT補正順序（P.122）

14：BKT 補正順序（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

オートブラケティングの補正順序を変更することができます。

初期設定の順（初期設定）	「補正なし」→「－側に補正」→「＋側に補正」の順に撮影されます。詳しくはP.66、189をご覧ください。
一側から＋側へ	「一側に補正」→「補正なし」→「＋側に補正」の順になります。

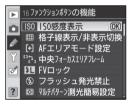
15：コマンドダイヤル変更（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

シャッタースピードと絞り値を設定するときの、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの役割を入れ換えることができます。

しない（初期設定）	メインコマンドダイヤルでシャッタースピード、サブコマンドダイヤルで絞りを設定します。
する	メインコマンドダイヤルで絞りを、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。

- 別売のバッテリーパックMB-D80を装着したときは、MB-D80の縦位置メインコマンドダイヤルと縦位置サブコマンドダイヤルの役割も入れ換わります。

16：ファンクションボタンの機能（すべての撮影モードで設定可能）

ファンクションボタンの役割を、以下の表のように変更することができます。

ISO感度表示（初期設定）	ファンクションボタンを押している間、制御されるISO感度が表示されます。
格子線表示/非表示切換	ファンクションボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ファインダースクリーンの格子線の表示と非表示が切り換わります（P.117）。
AFエリアモード設定	ファンクションボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、AFエリアモード（P.114）が切り換わります。
中央フォーカスエリアフレーム	ファンクションボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、中央フォーカスエリアのノーマルフレームとワイドフレームが切り換わります（P.115）。
FVロック（P.123）	内蔵フラッシュ、別売のスピードライトSB-800、SB-600、リモートスピードライトSB-R200使用時にファンクションボタンを押すと、FVロックが行われます。もう一度押すと解除されます。
フラッシュ発光禁止	ファンクションボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、内蔵フラッシュや別売スピードライト（P.163）が発光せずにシャッターがきれます。
マルチパターン測光簡易設定	ファンクションボタンを押している間、測光モード（P.61）がマルチパターン測光に切り換わります（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のみ）。
中央部重点簡易設定	ファンクションボタンを押している間、測光モード（P.61）が中央部重点測光に切り換わります（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のみ）。
スポット測光簡易設定	ファンクションボタンを押している間、測光モードがスポット測光に切り換わります（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のみ）。

FV ロック

フラッシュの発光量を固定（ロック）することで、発光量をメインの被写体に合わせたまま構図を変えて撮影したり、同じ調光量を維持したまま撮影したりすることができます。

- FVロック中にISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

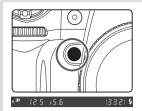
ヒント FVロックに使用するボタンについて

ここでは、ファンクションボタンでFVロックを行う方法について説明しています。カスタムメニュー「**18：AE-L/AF-Lボタンの機能**」(P.125) を「**FVロック**」にすると、ファンクションボタンの代わりにAE-L/AF-L ボタンでFVロックを行うこともできます。

1 カスタムメニュー「16：**ファンクションボタンの機能**」（P.122）を「**FV ロック**」にする

2 内蔵フラッシュを上げる

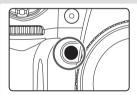
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で、別売スピードライトを装着していないときは、フラッシュボタンを押すと、内蔵フラッシュが上がります。
- 撮影モード AUTO、ポートレート、クローズアップ、夜景ポートレート では、シャッターボタンを半押しすると、撮影状況に応じて内蔵フラッシュが自動的に上がります。

3 発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせる

4 ファインダー内下部に ⚡ が点灯していることを確認し、ファンクションボタンを押す

- フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、ファインダー内下部に、左のように表示されます。

5 構図を変更する

6 シャッターボタンを押して撮影する

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影することができます。必要に応じて手順5～6を繰り返してください。

7 ファンクションボタンを押す

- FVロックが解除され、ファインダー内下部の ⚡L が消灯します。

ヒント 別売スピードライトでのFVロックについて

別売のスピードライトSB-800、SB-600、SB-R200使用時も、FVロックを行うことができます。この場合、SB-800の発光モードをTTL、AA、またはAに、SB-600の発光モードをTTLに設定してください（詳しくはそれぞれのスピードライトの使用説明書をご覧ください）。FVロック中に、SB-800、SB-600のズーム位置を変更しても、スピードライトの発光量が補正されることにより、FVロックは維持されます。

カスタムメニュー「**22：内蔵フラッシュ発光**」（P.126）を「**コマンダーモード**」にして、SB-800、SB-600、SB-R200を補助灯として用いる場合、「コマンダーモード」の設定画面で次のいずれかを行うことによりFVロックを使用できます。

- 内蔵フラッシュ、Aグループ、Bグループのうち、いずれかの「発光モード」を「**TTL**」にする
- 補助灯がSB-800のみで構成されているグループがある場合は、そのグループの「発光モード」を「**TTL**」または「**AA**」にする

☑ 内蔵フラッシュのFVロックについて

内蔵フラッシュだけを発光させてフラッシュ撮影を行う場合、FVロックはカスタムメニュー「**22：内蔵フラッシュ発光モード**」（P.126）が「**TTLモード**」（初期設定）に設定されている場合のみ機能します。

17：イルミネーター点灯（すべての撮影モードで設定可能）

- 「**しない**」（初期設定）のときは、電源スイッチをイルミネーター に合わせると、イルミネーターが点灯します。
- 「**する**」にすると、半押しタイマー（P.23）の作動中は、常にイルミネーターが点灯します（バッテリーの消耗は早くなります）。

18：AE-L/AF-L ボタンの機能（すべての撮影モードで設定可能）

ボタンの役割を以下の表のように変更することができます。

AE-L/AF-L（初期設定）	ボタンを押すと、AEロック（P.62）とフォーカスロック（P.36）が同時に行われます。
AE-L	ボタンを押すと、AEロックだけが行われます。
AF-L	ボタンを押すと、フォーカスロックだけが行われます。
AE-L（ホールド）	ボタンを押すと、カメラが待機状態に入るか、もう一度 ボタンを押すまで、AEロックが維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。
AF作動	ボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。
FVロック	内蔵フラッシュ、別売のスピードライトSB-800、SB-600、リモートスピードライトSB-R200使用時に ボタンを押すと、FVロック（P.123）を行い、もう一度押すと解除します。
フォーカスエリア選択	ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、フォーカスエリア（P.35）を選ぶことができます。
AE-L/AF-L/フォーカスエリア選択	この表中の「**AE-L/AF-L**」と「**フォーカスエリア選択**」を組み合わせた役割になります。
AE-L/フォーカスエリア選択	この表中の「**AE-L**」と「**フォーカスエリア選択**」を組み合わせた役割になります。
AF-L/フォーカスエリア選択	この表中の「**AF-L**」と「**フォーカスエリア選択**」を組み合わせた役割になります。
AF作動/フォーカスエリア選択	この表中の「**AF作動**」と「**フォーカスエリア選択**」を組み合わせた役割になります。

19：半押し AE ロック（すべての撮影モードで設定可能）

- 「**しない**」（初期設定）のときは、AEロック（P.62）は行われません。
- 「**する**」にすると、シャッターボタンを半押ししたときに、AEロックが行われます。

20：フォーカスエリア循環選択（すべての撮影モードで設定可能）

- 「**しない**」（初期設定）のときは、上下または左右の反対側にあるフォーカスエリアを選ぶには、マルチセレクターの反対方向を押さなければなりません。
- 「**する**」にすると、マルチセレクターでフォーカスエリアを選ぶときに、上下または左右の端から、反対側の端へと選択フォーカスエリアが循環します。これによって、反対側のフォーカスエリアを選びやすくなります。

21：フォーカスエリア照明（すべての撮影モードで設定可能）

フォーカスエリアの照明のON/OFFを設定することができます。

- 「**AUTO**」（初期設定）のときは、マルチセレクターで選んだフォーカスエリアが、被写体の明るさに応じて自動的に赤く照明されます。
- 「**OFF**」にすると照明は常に点灯しません。
- 「**ON**」にすると常に点灯しますが、背景の明るさによっては、照明が見えない場合もあります。

22：内蔵フラッシュ発光（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

内蔵フラッシュの発光方式を、以下のように変更することができます。

モード	説明
TTLモード（初期設定）	内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
マニュアル発光モード	指定した発光量で内蔵フラッシュが発光します。モニター発光は行いません。詳しくはP.127をご覧ください。
リピーティング発光モード	1回の露光中に、内蔵フラッシュを繰り返し連続発光させることができます。被写体の連続的な動きを分解写真のように写し込むことができます。詳しくはP.127をご覧ください。
コマンダーモード	内蔵フラッシュを、カメラから離れた別売のスピードライト（SB-800など）をワイヤレス制御するためのコマンダーとして利用します。詳しくはP.128をご覧ください。

ヒント 調光補正マークの表示について

「**マニュアル発光モード**」、「**リピーティング発光モード**」にすると、表示パネルとファインダー内下部で ⚡± マークが点滅します。

マニュアル発光モード

「**マニュアル発光モード**」を選んでマルチセレクターの▶を押すと、右の画面が表示されます。「**Full**」(フル発光)のほか、「**1/2**」～「**1/128**」の7段階の発光量を選ぶことができます。

- 「**Full**」(フル発光)に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約13(ISO100・m、20℃)となります。

リピーティング発光モード

「**リピーティング発光モード**」を選んでマルチセレクターの▶を押すと、右のような画面が表示されます。マルチセレクターの◀▶で「**発光量**」、「**回数**」、「**間隔**」の各設定項目を切り換え、▲▼で数値を設定してください。

発光量	1回あたりの発光量を設定します。発光量は、1/4～1/128の6段階で設定できます。
回数	1回の露光中に発光する回数を設定します。設定できる発光回数は、発光量によって変わります。
間隔	発光間隔を、Hz(ヘルツ;1秒あたりの発光回数)単位で設定します。設定できる発光間隔は1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、20、30、40、50Hzのいずれかです。

ヒント リピーティング発光モードの発光回数について

- 「**回数**」で設定する数値は、最大の発光回数です。シャッタースピードを高速にしたり、発光間隔を長くすると、実際の発光回数は設定よりも少なくなることがあります。
- 設定できる発光回数は、「**発光量**」によって以下のように変わります。

発光量	回数													
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	25	30	35
1/4	○													
1/8	○	○	○	○										
1/16	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
1/32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
1/64	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
1/128	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

コマンダーモード

内蔵フラッシュを主灯（マスターフラッシュ）として、カメラから離れた別売のスピードライトSB-800、SB-600、リモートスピードライトSB-R200で構成される補助灯グループを、ワイヤレス（アドバンストワイヤレスライティング）で制御するためのモードです。内蔵フラッシュ、2つの補助灯グループスピードライトのそれぞれに、発光モードと、調光補正量（または発光量）を設定できます。

「**コマンダーモード**」を選んでマルチセレクターの▶を押すと、右のような画面が表示されます。マルチセレクターの◀▶で項目を切り換え、▲▼で発光モードや補正量（または発光量）を設定してください。各項目の内容は、以下の通りです。

	発光モード	内容
内蔵フラッシュ	TTL	内蔵フラッシュは、i-TTL調光を行います。右側の「補正量」欄で、内蔵フラッシュの調光補正量を設定（1/3段刻みで±3段）してください。
	M	内蔵フラッシュはマニュアル調光を行います。右側の「補正量」欄で、内蔵フラッシュの発光量を「**1/1**」（フル発光）、または「**1/2**」～「**1/128**」から選んでください。
	‒ ‒	内蔵フラッシュは発光せず、補助灯だけが発光します。ただし、撮影時にモニター発光を行えるよう、⚡ボタンを押して内蔵フラッシュを上げておいてください。
Aグループ	TTL	Aグループのすべての補助灯が、i-TTL調光を行います。右側の「補正量」欄で、Aグループの補助灯の調光補正量を設定（1/3段刻みで±3段）してください。
	AA	Aグループのすべての補助灯※が、絞り連動外部自動調光を行います。右側の「補正量」欄で、Aグループの補助灯の調光補正量を設定（1/3段刻みで±3段）してください。
	M	Aグループのすべての補助灯が、マニュアル調光を行います。右側の「補正量」欄で、内蔵フラッシュの発光量を「**1/1**」（フル発光）、または「**1/2**」～「**1/128**」から選んでください。
	‒ ‒	Aグループの補助灯は発光しません。
Bグループ	Bグループの補助灯について、Aグループと同様の設定を行います。	
チャンネル	補助灯と通信を行うためのチャンネルを、1～4のいずれかに設定します。すべての補助灯のチャンネルを、ここで設定したチャンネルに合わせる必要があります。	

※SB-600、SB-R200は発光しません。

コマンダーモードでの撮影手順は、以下の通りです。

1 左の画面で、「内蔵フラッシュ」の「発光モード」と「補正量」を設定する

- 発光モードを「‒ ‒」（非発光）にした場合は、「補正量」が設定できません。

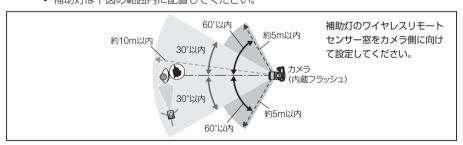
2 同様に「A グループ」の「発光モード」と「補正量」を設定する

3 B グループの補助灯を使用する場合は、同様に「B グループ」の「発光モード」と「補正量」を設定する

4 「チャンネル」を設定する

5 OK ボタンを押して設定を有効にする

6 構図を決め、カメラと補助灯（別売のスピードライト）を配置する

- 補助灯は下図の範囲内に配置してください。

- 周辺環境により、上図内の距離は多少変化します。

7 使用するすべての補助灯の電源をONにし、グループとチャンネルを設定する

- 補助灯の設定方法については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- 補助灯のチャンネルは、必ずカメラで設定したものと同じチャンネル（1～4）に設定してください。

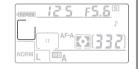
8 ⚡ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げる

- 内蔵フラッシュの「発光モード」を「ー ー」に設定した場合も、撮影時にモニター発光を行えるよう、内蔵フラッシュを上げておいてください。

9 カメラのファインダー内表示とすべての補助灯でレディーライトが点灯していることを確認し、ピントを合わせて撮影する

- コマンダーモードはFVロック（P.123）と組み合わせて撮影することもできます。

ヒント 内蔵フラッシュを発光させない場合の表示について

内蔵フラッシュの「発光モード」を「ー ー」にして内蔵フラッシュを上げると、表示パネルのフラッシュモード表示から⚡が消灯します。

☑ コマンダーモード時の調光補正と表示について

- コマンダーモード時に、⚡（⚡±）ボタンとサブコマンドダイヤルで調光補正を行うと、「内蔵フラッシュ」、「Aグループ」、「Bグループ」のそれぞれの「補正量」に加算されます。
- 内蔵フラッシュを「TTL」にして「補正量」を0以外に設定すると、表示パネルとファインダー内下部に調光補正マーク ⚡± が点灯します。
- 内蔵フラッシュを「M」に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に調光補正マーク ⚡± が点滅します。

☑ コマンダーモードについてのご注意

- 補助灯は、内蔵フラッシュのモニター発光の光がセンサー窓に入る位置（通常はカメラより被写体に近い位置）に置きます。とくに、手持ちで撮影するときは、モニター発光の光が確実にセンサー窓に入るように、補助灯はカメラより前に構えてください。
- 補助灯の直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（「TTL」設定時）や他の補助灯の外部自動調光用受光窓（「AA」設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- 同時に使用できる補助灯の台数に制限はありません。しかし、センサーに他の補助灯の強い光が入ると、正常動作できない場合があるため、実用上は3台程度が限度です。
- 内蔵フラッシュの「発光モード」を「ー ー」にした場合でも、補助灯の発光タイミングを合わせるため、モニター発光とは別に、撮影中に内蔵フラッシュが少量発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）で撮影するか、内蔵フラッシュ用赤外パネル（別売）SG-3IRをお使いください。少量発光の光量が大きくなる後幕シンクロ撮影では、内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

23：フラッシュ使用推奨表示（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

- 「**する**」（初期設定）のときは、暗い場所などフラッシュが必要な撮影条件でフラッシュを使わずに撮影しようとした場合に、レディーライト⚡が点滅してフラッシュの使用をおすすめします。
- 「**しない**」にすると、撮影状況にかかわらず、⚡は点滅しません。

24：フラッシュ時シャッタースピード制限（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

フラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速限界を1/60秒〜30秒の範囲で1段刻みで設定することができます。初期設定は「**1/60秒**」です。

- ここでの設定は、撮影モード**P**または**A**で機能します。
- スローシャッターを組み合わせたフラッシュモード（P.49）では、自動的に30秒になります。

25：オート FP 撮影（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

「**する**」にすると、別売のスピードライトSB-800、SB-600、リモートスピードライトSB-R200使用時に、シャッタースピードが1/200秒よりも高速になると、自動的にFP発光に切り換わります※。オートFP撮影では、シャッタースピードが1/200秒に制限されることなく、1/4000秒までの高速シャッタースピードを使用したスピードライト撮影を行うことができます。日中でのポートレート撮影でもレンズの絞りを開放側にすることができるので、背景をぼかした撮影が可能です。内蔵フラッシュ本発光時は、FP発光は行われません。初期設定は「**しない**」です。

※ 撮影モード**P**、**A**では、表示パネルとファインダー内下部に表示されるシャッタースピードが1/200秒を示していても、実際に制御されるシャッタースピードは1/200秒よりわずかに低速な場合があります。この場合は、FP発光に切り換わりません。

26：モデリング発光（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

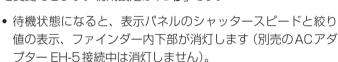
「**する**」にすると、内蔵フラッシュ、別売のスピードライトSB-800、SB-600、リモートスピードライトSB-R200使用時にカメラのプレビューボタンを押すと、プレビュー動作（P.58）とともに、陰影の状況を把握するためのモデリング発光が行われます。初期設定は「**しない**」です。

27：液晶モニターのパワーオフ（すべての撮影モードで設定可能）

液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。初期設定は「**20秒**」です。

- 液晶モニターの表示時間を延長するとバッテリーの消耗が速くなります。
- 撮影後に自動的に表示される画像は、この設定にかかわらず、約４秒で消灯します。
- 別売のACアダプター EH-5を接続しているときは、この設定にかかわらず、液晶モニターは操作終了後、約10分で自動的に消灯します。

28：半押しタイマー（すべての撮影モードで設定可能）

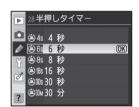
このカメラは、シャッターボタンを半押ししてから、何も操作しないで一定時間が過ぎると、バッテリーの消耗を抑えるために待機状態に入ります。ここでは、待機状態になるまでの時間を変更できます。初期設定は「**6秒**」です。

- 待機状態になると、表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示、ファインダー内下部が消灯します（別売のACアダプター EH-5接続中は消灯しません）。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が速くなります。

29：セルフタイマー（すべての撮影モードで設定可能）

セルフタイマー撮影（P.44）時に、シャッターボタンを押してからシャッターがきれるまでの時間を変更できます。初期設定は「**10秒**」です。

30：リモコン待機時間（すべての撮影モードで設定可能）

リモコン撮影（P.46）時に、カメラがリモコンからの信号を待ち受ける時間を変更できます。初期設定は「**1分**」です。

- リモコン待機時間を長くすると、カメラのバッテリーの消耗が早くなります。
- リモコンモードにしてから、リモコン撮影をしないままで受信待機時間が過ぎると、リモコンモードが解除され、S（1コマ撮影）または 連続（連続撮影）モード（P.42、43）に戻ります。

31：露出ディレーモード（すべての撮影モードで設定可能）

- 「**する**」にすると、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約0.4秒後にシャッターがきれます。顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に押さえることができます。
- 「**しない**」（初期設定）のときは、シャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれます。

32：MB-D80 の電池設定（すべての撮影モードで設定可能）

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D80に単３形電池（6本）を入れて使用するときに、カメラが電池残量をより正確に表示できるようにするために、電池の種類を指定してください。ただし、Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eを使用時には設定する必要がありません。

MB-D80に用いることができる単３形電池は、アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池です。以下の表に合わせて正しく設定してください。

- 電池設定を正しく設定していない場合、カメラが正常に作動しない恐れがあります。

	対応する電池
アルカリ単３形電池（初期設定）	LR6単３形アルカリ電池
Ni-MH単３形充電池	HR6単３形ニッケル水素充電池
リチウム単３形電池	FR6単３形リチウム電池
ニッケルマンガン単３形電池	ZR6単３形ニッケルマンガン電池（オキシライド乾電池、ニッケル乾電池を含む）※

※ 電池自体の特性により、充分な性能を発揮できないことがあります。

☑ 単3形電池の使用について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D80に単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池）を電源として使用する場合は、次のことにご注意ください。

- 単3形電池を電源として使用した場合、Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eを使用した場合よりも、連続撮影速度が低下します。
- アルカリ電池、ニッケルマンガン電池（オキシライド乾電池、ニッケル乾電池を含む）を電源として使用した場合、他の電源を使用した場合と比較して撮影できるコマ数が極端に減少します。通常の撮影では他の電源を使用し、アルカリ電池、ニッケルマンガン電池は緊急用として使用してください。また、低温時は使用しないでください。
- 電池のメーカーや銘柄によっては、撮影できるコマ数が少なかったり、使用できない場合があります。
- 周囲の温度が20℃よりも低い環境では、撮影できるコマ数が極端に減少する場合があります。
- 電池の使用推奨期間内であっても、保管状態によっては撮影できるコマ数が減少したり、使用できない場合があります。
- 表示パネルとファインダー内のバッテリー残量表示は次のようになります。

表示パネル	ファインダー	意味
[バッテリー表示]	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
[バッテリー表示]	[バッテリー表示]	バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
[バッテリー表示]（点滅）	[バッテリー表示]（点滅）	撮影できません。バッテリーを交換してください。

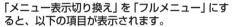
カメラやMB-D80の性能を充分に発揮するためには、EN-EL3eのご使用をおすすめします。

カメラの基本設定 — セットアップメニュー

カメラの基本的な設定は「セットアップメニュー」で行います。セットアップメニューには以下の項目があります。

- 右下の表に記載されている項目は「**メニュー表示切り換え**」（P.136）が初期設定の「**シンプルメニュー**」（初期設定）のときは、表示されません。また、「**メニュー表示切り換え**」を「**マイメニュー**」にしたときは、登録されているメニュー項目だけが表示されます。すべてのメニューを表示するには、「**フルメニュー**」に変更してください。
- メニューの操作方法についてはP.10をご覧ください。

メニュー表示切り換え	P.136
カードの初期化（フォーマット）	P.138
ワールドタイム	P.138
液晶モニターの明るさ	P.139
ビデオ出力	P.139
言語（LANG）	P.139
USB設定	P.139

「メニュー表示切り換え」を「フルメニュー」にすると、以下の項目が表示されます。

画像コメント	P.140
記録フォルダー設定	P.141
連番モード	P.143
クリーニングミラーアップ※	P.143
イメージダストオフデータ取得	P.144
電池チェック	P.145
ファームウェアバージョン	P.146
縦横位置情報の記録	P.146

※ バッテリー残量が［電池マーク］以下のときや、単3形電池を電源としてMB-D80（別売）を装着しているときは、選ぶことができません。

メニュー表示切り換え

各メニュー画面に表示されるメニュー項目を設定します。

シンプルメニュー （初期設定）	カスタムメニュー（P.112）とセットアップメニュー（P.135）には、一部の基本的なメニュー項目だけが表示されます。再生メニュー、撮影メニュー、画像編集メニューにはすべてのメニュー項目が表示されます。
フルメニュー	５種類のメニューすべてで、すべてのメニュー項目が表示されます。
マイメニュー	５種類のメニューすべてで、あらかじめ登録したメニュー項目だけ表示されます。

「マイメニュー」の設定方法

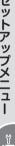
1 上の画面で「マイメニュー」を選んでマルチセレクターの▶を押す

- 左の画面が表示されます。

2 編集したいメニューを選んで OK ボタンを押す

- 選んだメニューの項目が一覧表示されます。左の画面は再生メニューを選んだ場合の表示例です。

3 マイメニューに登録するメニュー項目を選ぶ

- チェックボックスをオン ☑ にした項目がマイメニューに登録され、オフ □ にすると登録されません。オン／オフを切り換えるには、そのメニュー項目を選んで、マルチセレクターの▶を押してください。
- セットアップメニューの「メニュー表示切り換え」は、選ぶことができません。

4 手順３を繰り返し、表示したいすべてのメニュー項目のチェックボックスをオンにする

5 「**選択終了**」を選んで、OK ボタンを押す

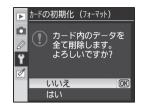
- 手順１の画面に戻ります。

6 手順１～５を繰り返し、５種類のメニューそれぞれについて、マイメニューに登録する項目を設定する

7 「**設定終了**」を選んで OK ボタンを押す

- セットアップメニュー画面に戻ります。

カードの初期化（フォーマット）

SDカードを初期化（フォーマット）します。**初期化すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。

☑ カードフォーマットについてのご注意

「フォーマット中」のメッセージが液晶モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、SDカードを取り出したりしないでください。

ボタン操作による初期化

SDカードは、FORMAT ボタン（ ボタンと 🗑 ボタン）を操作して初期化することもできます。詳しくはP.19をご覧ください。

ワールドタイム

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。日時設定の手順については、「はじめに—撮影の準備」（P.17）をご覧ください。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選択します。現在地のタイムゾーンを変更すると、「**日時の設定**」で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	「**現在地の設定**」で選択されているタイムゾーンの時刻を設定します。
日付の表示順	液晶モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、「**年／月／日**」、「**月／日／年**」、「**日／月／年**」から選択します。
夏時間	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は「**ON**」に、そうでない場合は「**OFF**」に設定します。「**ON**」にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は「**OFF**」です。

☑ 時計用電池についてのご注意

カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のACアダプター EH-5を接続すると、時計用電池が充電されます。充電には約2日間かかり、約1ヶ月間、設定した日時を記憶することができます。表示パネルに CLOCK マークが点滅した場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度日時設定を行ってください（CLOCK マークの点滅中は、「2006.01.01.00：00：00」からカウントされた日時になります）。

液晶モニターの明るさ

液晶モニターの明るさを－２～＋２の５段階で調整できます。＋にすると明るく、－にすると暗くなります。

ビデオ出力

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を設定します。通常、日本国内では「NTSC」（初期設定）にします。

- 「PAL」はPAL方式のテレビやビデオに接続する場合に使います。「PAL」にした場合、画面がちらつくことがあります。
- ビデオ出力方式にかかわらず、オーディオビデオケーブルをカメラに接続しているときは、液晶モニターは点灯しません。

言語（LANG）

メニュー画面やメッセージの表示言語を、次の15種類から選択することができます。

De	Deutsch	ドイツ語
En	English	英語
Es	Español	スペイン語
Fi	Suomi	フィンランド語
Fr	Français	フランス語
It	Italiano	イタリア語
Nl	Nederlands	オランダ語
Pl	Polski	ポーランド語

Pt	Português	ポルトガル語
Ru	Русский	ロシア語
Sv	Svenska	スウェーデン語
繁	中文（繁體）	繁体中国語
简	中文（简体）	簡体中国語
日	日本語	日本語
한	한글	韓国語

USB設定

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続するときのUSB通信方式を設定します。

- 付属のPictureProjectを使って画像をパソコンに転送するときは、お使いのOS（オペレーションシステム）に合わせて正しい通信方式を選んでください。詳しくは「【接続編】画像をパソコンに転送する」（P.82）をご覧ください。
- PictBridge規格対応プリンターに直接接続してプリントする時は、「PTP」にしてください。
- 別売のCamera Control Pro（P.170）でパソコンからカメラをコントロールするときは、「PTP」にしてください。

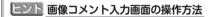
画像コメント

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付することができます。添付されたコメントは、PictureProjectや別売のCapture NX（P.170）の撮影情報表示エリアに表示されます。

コメントの入力

コメントを登録します。「**コメント入力**」を選ぶと、画像コメントの入力画面（下記ヒント参照）が表示されます。36文字までのコメントを入力し、OKボタンを押すと、コメントが登録されます。

コメントの添付

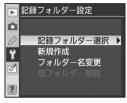
登録したコメントを画像に添付したい時は、「**コメント添付**」を選んでマルチセレクターの▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。「**設定終了**」を選んで▶を押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像にはすべてコメントが添付されます。

キーボードエリア
マルチセレクターで文字を選び、🔍ボタンを押すと、コメントエリアに文字が入力されます。

コメントエリア
入力した文字が表示されます。⊡ボタンを押しながらマルチセレクターを操作すると、カーソルが移動します。

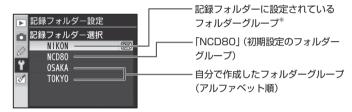
- 入力した文字は、カーソルがある位置に挿入されます。
- 入力できるのは英数字と記号36文字までです。37文字以上入力すると、コメントエリアからあふれた文字が削除されます。
- 文字を削除したい時は、削除する文字の上にカーソルを移動し、🗑ボタンを押します。その文字が削除され、後ろの文字が繰り上がります。
- コメントの登録をキャンセルしたいときは、MENUボタンを押してください。

記録フォルダー設定

画像を記録するフォルダー（画像が記録される場所）を選んだり、新しく作成したりすることができます。

フォルダー名は3ケタの数字（フォルダー番号）と5ケタの英数字（フォルダーグループ名）で構成されています。

記録フォルダー選択

「**記録フォルダー選択**」を選ぶと、下のような「記録フォルダー選択」画面が表示され、画像を記録するフォルダーグループを選ぶことができます。

フォルダー選択画面の見方は以下の通りです。

※ 記録フォルダーに設定したフォルダーグループは、「**空フォルダー削除**」で削除したり、SDカードを交換した場合でもそのまま表示されます。このフォルダーグループを選んだままで撮影を行うと、同じ名称のフォルダーグループが、再び作成されます。

新規作成

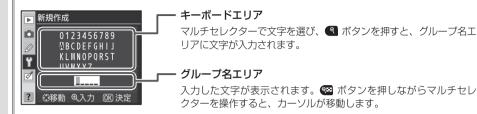
新しいフォルダーグループを作成します。「**新規作成**」を選ぶと、フォルダー名編集画面（次ページのヒント参照）が表示されます。5文字までのフォルダーグループ名を入力し、OK ボタンを押すと、フォルダーグループが作成されます。

フォルダー名変更

「**フォルダー名変更**」を選ぶと、フォルダーグループ名の一覧が表示されます。名称を変更したいフォルダーグループを選ぶと、グループ名編集画面（次ページのヒント参照）が表示されます。5文字までのグループ名を入力し、OK ボタンを押すと、グループ名が変更され、同時にそのグループ内のすべてのフォルダーのフォルダー名が変更されます。ただし、フォルダー番号は変更されません。

空フォルダー削除

画像が1コマも記録されていないフォルダーグループがすべて削除されます。

ヒント **グループ名編集画面の操作方法**

- 入力した文字は、カーソルがある位置に挿入されます。
- 入力できるのは5文字までです。6文字以上入力すると、グループ名エリアからあふれた文字が削除されます。
- 文字を削除したい時は、削除する文字の上にカーソルを移動し、ボタンを押します。その文字が削除され、後ろの文字が繰り上がります。
- フォルダーグループの新規作成やグループ名の変更を中止したい時は、MENU ボタンを押して、メニューに戻ってください。

☑ グループ内に複数のフォルダーがある場合のご注意

使用中のフォルダー内の画像ファイルが999コマに達するか、ファイル番号が9999に達した時に撮影を行うと、同じグループ名で番号が更新されたフォルダーが自動的に作成されます。

グループ内に複数のフォルダーがある場合、「**記録フォルダー選択**」でそのグループを選ぶと、グループ内でフォルダー番号が最大のフォルダーが選ばれます。たとえば、101NCD80、102NCD80というフォルダーがある場合、「**記録フォルダー選択**」で「NCD80」を選ぶと、102NCD80に画像が記録されます。

連番モード

- 「**ON**」にすると、SDカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、以前からの続きのファイル番号を付けることができます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
- 「**OFF**」（初期設定）のときは、SDカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。連番モードを「**ON**」から「**OFF**」に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に「**ON**」に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付けられます。
- 「**リセット**」を選ぶと、カメラが記憶しているファイル番号をリセットします。リセット後に撮影を行うと、新しいフォルダーが作成され、「0001」からの連番でファイル番号が付けられます。ただし、記録フォルダーに設定されているフォルダーに画像ファイルが無い場合は、フォルダーは作成されず、「0001」からの連番で画像が記録されます。

☑ ファイル番号についてのご注意

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、連番モードの設定にかかわらずファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999に達しているときに、ファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達した場合は、それ以上フォルダーを作成することができず、シャッターがきれなくなります。この場合は、「**連番モード**」を「**リセット**」した後、SDカードをフォーマットするか、交換してください。

クリーニングミラーアップ

撮像素子上のローパスフィルターの汚れを調べたり、クリーニングするために、ミラーを上げた状態で固定します。詳しくは「付録」の「ローパスフィルターのお手入れ」（P.172）をご覧ください。

イメージダストオフデータ取得

別売のCapture NX（P.170）の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラのローパスフィルターに付いたゴミによる影響を、RAW画像から取り除く機能です。詳しくは、Capture NXの使用説明書をご覧ください。

ダストオフデータ取得の手順

1 上の画面で「する」を選んでマルチセレクターの▶を押す

- 液晶モニターと表示パネル、ファインダー内下部に、左のように表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、MENU ボタンを押してください。

2 レンズ先端から 10cm 程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを押し込んで撮影する

- 被写体が暗い場合はノイズ低減が自動的に実行されるため、SDカードへの記録に時間がかかる場合があります。
- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎたり暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、ステップ1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。

ダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、「**ダストオフデータ取得**」を選ぶことはできません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のものをおすすめします（P.161）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- ダストオフデータを画像処理ソフトウェアなどで開くことはできません。
- ダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。ヒストグラム、ハイライトは表示できません。

電池チェック

カメラに装着中のバッテリーについての情報を表示します。

残容量	バッテリーの残量が１%単位で表示されます。
撮影回数	バッテリーを充電してから、そのバッテリーを使ってシャッターをきった回数が表示されます。
劣化度	バッテリーの劣化度合いが５段階のバーグラフで表示されます。 • バーグラフが「0」のときは、バッテリーは劣化していません。 • バーグラフが「4」のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

撮影回数について

「**撮影回数**」に表示される回数は、シャッターをきった回数です。プリセットホワイトバランスのデータ取得など、実際に画像がSDカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに１ずつ加算されます。

バッテリーパックMB-D80装着時の表示について

別売のバッテリーパックMB-D80を装着している場合は、バッテリーパックに装填しているバッテリー（または電池）の種類と数量によって、「**電池チェック**」の表示内容が以下のようになります。

種類	数量	表示の内容
EN-EL3e	１個	「左スロット」または「右スロット」にバッテリーの情報が表示されます。
EN-EL3e	２個	それぞれのバッテリーの情報が「左スロット」、「右スロット」に並記されます。
単３形電池	６本	「**電池チェック**」を選ぶことができません。

低温で充電した場合について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、「**電池チェック**」で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

ファームウェアバージョン

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

縦横位置情報の記録

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録するかどうかを設定します。

- 「**記録する**」(初期設定)のときは、液晶モニターやPictureProject、別売のCapture NX（P.170）で画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に画像を回転表示することができます。

  記録されるカメラの縦横位置情報は、以下の3種類です。

- 「**記録しない**」にすると、縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示されます。

✓ 縦横位置情報記録についてのご注意

- 連続撮影モード（P.43）では、最初の1コマを撮影した姿勢が記録されます。連写中に構図を変えても、縦横位置情報には反映されません。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

縦位置自動回転

通常、「**縦横位置情報の記録**」を「**記録する**」に設定して縦位置で撮影された画像は、液晶モニターでも縦位置で表示されますが、再生メニューの「**縦位置自動回転**」では、すべての画像を横位置で表示するように変更できます。

撮影した画像を編集する — 画像編集メニュー

「画像編集メニュー」では、SDカード内の撮影済み画像に、様々な特殊効果を加えたり、サイズを縮小するなどの編集を行うことができます。画像編集を行った場合は必ず、元の画像とは別に、新しい画像として記録されます。画像編集メニューには、以下の項目があります。

- セットアップメニューの「**メニュー表示切り換え**」を「**マイメニュー**」にしたときは、登録されているメニュー項目だけが表示されます。
- カメラにSDカードが入っていない場合やSDカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューは表示されません。
- メニューの操作方法についてはP.10をご覧ください。

D-ライティング※	逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を明るく補正します。	P.150
赤目補正※	「赤目現象」のために人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正することができます。	P.151
トリミング	画像の必要な部分だけを切り抜くことができます。	P.152
モノトーン※	モノトーンの画像（1色の明暗だけで表現された画像）を作成します。	P.153
フィルター効果※	画像全体の色調を演出できます。	P.154
スモールピクチャー	SDカード内の画像から、サイズを小さくした別の画像を作ります。	P.155
画像合成	2コマのRAW画像を合成して、1コマの画像にします。	P.157

※ 撮影メニュー「**仕上がり設定**」（P.102）を「**白黒**」にして撮影した画像に対して、これらの画像編集を行うことはできません。

画像編集メニューの操作手順

画像編集を行うには、

① 画像を選んでからメニュー項目を選ぶ

② メニュー項目を選んでから画像を選ぶ

の2通りの手順があります。ただし、「**画像合成**」(P.157) は手順②しか利用できません。

手順①：画像を選んでからメニュー項目を選ぶ場合

1

1コマ表示モード (P.74) で編集したい画像を選びます。

2

OK ボタンを押すと、画像編集メニューが表示されます。

3

▲または▼でメニュー項目を選びます。

4

OK ボタンを押すと、選んだ項目の編集画面が表示されます。

- 編集画面の操作方法については、各項目の説明をご覧ください。
- メニュー項目によっては、さらに詳細なメニューが表示される場合があります。この場合は手順3～4を繰り返してください。
- 画像編集を途中でやめるには、▶ ボタンを押してください。1コマ表示モードに戻ります。

繰り返し画像編集を行う場合

画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、退色したりする場合があります。ただし、以下の画像編集は行えません。

- 同じ画像編集を繰り返し行うこと
- 「**スモールピクチャー**」、「**トリミング**」で作成した画像に対してさらに画像編集を行うこと

画質モードと画像サイズについて

- 「**D-ライティング**」、「**赤目補正**」、「**モノトーン**」、「**フィルター効果**」で作成した画像は、元画像と同じ画質モードと画像サイズで記録されます。ただし、元画像がRAW画像の場合、画質モードがFINE、画像サイズがLのJPEG画像が作成されます。
- 「**トリミング**」で作成した画像については、P.152をご覧ください。
- 「**スモールピクチャー**」で作成した画像の画質モードは、FINE（JPEGで約1/4に圧縮）で記録されます。

手順②：メニュー項目を選んでから画像を選ぶ場合

1

画像編集メニューでマルチセレクターの▲または▼で、メニュー項目を選びます。

2

OK ボタンを押すと、画像の選択画面が表示されます。

- メニュー項目によっては、さらに詳細なメニューが表示される場合があります。この場合は手順1～2を繰り返してください。

3

◀または▶で画像を選びます。

- 画像はメインコマンドダイヤル（左右）、サブコマンドダイヤル（上下）の組み合わせで選ぶこともできます。
- 🔍 ボタンを押すと、選択画像が拡大表示されます。

4

OK ボタンを押すと、選んだ項目の編集画面が表示されます。

- 編集画面の操作方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、MENU ボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

D- ライティング

D-ライティングでは、画像の暗い部分だけを明るく補正することができます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなってしまった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなってしまった画像などに効果的です。

D-ライティング前

D-ライティング後

編集画面には、D-ライティングの効果の適用前と適用後のプレビュー画像が表示されます。

- マルチセレクターの▲または▼で、効果の度合いを「強め」、「標準」、「弱め」の3段階から選ぶことができます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
- OK ボタンを押すと編集した画像が記録され、1コマ表示モードまたは画像編集メニューに戻ります。

赤目補正

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正することができます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。

編集画面では、プレビュー画像が表示され、以下の操作ができます。

<table>
<tr><td>拡大率を上げる</td><td></td><td>ボタンを押すごとにプレビュー画像の拡大率が上がります。</td><td rowspan="3">プレビュー画像の拡大表示中にこれらの操作を行うと、画面の右下に画像全体が縮小表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。数秒すると消えますが、再度操作すると表示されます。</td></tr>
<tr><td>拡大率を下げる</td><td></td><td>プレビュー画像の拡大再生中は、ボタンを押すごとに拡大率が下がります。</td></tr>
<tr><td>画面をスクロール（移動）させる</td><td></td><td>プレビュー画像の拡大再生中は、画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。</td></tr>
<tr><td>画像を保存する</td><td>OK</td><td colspan="2">補正した画像が記録され、1コマ表示モードまたは画像編集メニューに戻ります。</td></tr>
</table>

赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られない場合があります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正される場合があります。

赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

トリミング

画像の必要な部分だけを切り出します。

編集画面では、トリミング画像のプレビューが表示され、以下の操作ができます。

画像の拡大率を上げる（切り出す範囲を狭くする）	ボタン	ボタンを押すごとにプレビュー画像の拡大率が上がります。 • トリミングで切り出される範囲は狭くなります。
画像の拡大率を下げる（切り出す範囲を広くする）	ボタン	プレビュー画像の拡大再生中は、ボタンを押すごとに拡大率が下がります。 • トリミングで切り出される範囲は広くなります。
画面をスクロール（移動）させる	マルチセレクター	トリミングで切り出す範囲を移動します。画面をスクロールさせて、切り出したい部分をプレビュー画像に表示します。
トリミングを実行して画像を保存する	OK	トリミングした画像が記録され、1コマ表示モードまたは画像編集メニューに戻ります。

トリミング画像の画質モードと画像サイズについて

トリミング画像の画質モード（P.40）は、元画像の画質モードが「RAW」、「RAW+FINE」、「RAW＋NORMAL」、「RAW+BASIC」のときは「FINE」になり、「FINE」、「NORMAL」、「BASIC」のときは元画像と同じ画質モードになります。画像サイズ（P.41）はトリミング範囲に応じて、以下の中から自動的に決定されます。

• 2560×1920　• 1920×1440　• 1280×960
• 960×720　• 640×480

モノトーン

モノトーンの画像（1 種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

「**モノトーン**」を選ぶと、右の詳細メニューが表示され、以下の色調を選ぶことができます。

白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

編集画面には、プレビュー画像が表示されます。

- 「**セピア**」または「**クール**」を選んだ場合は、マルチセレクターの▲▼で色の濃さを調整（3 段階）することができます。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。

色が濃くなる

色が薄くなる

- OK ボタンを押すと編集した画像が記録され、1 コマ表示モードまたは画像編集メニューに戻ります。

フィルター効果

画像全体の色調を演出できます。

「**フィルター効果**」を選ぶと、右の詳細メニューが表示され、以下のフィルター効果を選ぶことができます。

スカイライト	スカイライトフィルターと同様に、画像の青みを抑える効果があります。	スカイライト OK 保存 編集画面には、プレビュー画像が表示されます。
ウォームトーン	画像を暖色にする効果があります。	
カラーカスタマイズ	右のような画面が表示され、マルチセレクターの▲▼◀▶それぞれを押すたびに、画像全体の色調が以下のように変わります。 ▲ 緑が強くなる ◀ 青が強くなる ▶ 赤が強くなる ▼ ピンクが強くなる	キャンセル　OK 決定 色調を操作すると、プレビュー画像と画面右側のRGBヒストグラム（色の分布図：P.76）に反映されます。

• OK ボタンを押すと編集した画像が記録され、1コマ表示モードまたは画像編集メニューに戻ります。

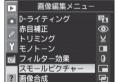
スモールピクチャー

小さいサイズの画像（スモールピクチャー）を作成します。

「**スモールピクチャー**」では、作成する画像の大きさ（ピクセル数）を次の中から選べます。

640×480	テレビでの表示に適しています。
320×240	ホームページでの使用に適しています。
160×120	電子メールへの添付に適しています。

1コマ表示モードで画像を選んでから「**スモールピクチャー**」を実行する手順は、P.148と同様の操作ですが、MENU ボタンを押して画像編集メニューを選ぶと、複数の画像のスモールピクチャーを作成できます。

複数の画像を選んでスモールピクチャーを作成する手順

画像編集メニュー画面で「**スモールピクチャー**」を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2

▲または▼で「**画像サイズの設定**」を選びます。

3

▶を押すと、画像サイズの選択画面が表示されます。

4

▲または▼で、作成したいサイズを選びます。

5

OK ボタンを押すと、上の画面に戻ります。

6

▲または▼で、「**画像選択**」を選びます。

7

▶を押すと、画像選択画面が表示されます。

8

スモールピクチャーを作成する画像を選びます。

- 画像選択画面の操作方法については、P.95をご覧ください。スモールピクチャを作成する画像には、 アイコンが表示されます。
- 「スモールピクチャー」メニューでは、複数の画像のスモールピクチャーを一括で作成することができます。

9

OK ボタンを押すと、確認画面が表示されます。

10

▲または▼で、「**はい**」を選びます。

11

OK ボタンを押すと、スモールピクチャーが記録され、画像編集メニューに戻ります。

- キャンセルして手順8に戻るには、「いいえ」を選んで OK ボタンを押してください。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るには、MENU ボタンを押してください。

☑ スモールピクチャーについてのご注意

- スモールピクチャーは1コマ表示モード、サムネイル表示モードや、画像選択画面で、グレーの枠付きで表示されます。
- スモールピクチャーは拡大表示できません。

画像合成

SDカードに記録されているRAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成することができます。画像合成の手順は以下の通りです。

1 「画像合成」を選んで、マルチセレクターの▶を押す

- 左のような画面が表示され、「画像1」欄がハイライト表示されます。

2 OK ボタンを押す

- SDカードに記録されているRAW画像のサムネイル一覧が表示されます。

3 ◀または▶で合成する画像の1コマ目を選ぶ

- ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示することができます。

4 OK ボタンを押す

- 選んだ画像が1コマ目に設定され、「画像1」欄にプレビューが表示されます。

5 ▲または▼で、「画像1」のゲイン（出力）を設定する

- 合成画像の明るさが適正になるように、ゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1刻みで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。
- 「プレビュー」欄で、合成後のイメージを確認できます。

6 ◀または▶で「**画像 2**」を選び、「画像 1」と同様に、2 コマ目を選び、ゲインを設定する

7 画像 1、画像 2 の設定が終わったら、◀または▶で「プレビュー」欄に移動する

8 ▲または▼で「**合成**」を選び、OK ボタンを押す

- 合成画像の確認画面が表示されます。
- 画像の選択やゲインの設定をやり直したいときは、縮小 ボタンを押してください。手順7の画面に戻ります。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、「**保存**」を選んで OK ボタンを押してください。

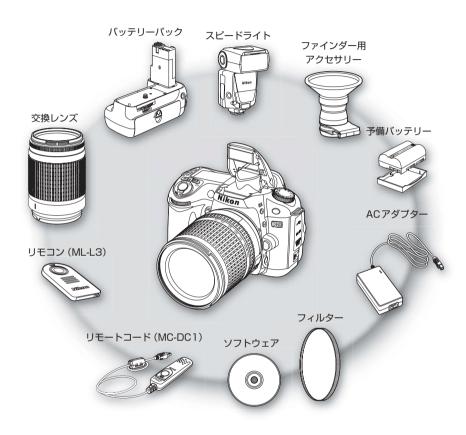
9 もう一度 OK ボタンを押す

- 合成画像が保存され、1 コマ表示モード（P.74）で表示されます。

☑ 画像合成についてのご注意

- 合成できる画像は、D80で撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は、画像のサムネイル一覧に表示されず、選ぶことができません。
- 非表示設定されている画像は、画像のサムネイル一覧に表示されず、選ぶことができません。
- 合成画像の画質モード（P.40）と画像サイズ（P.41）は、合成時のカメラの設定になります（合成画像はすべての画質モード、画像サイズで保存できます）。画像合成を行う前に、これらの設定をご確認ください。合成した画像をさらに別のRAW画像と合成したいときは、画質モードをRAWに設定してください。
- 合成画像のホワイトバランス、仕上がり設定、撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、「**画像 1**」で選んだ画像の内容を引き継ぎます。

使用できるアクセサリー

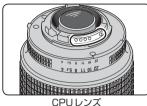
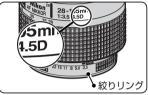
アクセサリーを活用して、撮影の幅を広げることができるのも、デジタル一眼レフカメラの楽しみのひとつです。D80には、以下のようなニコン製アクセサリーが使用できます。

アクセサリーについてのご注意

D80には、ニコン製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、D80に使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

装着できるレンズ

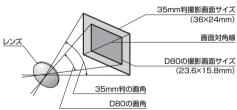
CPUレンズ（IXニッコールを除く）をおすすめします。とくにGタイプ・Dタイプレンズは、カメラの機能を最大限に引き出すことができます。

CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。Gタイプレンズには、絞りリングがありません。

CPUレンズ

Gタイプレンズ

Dタイプレンズ

ヒント **レンズの画角と焦点距離について**

D80には、さまざまなニコン一眼レフカメラ用レンズを装着することができます。ただし、これらのレンズをD80に装着したときの画角は、レンズに表記されている焦点距離の1.5倍のレンズに相当する画角になります。これは、35mm判カメラの撮影画面サイズ（36×24mm）に対して、D80の撮影画面（約23.6×15.8mm）が小さいためです。このため、同じレンズで撮影しても、D80と35mm判カメラでは、画角（撮影される範囲）が異なることにご注意ください。

ヒント **レンズの開放F値とは**

レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値（最小の絞り値）を意味します。レンズ名称の最後のほうに「F2.8」「F3.5－5.6」などと記されています。

☑ 非CPUレンズについてのご注意

非CPUレンズ装着時は、撮影モード**M**で撮影してください。**M**以外では、シャッターがきれません。カメラの露出計や、コマンドダイヤルによる絞りの設定、i-TTLモードでのフラッシュ撮影、プレビューなどの各機能は使うことができません。絞りの設定や確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

☑ 使用できないレンズについてのご注意

以下の非CPUレンズは装着できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損するのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- Ai改造をしていないレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm F4.5、600mm F5.6、800mm F8、1200mm F11）
- フィッシュアイ（6mm F5.6、7.5mm F5.6、8mm F8、OP10mm F5.6）
- 旧21mm F4
- K2リング
- ED180－600mm F8（製品No.174041～174180）
- ED360－1200mm F11（製品 No.174031～174127）
- 200－600mm F9.5（製品 No.280001～300490）
- F3AF用（80mm F2.8、200mm F3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm F4（製品 No.180900以前の製品）
- PC35mm F2.8（製品 No.851991～906200）
- 旧PC35mm F3.5
- 旧レフレックス1000mm F6.3
- レフレックス1000mm F11（製品 No.142361～143000）
- レフレックス2000mm F11（製品 No.200111～200310）

装着できるレンズ一覧

		フォーカスモード			撮影モード		測光モード	
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	**M**以外	**M**	マルチパターン測光	中央部重点／スポット測光
CPUレンズ（※2）	Gタイプレンズ（※3）、Dタイプレンズ（※3）、AF-Iレンズ、AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	○	○[※1]
	PCマイクロニッコール85mm F2.8D（※4）	×	○[※5]	○	×	○	○	○[※1]
	AF-S ／ AF-Iテレコンバーター（※6）	○[※7]	○[※7]	○	○	○	○	○[※1]
	Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	○[※8]	○[※8]	○	○	○	○	○[※1]
	Ai-Pニッコール	×	○[※9]	○	○	○	○	○[※1]
非CPUレンズなど（※10）	Ai-S、Ai、シリーズEレンズ、改造Aiレンズ	×	○[※9]	○	×	○[※11]	×	×
	メディカル120mm F4	×	○	○	×	○[※12]	×	×
	レフレックスレンズ	×	×	○	×	○[※11]	×	×
	PCニッコール	×	○[※5]	○	×	○[※11]	×	×
	Ai-S、Aiテレコンバーター	×	○[※7]	○	×	○[※11]	×	×
	ベローズPB-6（※13）	×	○[※9]	○	×	○[※11]	×	×
	オート接写リング（PK-11A、12、13、PN-11）	×	○[※9]	○	×	○[※11]	×	×

※1　CPUレンズ装着時は、フォーカスエリア選択によりスポット測光エリアを移動可（P.124）。
※2　IXレンズは装着不可。
※3　VRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応。
※4　カメラの測光モードおよび調光制御機能は、あおり操作（シフトまたはティルト）中、または開放絞り以外では、正しく機能しません。
※5　あおり操作を行っていない場合のみ可。
※6　AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用
※7　合成絞りがF5.6 以上明るい場合に使用可。
※8　AF 80－200mm F2.8S、AF 35－70mm F2.8S、AF 28－85mm F3.5－4.5S（New）、AF 28－85mm F3.5－4.5Sレンズで、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスの合焦表示が合致しない場合があります。この場合は、ファインダースクリーンのマット面を利用して、マニュアルフォーカスでピントを合わせて撮影してください。
※9　開放絞りがF5.6以上明るいレンズのみ使用可。
※10　一部装着不可能なレンズがあります。
※11　露出インジケーターは使用不可。
※12　シャッタースピード1/60秒以下で使用可。露出インジケーターは使用不可。
※13　縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことは可能です）。

ヒント　AF-S ／ AF-Iテレコンバーターについて

AF-S ／ AF-Iテレコンバーターは、AF-SレンズとAF-Iレンズ専用のテレコンバーターです。使用可能なレンズは、以下の通りです。

AF-S VR マイクロED 105mm f/2.8G IF [※1]
AF-S VR ED 200mm f/2G IF
AF-S VR ED 300mm f/2.8G IF
AF-S ED 300mm f/2.8D II IF
AF-S ED 300mm f/2.8D IF
AF-I ED 300mm f/2.8D IF
AF-S ED 300mm f/4D IF [※2]
AF-S ED 400mm f/2.8D II IF
AF-S ED 400mm f/2.8D IF
AF-I ED 400mm f/2.8D IF
AF-S ED 500mm f/4D II IF [※2]
AF-S ED 500mm f/4D IF [※2]
AF-I ED 500mm f/4D IF [※2]
AF-S ED 600mm f/4D II IF [※2]
AF-S ED 600mm f/4D IF [※2]
AF-I ED 600mm f/4D IF [※2]
AF-S VR ED 70-200mm f/2.8G IF
AF-S ED 80-200mm f/2.8D IF
AF-S VR ED 200-400mm f/4G IF [※2]

※1: AF撮影はできません。
※2: AF-Sテレコンバーター TC-17E II/TC-20E II との組み合わせでは、AF撮影はできません。

✔ 赤目軽減（P.49）についてのご注意

レンズの種類によっては、AF補助光ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に充分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

☑ AF補助光撮影（P.32）に制限のあるレンズについてのご注意

- 以下のレンズではAF補助光を使ってのオートフォーカス撮影はできません。

・AF-S VR 200mm F2G (IF)
・AF-S VR ED 70-200mm F2.8G
・AF-S 80-200mm F2.8D
・AF ED 80-200mm F2.8D
・AF VR ED 80-400 F4.5-5.6D
・AF-S VR ED 200-400mm F4G

- 以下のレンズでは、撮影距離1m以内でAF補助光がレンズによってさえぎられる場合があります。この場合、AF補助光を使ってのオートフォーカス撮影はできません。

・AF-S VR マイクロ 105mm F2.8G (IF)・AF マイクロ 200mm F4D
・AF-S DX ED 12-24mm F4D
・AF-S ED 17-35mm F2.8D (IF)
・AF-S DX ED 17-55mm F2.8G (IF)
・AF ED 18-35mm F3.5-4.5D
・AF-S DX 18-70mm F3.5-4.5G
・AF-S VR DX 18-200mm F3.5-5.6G
・AF 20-35mm F2.8D
・AF ED 24-85mm F2.8-4D
・AF-S ED 24-85mm F3.5-4.5G (IF)
・AF-S VR ED 24-120mm F3.5-5.6G
・AF 24-120mm F3.5-5.6D
・AF-S ED 28-70mm F2.8D
・AF ED 28-200mm F3.5-5.6G (IF)
・AF マイクロ ED 70-180mm F4.5-5.6

☑ 内蔵フラッシュ撮影（P.48）に制限のあるレンズについてのご注意

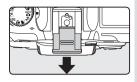
- 内蔵フラッシュ撮影が可能なCPUレンズは、焦点距離が18mmから300mmまでのレンズです。ただし、以下のCPUレンズでは、フラッシュの光がレンズによってさえぎられるため、内蔵フラッシュ撮影が可能な焦点距離や撮影距離に制限があります。

レンズ	制限
AF-S DX ED 12-24mm F4G	焦点距離20mm時の撮影距離2m以上、 焦点距離24mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S ED 17-35mm F2.8D	焦点距離24mm時の撮影距離2m以上、 焦点距離28mmおよび35mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S DX ED 17-55mm F2.8G（IF）	焦点距離28mm時の撮影距離1.5m以上、 焦点距離35mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF ED 18-35mm F3.5-4.5D	焦点距離24mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF 20-35mm F2.8 D	焦点距離20mm時の撮影距離1.5m以上、 焦点距離24mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S DX ED 18-70mm F3.5-4.5G	焦点距離18mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S DX ED 18-135mm F3.5-5.6G	焦点距離18mm時の撮影距離1.5m以上で使用可能
AF-S DX VR ED 18-200mm F3.5-5.6G	焦点距離24mmおよび35mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S ED 28-70mm F2.8 D	焦点距離35mm時の撮影距離1.5m以上、 焦点距離50mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S VR ED 24-120mm F3.5-5.6G	焦点距離24mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S VR ED 200-400mm F4G	焦点距離200mm時の撮影距離3m以上、 焦点距離250mmおよび300mm時の撮影距離2.5m以上で使用可能

- 内蔵フラッシュ撮影が可能な非CPUレンズは、焦点距離が18mmから200mmまでのニッコール（Ai-S、Ai、改造Ai）、ニコン レンズシリーズEです。ただし、以下のレンズには使用に制限があります。

レンズ	制限
Ai-S 25-50mm F4、 Ai 25-50mm F4、 Ai-S 35-70mm F3.5	焦点距離35mm時の撮影距離1m以上で使用可能
Ai 50-300mm F4.5、 Ai改 50-300mm F4.5、 Ai-S ED 50-300mm F4.5 Ai改 85-250mm F4	焦点距離135mm以上で使用可能
Ai ED 50-300mm F4.5	焦点距離105mm以上で使用可能
Ai-S ED 200mm F2 Ai ED 200mm F2	使用できません

装着できるスピードライト（フラッシュ）

別売スピードライトを装着するときは、アクセサリーシューカバーを取り外してください。なお、別売スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。

D80はニコンの「クリエイティブライティングシステム（CLS）※」に対応しています。CLS対応のスピードライトSB-800、SB-600、リモート発光用のリモートスピードライトSB-R200との組み合わせることで、i-TTL調光、FVロック（P.123）、オートFPハイスピードシンクロなど、さまざまな機能が利用できます（P.165）。また、D80の内蔵フラッシュをコマンダーとして利用し、離れた場所にあるSB-800、SB-600、SB-R200を遠隔操作で発光させることもできます。詳しくは各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

※ CLSは、ニコン製のスピードライトとカメラの組み合わせで実現する、最新のスピードライト制御システムです。従来のD-TTL調光よりもさらに高精度の「i-TTL調光」、スピードライトの調光量を固定する「FVロック」、フラッシュ撮影時のシャッタースピードを使用カメラの最高速度まで使えるようにする「オートFPハイスピードシンクロ」など、様々な機能が利用できます。

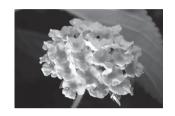
SB-800

- ニコンスピードライトSB-800はガイドナンバー 38（照射角35mm時、ISO100・m、20℃）の高性能スピードライトです。電源は単3形電池（詳しくはSB-800の使用説明書をご覧ください）を4本（付属の増設電池パックSD-800使用時は5本）使用しますが、外部電源（別売）としてSD-6、SD-7、SD-8A、パワーブラケットSK-6も併用できます。
- フラッシュヘッドが上方向90°から下方向7°、左方向180°から右方向90°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影ができます。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートズーム機能（24～105mm）を備えています。また、内蔵ワイドパネルを使用すると、照射角が14mm、17mmになります。
- 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、LCDと各操作スイッチにイルミネーターを備えています。
- SB-800のカスタム設定により、各機能の設定が効率よく行えます。

SB-600

- ニコンスピードライトSB-600はガイドナンバー 30（照射角35mm時、ISO100・m、20℃）の高性能スピードライトです。電源は単3形電池（詳しくはSB-600の使用説明書をご覧ください）を4本使用します。
- フラッシュヘッドが上方向90°、左方向180°から右方向90°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影ができます。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートズーム機能（24～85mm）を備えています。また、内蔵ワイドパネルを使用すると、14mmの照射角度になります。
- 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、表示パネルおよび操作スイッチにイルミネーターを備えています。
- SB-600のカスタム設定により、各機能の設定が効率よく行えます。

SB-R200

- ニコンワイヤレスリモートスピードライトSB-R200はガイドナンバー 10（ISO100・m、20℃）のリモート発光用スピードライトです。電源は3VのCR123Aリチウム電池（詳しくはSB-R200の使用説明書をご覧ください）を1本使用します（カメラ本体には直接装着できません）。
- SB-R200はアドバンストワイヤレスライティングに対応したカメラの内蔵フラッシュ、またはスピードライトSB-800、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800（別売）でリモート発光します。D80は内蔵フラッシュをコマンダーにしてSB-R200をリモート発光させることができます。
- アタッチメントリングSX-1およびアダプターリングを使用してレンズ先端に装着したり、スピードライトスタンドAS-20でカメラから離して設置したり、手持ちで照明することにより、i-TTL調光による多彩な近接（クローズアップ）撮影やリモート撮影が可能です。

ヒント　ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離（m）」（ISO感度が100の場合）という関係があります。D80の内蔵フラッシュのガイドナンバーは約13（ISO感度が100、20℃の場合）なので、絞り値がf5.6なら、13÷5.6＝約2.3mまでフラッシュの光が届くことになります。これに対してSB-800（ガイドナンバー 38）、SB-600（ガイドナンバー30）ではそれぞれ、絞り値がf5.6なら約6.8m、約5.4mまで光が届きます（いずれも照射角35mm、ISO感度100、20℃の場合）。

☑ 他社製のフラッシュについて

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

SB-800、SB-600、SB-R200との組み合わせで使用できる機能

別売のスピードライトSB-800、SB-600、SB-R200を使用する場合、スピードライトとレンズの組み合わせによって次の機能が使用できます。

			1灯のみで使用		アドバンストワイヤレスライティング（ワイヤレス増灯撮影）				
					主灯として使用		補助灯として使用		
スピードライト			SB-800	SB-600	SB-800	SU-800※1	SB-800	SB-600	SB-R200
発光モード	i-TTL	i-TTL-BL調光	○※2	○※2	○	○	○	○	○
		スタンダードi-TTL調光	○	○					
	AA	絞り連動外部自動調光	○※3		○※4	○	○※4		
	A	外部自動調光	○※3		○※4		○※4		
	GN	距離優先マニュアル発光	○						
	M	マニュアル	○	○	○	○	○	○	○
	RPT	リピーティングフラッシュ	○		○	○	○	○	
機能		オートFPハイスピードシンクロ※5	○	○	○	○	○	○	○
		FVロック	○	○	○	○	○	○	○
		マルチエリアアクティブ補助光※6	○	○	○	○			
		発光色温度情報伝達	○	○	○				
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○	○	○
		赤目軽減発光	○	○	○				
		オートズーム	○	○	○				
		感度自動制御（カスタムメニュー7）	○	○					

※1　SU-800本体に発光機能はありません。表中の○は、SU-800がコマンダーとして補助灯を制御できる機能です。
※2　スポット測光時は選ぶことができません。
※3　**AA**モードと**A**モードの選択は、SB-800のカスタム設定で行います。ただし**AA**モード設定時でも、非CPUレンズ装着時は、自動的に**A**モードになります。
※4　SB-800のカスタム設定にかかわらず、優先的にAAモードになります。ただし非CPUレンズ装着時は、自動的に**A**モードになります。
※5　カスタムメニュー「**25：オートFP撮影**」（P.131）を「**する**」にしてください。
※6　非CPUレンズ装着時は機能しません。

✓ スピードライトSB-800、SB-600装着時の感度自動制御について

カスタムメニュー「**7：感度自動制御**」（P.116）を「**する**」にしたときや、撮影モード 、 、 、 、 、 、 でISO感度を「AUTO」（オート）にしたときは、別売のスピードライトSB-800、SB-600を装着すると、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただし「**感度自動制御**」を「**する**」にしていても、次のような場合は手前の被写体が露出アンダーになることがあります。

- 低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）を行う場合
- 日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）を行う場合
- 背景が明るい場合

このような場合には、以下の操作を行うことでフラッシュの照射光が届きやすくなります。

- 撮影モードを**A**（絞り優先オート）などにして絞りを開く
- スローシンクロを解除する

その他のスピードライト

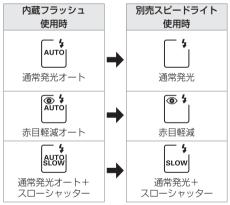
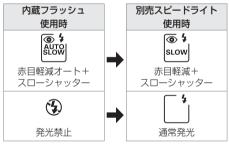
以下のスピードライトで撮影するときは、外部自動調光（A）あるいはマニュアル発光撮影になります。TTLモードでは、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

スピードライト			SB-80DX SB-28DX	SB-50DX	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27※1 SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29※2 SB-21B※2 SB-29S※2
区分	A	外部自動調光	○		○	○	
	M	マニュアル	○	○	○	○	○
	(マルチフラッシュ)	マルチフラッシュ	○		○		
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

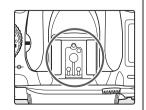
※1 D80とSB-27を組み合わせると自動的にTTLモードになりますが、TTLモードでは使うことができません。SB-27を強制Aモードに設定しなおしてください。

※2 SB-29S・29・21B使用時のオートフォーカス撮影は、一部のAFマイクロ（60mm・105mm・200mm）レンズ装着時のみ可能です。

☑ 撮影モード AUTO、(スポーツ)、(クローズアップ)、(夜景ポートレート) での別売スピードライト使用についてのご注意

別売スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光せず、常に別売スピードライトが発光します。フラッシュモード（P.48）は以下のように変更されます。

撮影モード (風景)、(スポーツ)、(夜景) で別売スピードライトを使用すると、通常発光モードになります。赤目軽減モードに変更することもできます。

ヒント アクセサリーシュー

このカメラはアクセサリーシューを装備しています。スピードライトSB-800・600・80DX・28DX・28・50DX・27・23・22S・29Sなどを使用する場合、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。セーフティロック機構（ロック穴）を備えていますので、セーフティロックピン付きのスピードライト（SB-800、SB-600など）を取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。

ヒント ホットシューアダプター AS-15

別売のホットシューアダプターAS-15を装着すると、シンクロターミナルが利用できます。

スピードライト（別売）を使用する場合の注意

- スピードライトを装着すると、撮影状況にかかわらず、撮影時は常に発光します。
- 詳しくはスピードライトの使用説明書をご覧ください。
  クリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、「クリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフ」に該当する箇所をお読みください。なお、D80はSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- オートFPハイスピードシンクロを行わない場合、フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは1/200秒以下（低速側）です。
- i-TTLや外部自動調光モードで、フル発光でも露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にファインダー内下部の ⚡ が約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO100～1600相当です。
- ISO感度を1600よりも高くしたときは、距離や絞りによっては適正な発光量にならない場合があります。
- スピードライトSB-800、SB-600使用時で、赤目軽減発光を行うフラッシュモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- D80とSB-800、SB-600以外のスピードライトの組み合わせでは、カメラのAF補助光が発光します（P.32、115）。
- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800を装着した場合、AF補助光の発光条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光（アクティブ補助光）が自動的に発光します。AF補助光が照射可能なフォーカスエリアはAFレンズの焦点距離によって異なります。

AFレンズの焦点距離が24～34mmの場合		AFレンズの焦点距離が35～105mmの場合	

  その他のスピードライトでは、被写体が暗い場合でも、スピードライトのAF補助光は発光せず、カメラのAF補助光が発光します。
- D80とSB-800、SB-600以外のスピードライトの組み合わせでは、オートパワーズーム機能は使用できません。
- 撮影モードによっては、ISO感度（P.51）の設定によって、カメラが自動で設定する開放側の限界絞りが、以下のように制御されます。

撮影モードP、AUTO、、、、、：

ISO感度と開放側の限界絞り（F）												
100	125	160	200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600
4	4.2	4.5	4.8	5	5.3	5.6	6	6.3	6.7	7.1	7.6	8

撮影モード：

ISO感度と開放側の限界絞り（F）												
100	125	160	200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600
5.6	6	6.3	6.7	7.1	7.6	8	8.5	9	9.5	10	11	11

※ 感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使ってカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露光にならない場合があります。
- スピードライトSB-800、SB-600を使うときは、測光モードを ⊡（スポット測光）にすると、スタンダードi-TTL調光になります。
- 内蔵フラッシュが上がった状態でスピードライトを装着した場合、内蔵フラッシュは発光しません。
- 非CPUレンズ装着時は、i-TTL調光およびAA（絞り連動外部自動調光）は行えません。

その他の使用できるアクセサリー

ファインダー用アクセサリー	• **接眼補助レンズ** 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えができます。－5、－4、－3、－2、0、＋0.5、＋1、＋2、＋3m^{-1}の9種類が用意されていますが、いずれもD80の視度調節ノブが調節範囲の中央（－1m^{-1}）の場合の値です。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。D80では、視度調節機能が内蔵されています（－2～＋1m^{-1}）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにご使用ください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当ては使用できません。 • **マグニファイングアイピースDK-21M** D80のファインダー倍率を約1.10倍（50 mm F 1.4レンズ使用時・∞・－1.0 m^{-1}のとき）に拡大します。 • **マグニファイヤー DG-2** ファインダー中央部の像を拡大します。接写や複写、超望遠レンズ使用時など、より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。別売のアイピースアダプターを装着することにより使用可能です。 • **アイピースアダプター** D80にマグニファイヤー DG-2を取り付けるためのアダプターです。 • **アングルファインダー DR-6** アングルファインダー DR-6をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。
フィルター	• ニコンフィルターは、ねじ込み式、後部交換式、および組み込み式の3方式に大別されます。また、他社製の特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL）をご使用ください。 • フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターのご使用をおすすめします。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生する恐れがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • フィルター係数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。

✔ リモートコード接続端子カバーについて

リモートコード接続端子カバー内部は防滴構造になっていないため、カバーを開けた状態では、リモートコードの接続、非接続にかかわらず、カメラ内部に水分が侵入しやすくなります。雨などの水分が侵入する可能性がある場合は、故障の原因となりますので、リモートコード接続端子カバーを開けないでください。

推奨SDカード

以下のSDカードの動作を確認しています。

- 以下の容量のSDカードであれば、内部データ転送速度にかかわらず使用できます。

ニコン製	1GB
SanDisk社製	64MB、128MB、256MB、512MB、1GB、2GB※1、4GB※2
東芝製	64MB、128MB、256MB、512MB、1GB、2GB※1
Panasonic製	64MB、128MB、256MB、512MB、1GB、2GB※1、4GB※2
LEXAR MEDIA社製	256MB、512MB、1GB/512MB、1GB（プラチナII）/1GB、2GB※1（プロフェッショナル）

※1　カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2GBのSDカードに対応している必要があります。

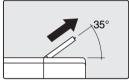
※2　SDHC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

- 上記カードの機能、動作の詳細については、各カードメーカーにお問い合わせください。最新の動作確認済みSDカードについては、当社ホームページのサポート情報をご覧ください。

SDカード使用上の注意

- カメラの使用直後にはSDカードが熱くなっている場合がありますので、ご注意ください。
- 未使用のSDカードや、パソコンなどでカメラ以外のデータを保存・削除したSDカードは、必ずカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。
- SDカードのフォーマット中は、絶対にカメラからカードを取り出さないでください。カードが使用できなくなることがあります。
- SDカードへ記録・削除が行われているときや、パソコンとの通信時には、以下のことは行わないでください。記録されているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - ・カードの着脱をする
  - ・カメラの電源をOFFにする
  - ・バッテリーを取り出す
  - ・ACアダプターを抜く
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- SDカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。

D80用別売アクセサリー

電源	• Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e 付属のバッテリーと同型のものが別にお求めになれます。D80はEN-EL3eとの通信機能に対応しているため、バッテリーの状態をカメラで詳細に確認することができます（P.23）。 ※ EN-EL3a、EN-EL3はD80、MB-D80には使用できません。 • マルチパワーバッテリーパックMB-D80 Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eを1個または2個、単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池、ニッケルマンガン電池）6本を使用してカメラに電源を供給することができます。MB-D80には縦位置シャッターボタンとメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤル、AE-L/AF-Lボタンが装備されているので、縦位置での撮影に便利です。 カメラ本体のバッテリーカバーとMB-D80用接点カバーを取り外して装着します。 バッテリーカバーは、下の図のように斜め上方向に引っ張ると無理なく取り外すことができます。装着する場合も、同じ角度で逆の方向に挿入してください。 • ACアダプター EH-5 D80で使用できるACアダプターです。 ※ 日本国内専用電源コード（AC 100V対応）付属。日本国外で使用する場合は、別売の電源コードが必要です。
リモートコード	• リモートコードMC-DC1 カメラブレを避けたい場合や、カメラから離れてレリーズ操作をしたい場合に便利です。また、長時間露出（バルブ）撮影用に、シャッターボタンを押したままの状態で固定する機能も備えています。 ・カメラに接続するときは、リモートコード接続端子カバーを開け、図のように接続します。 ・リモートコード接続端子には、MC-DC1以外の接続端子を差し込まないでください。
リモコン	• リモコンML-L3 ワイヤレスでシャッターをきることができ、記念写真などに便利です。また、手ブレを防止するケーブルレリーズの代わりとしても利用できます。 リモコン用電池（CR2025型3Vリチウム電池）の交換方法 ① ② ③ ④ ⑤
ボディーキャップ	• ボディキャップBF-1A レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ミラーやファインダースクリーンなどへのゴミやホコリの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。
ニコンデジタルカメラ専用ソフトウェア	• Capture NX 画像を詳細に編集できる、画像編集用ソフトウェアです。ホワイトバランスや色収差の補正など様々な機能を備えています。最新版にバージョンアップしてお使いください。 • Camera Control Pro パソコンからカメラをコントロールして撮影することができるソフトウェアです。撮影した画像はパソコンのハードディスクへ直接保存できます。最新版にバージョンアップしてお使いください。

D80に使用できる別売アクセサリーについての最新情報は、最新のカタログや当社ホームページなどでご確認ください。

カメラとレンズのお手入れ

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出しておいてください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記のような場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%をこえる場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使った後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 **ご注意：カメラ内部にゴミやほこり、砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。**
レンズ/ミラー/ファインダー	ほこりや糸くずは、ブロアーで払います。スプレー缶式のブロアーの場合は、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つける恐れがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずは、ブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがあるのでご注意ください。

☑ 液晶モニターが破損したときのご注意

液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片でけがをしないようにご注意ください。また、液晶が皮膚や口、目に付かないようにご注意ください。

☑ 表示パネルの明るさの変動についてのご注意

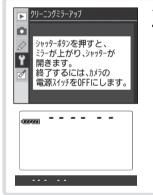
まれに、ブロアーや布から起きた静電気で、表示パネルが明るくなったり暗くなったりすることがありますが、故障ではありません。すぐに通常の状態に戻ります。

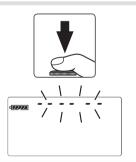
ローパスフィルターのお手入れ

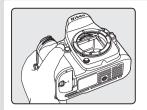
撮像素子の表面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付いていると、画像に影が写り込むことがあります。ローパスフィルターは以下の手順でクリーニングすることができますが、非常に傷つきやすいため、ニコンサービスセンターにクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

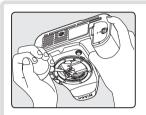
作業中のバッテリー切れを防ぐため、フル充電したバッテリー、または別売のACアダプター EH-5をお使いください。

1 セットアップメニュー（P.143）の「クリーニングミラーアップ」で「する」を選ぶ

※ バッテリー残量表示が 以下の場合、および単3形電池を電源としてMB-D80（別売）を装着している場合や、多重露出による撮影中はこのメニュー項目は操作できません。

2 OK ボタンを押す

- クリーニングミラーアップの待機状態になります。
- 液晶モニター、表示パネル、ファインダー内下部に左のように表示されます。
- クリーニングミラーアップの待機状態をキャンセルするには、電源をOFFにしてください。

3 シャッターボタンを押し込む

- ミラー（P.3）が上がり、シャッターが開いた状態になります。
- 表示パネルは左のような点滅表示になります。ファインダー内下部の表示は消灯します。

4 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、ステップ**6**にお進みください。

5 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブロアーで払う

- ブラシの付いていないブロアーをお使いください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービスセンターにクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

6 電源をOFFにし、付属のボディーキャップをつける

- ミラーが下がり、シャッター幕が閉じます。

✔ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕は、カメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、以下の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリーの残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、AF補助光が点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、ただちに作業を終了してください。

✔ 撮像素子表面ゴミ付着についてのご注意

ニコンデジタルカメラは撮像素子表面に付着するゴミについて、当社の品質基準に基づいて製造、出荷しています。しかし、D80はレンズ交換方式のため、レンズ交換の際にカメラ内にゴミが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子表面に付着したゴミが写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディーキャップを装着してください。その際、ボディーキャップのゴミも必ず除去してください。撮像素子表面に付着したゴミは、上記の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービスセンターにクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、別売のCapture NX（P.170）や画像加工アプリケーションなどで修正できます。

✔ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- とくに業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラと付属品の取り扱い上のご注意

カメラとレンズの取り扱い上のご注意

●強いショックを与えないでください
カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

●水にぬらさないでください
カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

●急激な温度変化を与えないでください
極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

●強い電波や磁気の発生する場所で撮影しないでください
強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しない場合があります。

●長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください
太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼きつきを起こす恐れがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

●カメラ本体のお手入れについて
カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

●ミラーやレンズの手入れ方法について
ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやホコリが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶方式のブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

●ローパスフィルターの手入れ方法について
ローパスフィルターのクリーニングの方法についてはP.172 をご覧ください。

●レンズの信号接点について
レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

●シャッター幕に触れないでください
シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

●風通しのよい場所に保管してください
カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

●長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管してください
カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液漏れなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

●バッテリーや AC アダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源を OFF にしてください
カメラの電源が ON の状態で、バッテリーの取り出しや AC アダプターの取り外しを行うと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

●液晶モニターについて
- 液晶モニターの特性上、常時点灯あるいは非点灯の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。予めご了承ください。また、記録される画像には影響ありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミ等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。
- カメラをご使用にならない場合や持ち運ぶ場合は、汚れ、傷を防ぐため液晶モニターに付属のモニターカバーを取り付けてください。

バッテリーの取り扱いについて

●接点の汚れについて

バッテリーの接点が汚れている場合は、乾いた布などで拭いてください。

●バッテリーに関する使用上のご注意

バッテリーの使用方法を誤ると液漏れにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。

- バッテリーはカメラの電源を OFF にしてから入れてください。
- バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるのでご注意ください。
- 必ず指定のバッテリーをお使いください。
- バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしないでください。
- カメラから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付けてください。

●撮影の前にバッテリーをあらかじめ充電してください

撮影の際は、バッテリーの充電を行ってください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていないので、ご注意ください。

●予備バッテリーを用意してください

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

●低温時には充分に充電されたバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意してください

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しない場合があります。低温時には充分に充電されたバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使える場合があります。

●バッテリーの残量について

電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源の ON ／ OFF を繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してご使用ください。

●充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しないでください

バッテリー性能が劣化します。

●バッテリーのリサイクルについて

充電を繰り返して劣化し使用できなくなったバッテリーは廃棄せず、再利用のためリサイクルにご協力ください。端子にテープなどを貼り付けて絶縁させてから、ニコンサービスセンターやリサイクル協力店へご持参ください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービスセンターにお問い合わせになる前に、以下の項目をご確認ください。

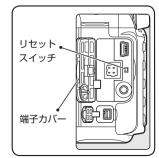
表示関連

症状	ここをご確認ください	ページ
ファインダー内がはっきり見えない	視度調節ダイヤルで調節してください。調節後も見え方が不充分な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いください。	P.21、168
ファインダー内が暗い	バッテリー残量は充分ですか？　バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量が無い場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります。	P.23、133
ファインダー内や表示パネル、液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう	カスタムメニュー「**27：液晶モニターのパワーオフ**」や「**28：半押しタイマー**」で、表示が消えるまでの時間を設定することができます。	P.132
表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しない	下記の「デジタルカメラの特性について」をご覧ください。	—
表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い	低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなる場合があります。	—
ファインダー内に線や模様が見える	液晶の特性上、フォーカスエリアなどから外側に延びる細い線が見えたり、フォーカスエリアを照明するときにファインダー内が赤くなる場合がありますが、いずれも故障ではありません。	—
画像再生時に、画像の一部がチカチカと点滅する	画像情報のハイライト表示になっています。	P.76
画像再生時に、画像と重なって文字が表示される	画像情報の撮影情報表示になっています。	P.75
画像再生時に、グラフが表示される	画像情報のRGBヒストグラム表示になっています。	P.76

撮影関連（全撮影モード共通）

症状	ここをご確認ください	ページ
電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる	SDカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。	—
シャッターがきれない	• 残量のあるSDカードが入っていますか？ • SDカードがロックされていませんか？ • 内蔵フラッシュの充電中はシャッターがきれません。 • ピント表示●は点灯していますか？ • Gタイプレンズ以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（もっとも大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。	P.23 P.19 P.27 P.26 P.13、160

デジタルカメラの特性についてのご注意

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し（ACアダプター使用時はいったん外してから付け直し）、もう一度をONにしてください。このときバッテリーが熱くなっていることがあるので、取り扱いには充分にご注意ください。状況が改善されない場合は、カメラの電源をOFFにして、リセットスイッチ（右図）を押してください。このときカメラの内蔵時計はリセットされます。さらに不具合が続く場合は、ニコンサービスセンターにお問い合わせください。

症状	ここをご確認ください	ページ
ファインダーで見た視野と、撮影される画像の範囲が違う	このカメラのファインダー視野率は上下左右とも約95%です。このため、ファインダーで見た視野よりも、やや広い範囲が撮影されます。	P.192
ピントが合わない	• マニュアルフォーカスになっていませんか？　オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードダイヤルを**AF**に合わせてください。 • 以下のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください。 明暗差がはっきりしない／遠くのものと近くのものが混在する／連続した繰り返しパターン／輝度差が著しく異なる／背景に対して主要被写体が小さい／絵柄が細かい	P.32 P.36、38
一部のメニュー項目が表示されない	セットアップメニュー「**メニュー表示切り換え**」を「**フルメニュー**」にしてください。	P.136
シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない	AFモードが**AF-C**のときや、**AF-A**や動いている被写体を撮影するときは、AE-L/AF-Lボタンでフォーカスをロックしてください。	P.34、36
画像サイズが変更できない	「**画質モード**」が「RAW」のときは、画像サイズを変更できません。	P.40
フォーカスエリアを選択できない	• フォーカスエリアロックスイッチが**L**（ロック）の位置になっていませんか？ • カスタムメニュー2「**AFエリアモード設定**」が「**オートエリアAFモード**」のときは、選択できません。 • 液晶モニターが点灯していませんか？　液晶モニターの点灯中はフォーカスエリアを選択できません。 • カメラが待機状態になっていませんか？フォーカスエリアを選択するには、シャッターボタンを半押しして待機状態を解除してください。	P.35 P.114 P.35 P.23
画像の記録に時間がかかる	撮影メニュー「**長秒時ノイズ低減**」が「**する**」になっていませんか？	P.108
画像がざらつく	• ISO感度が高くなっていませんか？ ISO400よりも高い感度で撮影する場合、撮影メニュー「**高感度ノイズ低減**」を「**しない**」以外にすれば、ざらつきを軽減できます。 • シャッタースピードが約8秒よりも低速な場合は、ノイズが発生しやすくなります。撮影メニュー「**長秒時ノイズ低減**」を「**する**」にして撮影すれば、ざらつきを軽減できます。	P.51、108 P.108
AF補助光ランプが光らない	• 撮影モード［風景］、［スポーツ］、［夜景］では、AF補助光は点灯しません。 • 次の場合、AF補助光は発光しません。 ・AFモードが**AF-C**のとき、または**AF-A**で自動的にAF-Cが選ばれたとき ・カスタムメニュー「**2：AFエリアモード設定**」が「**シングルエリアAFモード**」または「**ダイナミックエリアAFモード**」で、中央以外のフォーカスエリアが選択された場合 • カスタムメニュー「**4：内蔵AF補助光の照射**」が「**照射しない**」になっていませんか？ • AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に点灯が制限されます。少し時間をおくと再び点灯するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。	P.28-29 P.34 P.114 P.115 —
リモコンの送信ボタンを押しても撮影できない	• リモコンの電池残量はありますか？ • リモコンモードに設定されていますか？ • フラッシュの充電中は、シャッターがきれません • 送信ボタンを押す前にカスタムメニュー「**30：リモコン待機時間**」を過ぎると、リモコンモードはリセットされます。 • 極端な逆光状態では、リモコン撮影ができない場合があります。	P.170 P.46 P.27 P.132 —
画像にゴミが写り込む	• レンズが汚れていませんか？ • ローパスフィルターにゴミが付着していませんか？	P.171 P.172

撮影関連（撮影モード AUTO、、、、、、）

症状	ここをご確認ください	ページ
選択または設定できないメニュー項目がある	撮影モードによっては、設定できない機能があります。この場合、その項目は選択できません。	P.183

撮影関連（撮影モード P、S、A、M）

症状	ここをご確認ください	ページ
シャッターがきれない	• フラッシュの充電中は、シャッターがきれません • CPUレンズが装着されていますか？　非CPUレンズは撮影モード**M**以外ではお使いになれません。 • 撮影モード**M**でシャッタースピードを bulb または - - に設定し、そのまま撮影モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください。	P.27 P.161 P.57、59
設定できるシャッタースピードの範囲が狭い	フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**では、カスタムメニュー「**25：オートFP撮影**」を「**する**」にして、別売のスピードライトSB-800、SB-600、SB-R200を使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFPハイスピードシンクロが可能です。	P.191、131、163
画像の色合いがおかしい	• ホワイトバランスは正しく設定されていますか？ • 撮影メニュー「**仕上がり設定**」は正しく設定されていますか？	P.69 P.102
ホワイトバランスのプリセットデータが取得できない	被写体が明るすぎるか、暗すぎます。	P.72
ホワイトバランスのプリセットデータとして設定できない画像がある	D80以外のカメラで撮影した画像は、プリセットデータとして設定することはできません。	P.72、106
ホワイトバランス（WB）ブラケティング撮影ができない	• 画質モードが「**RAW**」、「**RAW＋FINE**」、「**RAW＋NORMAL**」、「**RAW＋BASIC**」の場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません。 • ホワイトバランスを **K**（色温度設定）に設定している場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません。 • ホワイトバランスブラケティングと多重露出による撮影を同時に行うことはできません。	P.40、120 P.71 P.109、119
仕上がり設定の効果が安定しない	「**仕上がり設定**」の「**カスタマイズ**」で、各項目を個別に設定してください。その際、「**輪郭強調**」、「**階調補正**」、「**彩度設定**」は「**オート**」以外にしてください。	P.102
測光モードが変更できない	AEロック中は測光モードを変更できません。	P.61、62
露出補正ができない	撮影モード**M**では露出補正を行っても、露出インジケーターの表示が変化するだけで、シャッタースピードと絞りは変化しません。	P.59
連続撮影できない	内蔵フラッシュが上がっているときは、連続撮影できません。	P.43、48
画像の一部が赤っぽくなる	シャッタースピードを bulb（バルブ）または - -（タイム）にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなることがあります。この現象は、撮影メニュー「**長秒時ノイズ低減**」を「**する**」にすることで軽減できます。	—

再生関連

症状	ここをご確認ください	ページ
画像の一部がチカチカと点滅する	画像情報のハイライト表示になっています。	P.76
画像と重なって文字が表示される	画像情報の撮影情報表示になっています。	P.75
グラフが表示される	画像情報のRGBヒストグラム表示になっています。	P.76
RAW画像が表示されない	画質モードを「**RAW＋FINE**」、「**RAW＋NORMAL**」、「**RAW＋BASIC**」にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません。	P.40
すべての画像が表示されない	再生メニュー「**再生フォルダー設定**」を「**全てのフォルダー**」にしてください。なお、「**全てのフォルダー**」にした後に撮影すると、「**再生フォルダー設定**」は自動的に「**記録中のフォルダー**」に変更されます。	P.96
画像の縦位置・横位置が正しく表示されない	• 再生メニュー「**縦位置自動回転**」が「**しない**」になっていませんか？ • セットアップメニュー「**縦横位置情報の記録**」が「**記録しない**」になっていませんか？ • 連続撮影したときの縦横位置は、最初の1コマを撮影した構図で固定されます。 • カメラを上向き・下向きにして撮影すると、姿勢情報が正しく得られない場合があります。	P.97 P.146 P.43 P.146
画像が削除できない	• SDカードがロックされていませんか？ • 画像にプロテクトが設定されていませんか？	P.19 P.79
「撮影画像がありません」と表示される	SDカードを交換直後に画像を再生するときは、再生メニュー「**再生フォルダー設定**」を「**全てのフォルダー**」にしてください。	P.96
プリント指定ができない	• SDカードがロックされていませんか？ • SDカードの空き容量が不足していませんか？	P.19 P.23
ダイレクトプリントができない	セットアップメニュー「**USB設定**」が「**PTP**」になっていますか？	P.86、139
RAW画像をプリントできない	RAW画像はパソコンに転送してから、付属ソフトウェアやCapture NXなどのソフトウェアを使ってプリントしてください。	P.82、170
画像がテレビに映らない	セットアップメニュー「**ビデオ出力**」が正しく設定されていますか？	P.139
画像をパソコンに転送できない	セットアップメニュー「**USB設定**」が正しく設定されていますか？	P.82、139
Camera Control Proでカメラを操作できない	セットアップメニュー「**USB設定**」が「**PTP**」になっていますか？	P.139、170

その他

症状	ここをご確認ください	ページ
撮影日時が正しく表示されない	カメラの内蔵時計は合っていますか？　カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時設定を行うことをおすすめします。	P.17、138
表示されているメニュー項目が選択できない	一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選択できない場合があります。 • SDカードをカメラに挿入していないときは、表示されない項目があります。 • セットアップメニュー「**電池チェック**」は電源に別売ACアダプターEH-5を使用している場合や、単3形電池を挿入した別売バッテリーパックMB-D80を装着している場合、選択できません。	—
一部のメニュー項目が表示されない	セットアップメニュー「**メニュー表示切り換え**」を「**フルメニュー**」にしてください。	P.136

警告メッセージ

表示パネル、ファインダー、液晶モニターに表示される警告メッセージの意味は以下の通りです。

表示パネル	ファインダー	原因	対処方法	ページ
FEE （点滅）	FEE （点滅）	レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	P.13、160
▭	▭	バッテリー残量が残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	P.15、23
▭ （点滅）	▭ （点滅）	• バッテリー残量がありません。 • バッテリーとの情報通信ができません。	• バッテリーを交換してください。 • このバッテリーは使用できません。	P.15、23 P.170
CLOCK （点滅）	—	内蔵時計の日時が設定されていません。	日時を設定してください。	P.17、138
Full （点滅）	Ful （点滅）	• SDカードの残量がありません。 • カメラが扱えるファイル数を超えています。	• 不要な画像を削除し、必要な画像はパソコンなどに転送してください。 • 別のカードに交換してください。	P.82、96 P.18
[-E-]	／[-E-]	SDカードが入っていません。	SDカードを正しく入れてください。	P.18
F-- （点滅）	F-- （点滅）	レンズが装着されていないか、非CPUレンズが装着されています。	• CPUレンズ（IXレンズを除く）を装着してください。 • 撮影モード**M**で撮影してください。	P.13、160 P.59
—	● （点滅）	オートフォーカスでピント合わせができません。	構図を変えるか、マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	P.38
Err （点滅）	Err （点滅）	撮影中に何らかの異常を検出しました。	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービスセンターにご相談ください。	P.201
HI	HI	被写体が明るすぎて、カメラの制御範囲を超えています。	• ISO感度を低くしてください。 • シャッタースピードをより高速側にしてください。 • 絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。 • 別売のND（光量調節用フィルター）をお使いください。	P.51 P.57、59 P.58、59 P.168
Lo	Lo	被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	• ISO感度を高くしてください。 • シャッタースピードをより低速側にしてください。 • 絞りを開いて（より小さい数値にして）ください。 • フラッシュをお使いください。	P.51 P.57、59 P.58、59 P.48
bulb （点滅）	bulb （点滅）	撮影モード**M**でシャッタースピードを bulb にしたまま、撮影モードが**S**に変更されました。	• bulb 以外のシャッタースピードに変更してください。 • 撮影モードを**M**にしてください。	P.59-60 P.58
-- （点滅）	-- （点滅）	撮影モード**M**でシャッタースピードを -- にしたまま、撮影モードが**S**に変更されました。	• -- 以外のシャッタースピードに変更してください。 • 撮影モードを**M**にしてください。	P.59-60 P.58

表示パネル	ファインダー	原因	対処方法	ページ
（点滅）	（点滅）	i-TTL調光に対応していない別売スピードライトの調光モードが、TTLモードになっています。	TTLモード以外の調光モードに変更してください。	P.166
—	（点滅）	• 露出不足になる恐れがあります。 • 発光直後に約3秒間点滅した場合は、露出不足の恐れがあります。	• フラッシュをお使いください。 • 撮影距離、絞り、調光範囲、ISO感度などを確認してください。	P.48 P.50、167、191

液晶モニター	表示パネル／ファインダー	原因	対処方法	ページ
カードが入っていません	[-E-]／ 、[-E-]	SDカードが入ってません。	SDカードを正しく入れてください。	P.18
このカードは使用できません	[CHA]（点滅）／ [CHA]（点滅）	• SDカードへのアクセス異常です。 • 新規フォルダーが作成できません。	• D80用のSDカードであるかどうかを確認してください。 • SDカードがこわれている可能性があります。ニコンサービスセンターにご相談ください。 • 不要な画像を削除し、必要な画像はパソコンなどに転送してください。 • 別のカードに交換してください。	P.18、169 P.201 P.30、82、96 P.18、169
このカードはフォーマットされていません **フォーマットしますか？**	[For]（点滅）／ [For]（点滅）	SDカードが正しくフォーマットされていません。	•「**はい**」を選んで OK ボタンを押し、SDカードを初期化してください。	P.19、138
撮影画像がありません	—／—	• 撮影画像がありません。 • 再生するフォルダーの指定に問題があります。	• 画像が記録されているSDカードに交換してください。 • 再生メニューの「**再生フォルダー設定**」で、表示可能な画像があるフォルダーを選んでください。	P.18 P.96
全て非表示です	—／—	記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニュー画面の「**非表示設定**」で、画像の非表示設定を解除してください。	P.100
このファイルは表示できません	—／—	• パソコンで編集した画像やDCF規格外の画像ファイルのため、再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。	パソコンで編集した画像を上書き保存しないでください。	—
カードがロックされています	[CHA]、 [0]（点滅）	SDカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	SDカードのロックを解除してください。	P.19
プリンターの状態を確認してください	—／—	プリンターのインクの残量が少なくなった、または無くなりました。	• プリンターのインクを交換してください。 • インクの残量がある場合は、プリンターの状態を確認してください。	P.92

資料集

以下のようなカメラの機能、各種データについてまとめています。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system（DCF）Version 2.0：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- DPOF（Digital Print Order Format）：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif Version 2.21：（Exif＝Exchangeable image file format for digital still cameras）：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報をいかして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。

撮影モード別：設定できる機能一覧

それぞれの撮影モードごとに、設定できる機能とできない機能をまとめました。表の見方は以下の通りです。

- ● ：設定できます。ツーボタンリセット（P.52）で初期設定に戻ります。
- ◎ ：設定できます。カスタムメニュー「**R：カスタムのリセット**」（P.113）で初期設定に戻ります。
- ○ ：設定できます。撮影モードを切り換えると初期設定に戻ります。
- △ ：設定できます。設定を元に戻さない限り、初期設定には戻りません。

無印：設定できません。

		AUTO							P	S	A	M
撮影メニュー	仕上がり設定								△	△	△	△
	画質モード	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	画像サイズ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ホワイトバランス								●	●	●	●
	ISO感度設定	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	長秒時ノイズ低減	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	高感度ノイズ低減	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	多重露出								●	●	●	●
撮影関連の設定	撮影動作モード	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	AFモード	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	● ○	●	●	●	●
	測光モード								●	●	●	●
	プログラムシフト								●			
	AEロック	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	露出補正								●	●	●	●
	オートブラケティング								●	●	●	●
	フラッシュモード	● ○	● ○	●※ ○	● ○	●※ ○	●※ ○	● ○	●	●	●	●
	調光補正								●	●	●	●
カスタムメニュー	1： 電子音設定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	2： AFエリアモード設定	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎	◎	◎	◎
	3： 中央フォーカスエリアフレーム	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	4： 内蔵AF補助光の照射	◎	◎		◎			◎	◎	◎	◎	◎

※別売のスピードライトを装着した場合に設定できます。

		AUTO							P	S	A	M
カスタムメニュー	5： カード無し時レリーズ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	6： 撮影直後の画像確認	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	7： 感度自動制御								◎	◎	◎	◎
	8： 格子線表示	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	9： ファインダー内警告表示	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	10：露出値ステップ幅	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	11：露出補正簡易設定								◎	◎	◎	◎
	12：中央部重点測光範囲								◎	◎	◎	◎
	13：オートブラケティングのセット								◎	◎	◎	◎
	14：BKT補正順序								◎	◎	◎	◎
	15：コマンドダイヤル変更								◎	◎	◎	◎
	16：ファンクションボタンの機能	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	17：イルミネーター点灯	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	18：AE-L/AF-Lボタンの機能	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	19：半押しAE　ロック	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	20：フォーカスエリア循環選択	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	21：フォーカスエリア照明	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	22：内蔵フラッシュ発光								◎	◎	◎	◎
	23：フラッシュ使用推奨表示								◎	◎	◎	◎
	24：フラッシュ時シャッタースピード制限								◎	◎	◎	◎
	25：オートFP撮影								◎	◎	◎	◎
	26：モデリング発光								◎	◎	◎	◎
	27：液晶モニターのパワーオフ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	28：半押しタイマー	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	29：セルフタイマー	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	30：リモコン待機時間	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	31：露出ディレーモード	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	32：MB-D80の電池設定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

撮影モード別：初期設定一覧

ご購入時のカメラの設定についてまとめました。

ツーボタンリセット（P.52）で初期設定に戻る項目

		AUTO							P	S	A	M
撮影メニュー	画質モード	NORMAL										
	画像サイズ	L										
	ホワイトバランス	——							オート			
	微調整値	——							解除（0）			
	色温度設定	——							5000K			
	ISO感度設定	AUTO							100			
	多重露出	——							解除			
撮影関連の設定	撮影動作モード	1コマ撮影										
	フォーカスエリア	——			中央		——		中央※1			
	フォーカスロック	解除										
	AEロックのホールド状態	解除										
	AFモード	AF-A										
	測光モード	——							マルチパターン測光			
	プログラムシフト	——							解除	——		
	露出補正	——							解除（0.0）			
	オートブラケティング	——							解除（0コマ）			
	フラッシュモード	※2		——	※2	——		※3	通常発光			
	調光補正	——							解除（0.0）			
	FVロック	——							解除			

※1 AFエリアモードが「オートエリアAFモード」のときはフォーカスエリアは表示されません。
※2 通常発光オート
※3 通常発光オート+スローシャッター

カスタムメニューR「カスタムのリセット」（P.113）で初期設定に戻る項目

		AUTO							P	S	A	M
カスタムメニュー	1： 電子音設定	する										
	2： AFエリアモード設定	※1			※2	※3	※1		シングルエリアAFモード			
	3： 中央フォーカスエリアフレーム	ノーマルフレーム										
	4： 内蔵AF補助光の照射	照射する		——	照射する	——		照射する				
	5： カード無し時レリーズ	レリーズ禁止										
	6： 撮影直後の画像確認	する										
	7： 感度自動制御	——							しない※4			
	8： 格子線表示	しない										
	9： ファインダー内警告表示	する										
	10： 露出値ステップ幅	1/3段										
	11： 露出補正簡易設定	——							しない			
	12： 中央部重点測光範囲	——							Φ8mm			
	13： オートブラケティングのセット	——							AE・フラッシュブラケティング			
	14： BKT補正順序	——							初期設定の順			
	15： コマンドダイヤル変更	——							しない			
	16： ファンクションボタンの機能	ISO感度表示										
	17： イルミネーター点灯	しない										
	18： AE-L/AF-Lボタンの機能	AE-L/AF-L										
	19： 半押しAEロック	しない										
	20： フォーカスエリア循環選択	しない										
	21： フォーカスエリア照明	AUTO										
	22： 内蔵フラッシュ発光	——							TTLモード			
	23： フラッシュ使用推奨表示	——							する			
	24：フラッシュ時シャッタースピード制限	——							1/60秒			
	25： オートFP撮影	——							しない			
	26： モデリング発光	——							しない			
	27： 液晶モニターのパワーオフ	20秒										
	28： 半押しタイマー	6秒										
	29： セルフタイマー	10秒										
	30： リモコン待機時間	1分										
	31： 露出ディレーモード	しない										
	32： MB-D80の電池設定	アルカリ単3形電池										

※1 オートエリアAFモード
※2 シングルエリアAFモード
※3 ダイナミックエリアAFモード
※4「**制御上限感度**」は「**1600**」、「**低速限界設定**」は「**1/30秒**」

画質モード・画像サイズと記録・連続撮影可能コマ数（P.40、41、43）

画質モードと画像サイズの組み合わせによって、1GBのSDカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、以下のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数	連続撮影可能コマ数※2
RAW＋FINE※3	L	約17.2MB	54コマ	6コマ
	M	約15.1MB	63コマ	6コマ
	S	約13.6MB	72コマ	6コマ
RAW＋NORMAL※3	L	約14.8MB	65コマ	6コマ
	M	約13.8MB	71コマ	6コマ
	S	約13MB	76コマ	6コマ
RAW＋BASIC※3	L	約13.6MB	72コマ	6コマ
	M	約13MB	76コマ	6コマ
	S	約12.7MB	78コマ	6コマ
RAW	—	約12.4MB	82コマ	6コマ
FINE	L	約4.8MB	133コマ	23コマ
	M	約2.7MB	233コマ	100コマ
	S	約1.2MB	503コマ	100コマ
NORMAL	L	約2.4MB	260コマ	100コマ
	M	約1.3MB	446コマ	100コマ
	S	約0.6MB	918コマ	100コマ
BASIC	L	約1.2MB	503コマ	100コマ
	M	約0.7MB	867コマ	100コマ
	S	約0.3MB	1500コマ	100コマ

※1 Panasonic製 Pro HIGH SPEED SDメモリーカードを使用した場合。

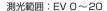
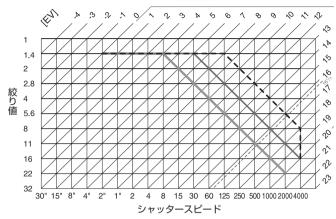
※2 ISO感度が100の場合の数値です。連続撮影可能コマ数は次のような場合、減少します。
- 高感度ノイズ低減が機能した場合
- 撮影メニューの「**長秒時ノイズ低減**」を「**ON**」にした場合

※3 画像サイズはJPEG画像のものです（RAW画像の画像サイズは指定できません）。ファイルサイズはRAW（圧縮）画像とJPEG画像の合計です。

付録 資料集

撮影モード P のプログラム線図（P.56）

以下のグラフは、撮影モード**P**の露出制御プログラム（ISO100の場合）を表しています。

f（レンズの焦点距離）≦55mmの場合
55mm＜f≦135mmの場合
135mm＜fの場合

- ISO感度に応じた測光範囲によって、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO100の場合16⅓を超えるEV値では、すべて16⅓として制御されます。

撮影コマ数と補正段数の組み合わせ

ブラケティング撮影（P.66）設定時の表示パネルの見方は以下の通りです。

【撮影コマ数とブラケティングバーグラフ】

撮影コマ数	ブラケティングバーグラフ	意味
3F	+◀■▶−	「補正なし」→「−側に補正」→「＋側に補正」の順に３コマ撮影します※
+2F	+◀■	「補正なし」→「＋側に補正」の順に２コマ撮影します※
--2F	■▶−	「補正なし」→「−に補正」の順に２コマ撮影します※

※ 撮影順は、カスタムメニュー「**14：BKT補正順序**」が「**初期設定の順**」のときの内容です。「**−側から＋側へ**」に変更すると、−側から＋側への順番になります。

【補正段数】

補正段数は、ブラケティング撮影の種類や、カスムメニュー「**10：露出値ステップ幅**」の設定によって以下のように異なります。

AE・フラッシュ／ AE ／フラッシュブラケティング

（露出値ステップ幅が「1/3段」のとき）

補正段数	意味
0.3	1/3 段
0.7	2/3 段
1.0	1 段
1.3	1 1/3 段
1.7	1 2/3 段
2.0	2 段

（露出値ステップ幅が「1/2段」のとき）

補正段数	意味
0.5	1/2 段
1.0	1 段
1.5	1 1/2 段
2.0	2 段

WBブラケティング

補正段数	意味
1	1 段
2	2 段
3	3 段

ホワイトバランスの色温度（P.71）

各ホワイトバランスと、それぞれのホワイトバランスを微調整した場合の色温度は以下の通りです。写真用カラーメーターで測定した色温度値とカメラの設定色温度は異なる場合があります。

	微調整なし	微調整した場合の色温度					
		－3	－2	－1	＋1	＋2	＋3
A オート	約3500～8000K	基準となるホワイトバランスに応じて、微調整時の色温度は変化します					
電球	約3000K	約3300K	約3200K	約3100K	約2900K	約2800K	約2700K
蛍光灯※	約4200K	約7200K	約6500K	約5000K	約3700K	約3000K	約2700K
晴天	約5200K	約5600K	約5400K	約5300K	約5000K	約4900K	約4800K
フラッシュ	約5400K	約6000K	約5800K	約5600K	約5200K	約5000K	約4800K
曇天	約6000K	約6600K	約6400K	約6200K	約5800K	約5600K	約5400K
晴天日陰	約8000K	約9200K	約8800K	約8400K	約7500K	約7100K	約6700K
K 色温度設定	約2500～9900K	微調整はできません					
PRE プリセット	—	微調整はできません					

※「**蛍光灯**」の微調整値は、以下のように、蛍光灯の種類に対応した色温度になっています。

	色温度	適した蛍光灯
＋3	約2700K	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光など
＋2	約3000K	電球色蛍光灯
＋1	約3700K	温白色蛍光灯
±0	約4200K	白色蛍光灯
－1	約5000K	昼白色蛍光灯
－2	約6500K	昼光色蛍光灯
－3	約7200K	高色温度の水銀灯など

フラッシュ撮影時の発光量制御について（P.48、160）

CPUレンズをお使いの場合、内蔵フラッシュの発光量は、以下の２種類の制御方式のどちらかで決定されます。通常はi-TTL-BL調光ですが、測光モード（P.61）を「スポット測光」にした場合は、スタンダードi-TTL調光になります。

i-TTL-BL調光	マルチパターン測光による測光情報を元に、メインの被写体と背景のバランスを考慮して発光量を決定します。
スタンダードi-TTL調光	背景の明るさを考慮せず、メインの被写体を基準にして発光量を決定します。メインの被写体の明るさを重視する場合や、露出を補正する場合に適しています。

別売スピードライトSB-800、SB-600をお使いの場合も、内蔵フラッシュと同様に、通常はi-TTL-BL調光に、測光モード（P.61）を「スポット測光」にすると、スタンダードi-TTL調光になります。

内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限（P.48）

AUTO オート	1/200～1/60秒
ポートレート	1/200～1/60秒
クローズアップ	1/200～1/125秒
夜景ポートレート	1/200～1秒

P	1/200～1/60秒※
S	1/200～30秒
A	1/200～1/60秒※
M	1/200～30秒

※ カスタムメニュー24「**フラッシュシャッター制限**」を使用すると、シャッタースピードの低速側を1/60秒～30秒の範囲で１段ステップごとに設定することができます。ただし、スローシャッターを組み合わせたフラッシュモードでは、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

内蔵フラッシュの調光範囲（光の届く範囲）と限界絞り値（P.48）

内蔵フラッシュはISO感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度および絞り値													調光範囲 (m)
100	125	160	200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600	
1.4	1.6	1.8	2	2.2	2.5	2.8	3.2	3.5	4	4.5	5	5.6	1～9.2
2	2.2	2.5	2.8	3.2	3.5	4	4.5	5	5.6	6.3	7.1	8	0.7～6.5
2.8	3.2	3.5	4	4.5	5	5.6	6.3	7.1	8	9	10	11	0.6～4.6
4	4.5	5	5.6	6.3	7.1	8	9	10	11	13	14	16	0.6～3.2
5.6	6.3	7.1	8	9	10	11	13	14	16	18	20	22	0.6～2.3
8	9	10	11	13	14	16	18	20	22	25	29	32	0.6～1.6
11	13	14	16	18	20	22	25	29	32	—	—	—	0.6～1.1
16	18	20	22	25	29	32	—	—	—	—	—	—	0.6～0.8

※ 内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

撮影モードにより、内蔵フラッシュ使用時にカメラが自動で設定する限界絞りは、使用する感度によって下表のように制御されます。

撮影モード	ISO感度と開放側の限界絞り（F）												
	100	125	160	200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600
P AUTO	2.8	3	3.2	3.3	3.5	3.8	4	4.2	4.5	4.8	5	5.3	5.6
	4	4.2	4.5	4.8	5	5.3	5.6	6	6.3	6.7	7.1	7.6	8

※ 感度１段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

主な仕様

項目		仕様
型式		レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
有効画素数		10.2メガピクセル
撮像素子		23.6×15.8mmサイズ 総画素数：10.75メガピクセル
	記録画素数	3872×2592ピクセル（L）、2896×1944ピクセル（M）、 1936×1296ピクセル（S）
レンズマウント		ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
交換レンズ		
	GまたはDタイプレンズ	フル機能使用可能（IXニッコールを除く）
	PCマイクロニッコール 85mm F2.8D	オートフォーカスおよび露出モードの一部を除く機能使用可能
	GまたはDタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	3D-RGBマルチパターン測光IIを除く機能使用可能
	AI-Pニッコール	3D-RGBマルチパターン測光IIおよびオートフォーカスを除く機能使用可能
	非CPUレンズ	撮影モード**M**で可（ただし、露出計は使用不可）、開放F値がF5.6より明るい場合フォーカスエイド可能
実撮影画角		レンズ表記の約1.5倍の焦点距離のレンズに相当
ファインダー		アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
	視度調節機構	$-2\sim+1\,\mathrm{m}^{-1}$
	アイポイント	19.5 mm（$-1.0\,\mathrm{m}^{-1}$のとき）
	ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンII（フォーカスフレーム付、構図用格子線表示可能）
	ファインダー視野率	上下左右とも約95%（対実画面）
	ファインダー倍率	約0.94倍（50 mm F 1.4レンズ使用時・∞・$-1.0\,\mathrm{m}^{-1}$のとき）
ミラー		クイックリターン式
レンズ絞り		瞬間復元式、電子制御式、プレビューボタン付
フォーカスエリア		11カ所のフォーカスエリアから1カ所を選択可能
レンズサーボ		オートフォーカス：シングルAFサーボ（AF-S）、コンティニュアスAFサーボ（AF-C）、AF-S/AF-C自動切り換え（AF-A）を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 マニュアルフォーカス可能
オートフォーカス		TTL位相差検出方式、マルチCAM1000オートフォーカスセンサーモジュールにより検出
	検出範囲	－1～＋19EV（ISO100換算、20℃）
	AFエリアモード	シングルエリアAFモード、ダイナミックエリアAFモード、オートエリアAFモード
	フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押しにて可能

露出		
	測光方式	TTL開放測光方式
	マルチパターン測光	GまたはDタイプレンズ使用時は420分割RGBセンサーによる3D-RGBマルチパターン測光IIが可能、GまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時は420分割RGBセンサーによるRGBマルチパターン測光IIが可能
	中央部重点測光	φ8mm相当を測光（中央部重点度約75%）、φ6mm、φ10mmのいずれかに変更可能
	スポット測光	約φ3.5mm相当を測光（全画面の約2.5%）、フォーカスエリアに連動して測光位置可動
	測光範囲	0～20EV（マルチパターン測光、中央部重点測光） 2～20EV（スポット測光） （ISO100換算、20℃、F1.4レンズ使用時）
	露出計連動	CPU連動方式
	露出モード	11種：AUTO：オート、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景、夜景ポートレート、**P**：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能）、**S**：シャッター優先オート、**A**：絞り優先オート、**M**：マニュアル
	露出補正	±5段の範囲で1/3、1/2段ステップで補正可能
	オートブラケティング	AE、フラッシュブラケティングの場合、撮影コマ数：2コマまたは3コマ、補正ステップ：1/3、1/2段ステップで可能　ホワイトバランス（WB）ブラケティングの場合、撮影コマ数：2コマまたは3コマ、補正ステップ：1段ステップで可能
	AEロック	AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式

シャッター		電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
	シャッタースピード	30～1/4000秒（1/3、1/2段ステップ）、bulb、タイム

ISO感度（推奨露光指数）	ISO 100～1600、ISO 1600に対し約1段まで増感可能（1/3段ステップ）
ホワイトバランス	オート（420分割RGBセンサー、撮像素子併用によるホワイトバランス）、マニュアル6種（それぞれ補正が可能）、色温度設定可能、プリセット可能、ホワイトバランスブラケティング可能

内蔵フラッシュ		AUTO、ポートレート、クローズアップ、夜景ポートレートモード時：オートポップアップ方式による自動発光 **P**、**S**、**A**、**M**モード時：押しボタン操作による手動ポップアップ方式
	ガイドナンバー	約13（ISO100・m、20℃）

調光		
	シンクロ同調	X接点（半導体方式）、1/200秒以下の低速シャッタースピードでフラッシュと同調
	調光方式	420分割RGBセンサーによる以下のTTL調光制御： - 内蔵フラッシュ、SB-800またはSB-600と、スポット測光以外の測光モードの組み合わせ時に、i-TTL-BL調光可能 - 内蔵フラッシュ、SB-800またはSB-600と、スポット測光の組み合わせ時に、スタンダードi-TTL調光可能（SB-800、SB-600使用時はスピードライト側でも設定可能） 絞り連動外部自動調光：SB-800とCPUレンズとの組み合わせ時 外部自動調光：SB-800、SB-80DX、SB-28DX、SB-28、SB-27、SB-22Sなどとの組み合わせ時 距離優先マニュアル調光：SB-800との組み合わせ時
	フラッシュモード	、、モード時：内蔵フラッシュ使用時に「通常発光オート」、「赤目軽減オート」が設定可能、別売スピードライト使用時に「通常発光」、「赤目軽減」が設定可能 モード時：内蔵フラッシュ使用時に「通常発光オート＋スローシャッター」、「赤目軽減オート＋スローシャッター」が設定可能、別売スピードライト使用時に「通常発光＋スローシャッター」、「赤目軽減＋スローシャッター」が設定可能 、、モード時：別売スピードライト装着時に「通常発光」、「赤目軽減」が設定可能 **P**、**A**モード時：「通常発光」、「通常発光＋スローシャッター」、「赤目軽減発光」、「赤目軽減発光＋スローシャッター」、「後幕発光＋スローシャッター」が設定可能 **S**、**M**モード時：「通常発光」、「赤目軽減発光」、「後幕発光」が設定可能
	レディーライト	内蔵フラッシュ、SB-800、SB-600、SB-80DX、SB-28DX、SB-50DX、SB-28、SB-27、SB-22Sなど使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
	アクセサリーシュー	ホットシュー装備：シンクロ接点、レディー信号接点、モニター信号接点、TTL調光ストップ信号接点、GND付、セーフティロック機構（ロック穴）付
	クリエイティブライティングシステム	• SB-800、SB-600、SB-R200との組み合わせによりアドバンストワイヤレスライティング（SB-600、SB-R200はリモートのみ）可能。コマンダーモードに設定時に、内蔵フラッシュをマスターフラッシュとして制御可能 • オートFPハイスピードシンクロ、発光色温度情報伝達、モデリング発光、FVロックに対応

記録		
	記録媒体	SDメモリーカード、SDHC対応
	記録画像ファイル形式	DCF2.0（Design Rule for Camera File Systems）準拠、 DPOF（Digital Print Order Format）準拠
	圧縮	• 12ビットRAW圧縮（約50～60％圧縮） • JPEG baseline準拠

セルフタイマー	電子制御式、作動時間2、5、10、20秒に設定可能
プレビュー	CPUレンズ装着時に、プレビューボタンによる絞り込み可能、**A**、**M**モードでは設定絞り値まで絞り込み可能、、、、、、、、**P**、**S**モードでは制御絞り値まで絞り込み可能
液晶モニター	2.5型低温ポリシリコンTFT液晶、約23万画素、 明るさ調整可能
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能
外部インターフェース	USB2.0 Hi-Speed
三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222規格）
ファームウェアバージョンアップ	ユーザーによるファームウェアバージョンアップ可能
表示言語	ドイツ語、英語、スペイン語、フィンランド語、フランス語、イタリア語、オランダ語、ポーランド語、ポルトガル語、ロシア語、スウェーデン語、繁体中国語、簡体中国語、日本語、韓国語から選択可能

電源	• Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e：電圧DC 7.4V［クイックチャージャー MH-18a］使用 • マルチパワーバッテリーパックMB-D80（別売）：Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e 1個、または2個。単3形電池（LR6アルカリ電池、HR6ニッケル水素充電池、FR6リチウム電池、ZR6ニッケルマンガン電池）6本使用 • ACアダプター EH-5（別売）
寸法（W×H×D）	約132×103×77mm
質量（重さ）	約585g（バッテリー本体、SDカード、ボディーキャップ、液晶モニターカバーを除く）
動作環境	
温度	0～40℃
湿度	85％以下（結露しないこと）

クイックチャージャー MH-18a	
電源	AC 100～240V（50/60Hz）
充電出力	DC 8.4V ／ 900mA
適用充電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e
充電時間	約2時間15分
使用温度	0～＋40℃
寸法（W×H×D）	約90×35×58mm
電源コード	長さ約1.8m、日本国内専用AC 100V対応
質量（重さ）	約80g（電源コードを除く）

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e	
形式	リチウムイオン充電池
定格容量	7.4V、1500mAh
寸法（W×H×D）	約39.5×56×21mm
質量（重さ）	約80g（端子カバーを除く）

レンズAF-S DX ズームニッコールED 18－135mm F3.5－5.6G（IF）（別売）	
型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-S DX ニッコールズームレンズ（ニコンデジタル一眼レフカメラ[ニコンDXフォーマット]専用）
焦点距離	18～135mm
最大口径比	1:3.5～5.6
レンズ構成	13群15枚（EDレンズ1枚、非球面レンズ2枚）
画角	76°～12°
焦点距離目盛	18、24、35、50、70、105、135mm
撮影距離情報	カメラボディーへの撮影距離情報出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能 このレンズは、A-M切り換えスイッチが**A**の位置でもマニュアルフォーカス撮影ができます。カメラのAFモードをAF-Sにして、オートフォーカスでピントが合ってから、シャッターボタンを半押しのままでフォーカスリングを回転させると、ピントを調整できます。オートフォーカスの作動中には、フォーカスリングを回転させないでください。
最短撮影距離	0.45m（ズーム全域）
絞り羽根枚数	7枚（円形絞り）
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲	焦点距離18mm時：F3.5～22、135mm時：F5.6～38
測光方式	開放測光
フィルターサイズ	φ67mm（P＝0.75mm）
寸法	約73.5（最大径）×86.5mm（バヨネットマウント基準面からレンズ先端まで）
質量（重さ）	約385g
付属レンズフード	HB-32 ＜レンズフードの取り付け方＞ ① ②
使用できないアクセサリー	• テレコンバーター：全種類 • オート接写リング：PKリング全種類 • Kリング：全種類 • オートリング：BR-4 • ベローズアタッチメント：全種類 • アタッチメントリングSX-1 * その他のアクセサリーでも、使用できない場合があります。アクセサリーの使用説明書をご確認ください。

✓ 仕様についてのご注意

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（20℃）フル充電バッテリー使用時のものです。
- 仕様や性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

✓ 撮影可能コマ数（電池寿命）について

参考値：Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3e（1500mAh）による撮影可能コマ数（電池寿命）の目安

※ 充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。

- 測定条件は当社条件（20℃）によります。
- 記載されている数値は下記の当社試験条件によるものです。撮影状況により数値は前後します。

1）約2700コマ

装着レンズAF-S DXズームニッコールED 18－135mm F3.5－5.6G（IF）、動作モード ▣（連続撮影）、フォーカスモードAF、AFモードAF-C、画質モードBASIC、画像サイズM、シャッタースピード1/250秒でシャッターの半押しを3秒間持続させた後、無限遠から至近間を3往復し、6回連続レリーズした後、液晶モニターを5秒間点灯。消灯後、半押しタイマーがオフになるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施。

2）約600コマ

装着レンズAF-S DXズームニッコールED 18－135mm F3.5－5.6G（IF）、撮影動作モード S（1コマ撮影）、フォーカスモードAF、AFモードAF-C、画質モードNORMAL、画像サイズL、シャッタースピード1/250秒でシャッターの半押しを5秒間持続させた後、無限遠から至近間を1往復し、1回レリーズ（2回に1回は内蔵フラッシュをフル発光）した後、液晶モニターを4秒間点灯。消灯後、半押しタイマーがオフになるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施。

注1）内蔵フラッシュ発光時にはAF補助光を発光させる。
注2）10コマ撮影後、カメラの電源を1分間OFFにする。

次の場合はバッテリーの消耗が早くなります。

- 液晶モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAWに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3eの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにご使用ください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。
- 定期的にセットアップメニューの「**電池チェック**」（P.145）で、バッテリーの状態をご確認いただくことをおすすめします。
- バッテリーの特性上、カメラで表示される電池残量の減り方は、周囲の温度などによって変化します。

索引

記号

英数

あ

か

付録 索引

さ

た

な

付録　索引

アフターサービスのご案内

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理についてご質問がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

●お願い

- 次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上、お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAX または郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービスセンターにご依頼ください。

- ニコンサービスセンターにつきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご参照ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店またはニコンサービスセンターにご相談ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後 7 年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後でも修理可能な場合がありますので、ご購入店またはニコンサービスセンターへお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービスセンターにお任せください。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を下記アドレスのホームページでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行
FAX:03－5977－7499

【お問い合わせ承り書】

太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：	年　　月　　日
お買い上げ日：	年　　月　　日
製品名：	シリアル番号：
フリガナ お名前：	
連絡先ご住所：□自宅　□会社 〒 TEL: FAX:	
ご使用のパソコンの機種名： メモリー容量： OSのバージョン： その他接続している周辺機器名： ご使用のアプリケーションソフト名： ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：	 ハードディスクの空き容量： ご使用のインターフェースカード名：
問題が発生したときの症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）	

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

製品の使い方と修理に関するお問い合わせ

<ニコンカスタマーサポートセンター>

全国共通
☎0570-02-8000
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30～18:00（年末年始、夏期休暇等を除く毎日）
携帯電話、PHS 等をご使用の場合は、**03-5977-7033** におかけください。
FAX でのご相談は、**03-5977-7499** におかけください。

音声によるご案内に従い、ご利用窓口の番号を入力してください。お問い合わせ窓口の担当者がご質問にお答えいたします。

修理サービスのご案内

修理サービスのご案内を下記URLにて行っております。
インターネットを利用して修理サービスの申し込みができます。
「修理見積り」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/service/repair/index.htm

<インターネットを利用できない方のお問合せ>

ニコンカメラ販売(株)　サービス部　電話　045–500–3050
営業時間　9:30～17:30　(土·日曜日、祝日、年末年始、夏期休業などを除く毎日)

株式会社ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

Printed in Thailand
6MBA6710-02